

# 朝霞市公共施設白書

公共施設の「今」を知り、「明日」を考える

平成26年10月  
朝霞市



# 目次

はじめに	3
第1章 この白書について	4
1 公共施設白書の位置づけ	4
2 現状把握のための考え方	4
3 白書で取り扱う建物	5
4 用語解説	8
第2章 朝霞市の概要	9
1 市の概要	9
2 人口の推移	9
3 財政状況	12
4 地区ごとの状況	16
第3章 公共施設の現状	19
1 施設整備状況	19
2 利用状況	24
3 維持費用	27
4 地区ごとの状況	29
第4章 各施設の現状と課題	31
1 市民文化系施設	31
2 社会教育系施設	51
3 スポーツ・公園系施設	59
4 産業系施設	70
5 学校教育系施設	75
6 子育て支援系施設	100
7 保健・福祉系施設	128
8 行政系施設	138
9 駐車場・駐輪場	144
10 その他の施設	147
11 用途廃止された施設	153

第5章 公共施設の課題	160
1 維持費用の負担増	160
2 老朽化の進行	161
3 建替え費用の確保	162
4 事後保全から予防保全への転換	163
5 効率的な管理体制の構築	164
第6章 将来の費用推計	165
1 更新費用の推計	165
2 改修費用の推計	167
3 更新・改修費用の合計	169
4 コスト縮減策の検討	169
おわりに	172

## はじめに

朝霞市は、東京都心まで 20km 圏内の立地条件にあり、鉄道や道路などの交通利便性が高まってきた一方で、武蔵野の面影が残る自然環境の豊かなまちとして発展を続けてきました。このような中で、市民の皆さんの多様なニーズに応えるために、小・中学校をはじめ、文化・スポーツ施設、健康・福祉施設など、様々な公共施設を整備してきました。

しかし、これらの施設の中には、築年数が 30 年を超えるものが存在しており、より長期間にわたり建物を安全で快適な状態で使用し続けるためには、大規模改修や建替えなどを適切に実施していく必要があります。特に近い将来、建替えを同時期に行わなければならないという懸念もあります。さらには今後、人口の減少や年齢構成の変化に伴い、公共施設へのニーズの質が大きく変化することが予想されることから、建物の用途転換なども含めた、公共施設の柔軟な運営が求められるものと考えられます。

一方で、市の財政状況としては、近年、税収の伸びが低迷する中で、社会保障関係を中心に歳出が増加しており、経費縮減に努めているものの、財政運営は厳しさを増しています。このような中で、施設の整備や改修に充てる経費を捻出することは、以前にも増して難しくなるものと予想されます。

このような状況に対応するため、これまでの「施設類型ごとの計画で、改築・更新を行う」という考え方から、「市の公共施設全体の視点から最適化した計画で、既存の施設を活用する」という考え方へと大きく転換を図り、中長期的視点での財政負担の軽減や、年度ごとの財政負担平準化を目指す必要があります。

公共施設の新しい姿を考えるにあたり、市では「現状の把握」と「今後の方針」の2段階に分けて、様々な角度から検討を行うことにしました。この「朝霞市公共施設白書」は、「現状の把握」を主な内容として、市の公共施設の抱える課題を整理し、市民の皆さんに分かりやすくお伝えすることを目的としています。この白書が、公共施設の現状を正しくご理解いただく一助となることを期待しております。

# 第1章 この白書について

## 1 公共施設白書の位置づけ

### ○他の計画との関連

この「朝霞市公共施設白書」は、国が策定した「インフラ長寿命化基本計画」を踏まえ、各自治体ごとに策定する「朝霞市公共施設等総合管理計画」の一部を構成するものです。この「朝霞市公共施設等総合管理計画」は、市の上位計画である「第4次総合振興計画」とも関連付けられます。

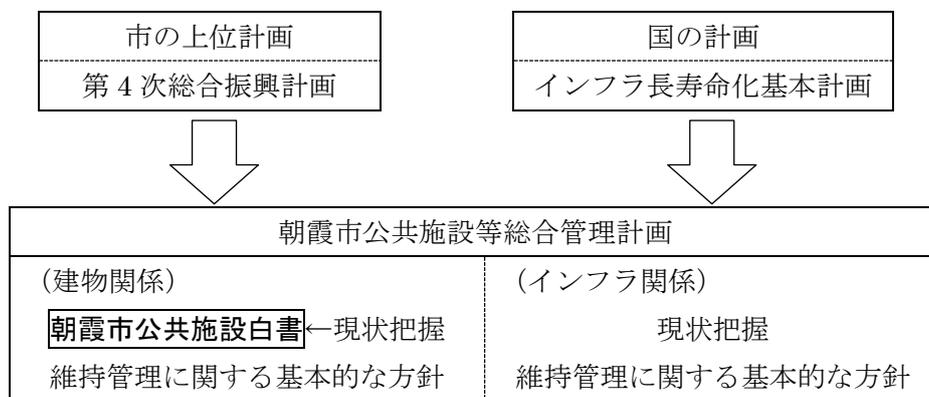


図 1-1 : 公共施設白書の位置づけ

## 2 現状把握のための考え方

公共施設の現状を正しく把握するためには、「建物」と「事業（中で行われること）」を分けて考えることが大切です。

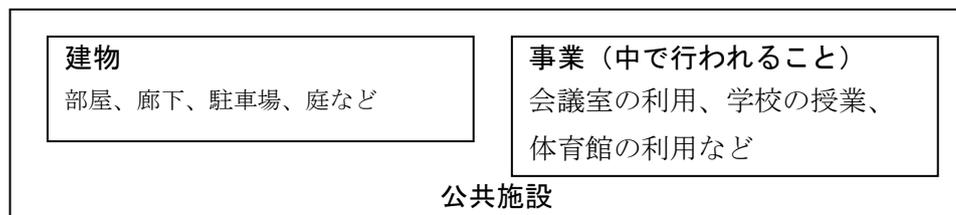


図 1-2 : 公共施設の現状把握のための考え方

### 3 白書で取り扱う建物

#### ○白書の記述対象範囲

この白書では、現状の把握と将来費用の推計対象として、表 1-1 に示すような建物を対象としました。

表 1-1：所有・維持管理区分による記述対象範囲

	市が維持管理	市以外が維持管理
市が 所有	(A) 市が所有し、市が維持管理する。 ※ほとんどの施設が該当	(B) 市が所有し、市以外へ貸し付けている。 ※市民センター併設の自治会館、朝霞 消防署など
市以外が 所有 (借家)	(C) 市が借用し、市が維持管理する。 ※朝霞駅前出張所、浜崎保育園など	現時点では該当なし

この白書では、「(A) 市が所有し、市が維持管理する」ものはすべて記述対象としました。ここでいう「所有」とは、建物の所有を指しますので、敷地の一部または全部を借地した上に市が自ら建物を建設している場合も (A) に属します。

「(B) 市が所有し、市以外が維持管理」しているもので、市民センター併設の自治会館など、(A) と一体になっている建物は記述対象としています。単独の建物は、朝霞地区一部事務組合に貸し付けているものなどがあり、これらは記述対象外としました。

また、「(C) 市が借用し、市が維持管理」するものについては、使用状況や維持費用など基礎的なデータのみ掲載しています。なお、将来市へ所有権を移転することを前提として建物をリースしている場合は、(A) と同じ扱いにしました。

道路、橋梁、上水道、下水道、上下水道の関連施設、クリーンセンターについては、この白書の対象外としています。なお、公共施設等総合管理計画の中でこれらの施設に関する記述がなされる予定です。

また、公園内のトイレなどの小規模な建物については、所在を明らかにする程度の情報のみ掲載しています。

表 1-2 に、朝霞市が関係する公共施設と、その中で白書で取り扱う範囲を示します。それぞれの施設の中で主要な棟を対象として集計しており、延床面積は財産台帳をもとに記載しています。

表 1-2：朝霞市が関係する公共施設と白書の取り扱い範囲

分野	大分類	中分類	具体的な例	白書
一般 施設	市民文化系施設	公民館	中央公民館（コミュニティセンターを含む）、内間木公民館など	○
		市民センター	膝折市民センターなど	○
		市民会館	市民会館	○
	社会教育系施設		図書館、博物館など	○
	スポーツ・公園系 施設	建物	総合体育館、陸上競技場など	○
			管理事務所、トイレなど	△
		建物以外	遊具、敷地など	×
	産業系施設		産業文化センターなど	○
	学校教育系施設	小学校	第一～第十小学校	○
		中学校	第一～第五中学校	○
		その他	浜崎学校給食センターなど	○
	子育て支援系 施設	保育園	宮戸保育園など	○
		児童館	きたはら児童館など	○
		放課後児童クラブ	朝志ヶ丘放課後児童クラブなど	○
	保健・福祉系施設		特別養護老人ホーム、総合福祉センター、保健センターなど	○
	行政系施設	庁舎等	市役所、内間木支所など	○
			消防団詰所など	△
		消防施設	朝霞消防署、浜崎分署 （一部事務組合へ貸付）	×
			倉庫等	備蓄倉庫、水防倉庫など
	駐車場・駐輪場		自転車駐車場など	△
その他	斎場、リサイクルプラザなど		○	
	公衆トイレなど		△	
用途廃止施設		旧朝霞第四小学校など	○	
処理 施設	供給処理施設	市所有	クリーンセンターなど	×
		一部事務組合	下水処理場など	×
基盤 施設	普通会計		道路、橋梁など	×
	企業会計		上水道、下水道など	×
他	未利用地		保留地など	×

注記：「白書」の欄は、○が記述あり、△が一部データのみ記述あり、×は記述なしです。

注記：一般施設の分類方法は、総務省の「更新費用試算ソフト」に準拠し、分類の難しい「スポーツ・レクリエーション系施設」と「公園」については、「スポーツ・公園系施設」として統合しました。

### ○白書のデータについて

この白書に示すデータは、調査時点の関係で、平成 24 年度のデータが基本となっています。複合施設については、利用状況は各施設ごとに記述していますが、維持費用は代表的な施設に集約しました。

## 4 用語解説

本文中に繰り返し使用している用語のうち、主なものの意味を以下に示します。

- ・ 施設 敷地、建築物、建築設備、駐車場や駐輪場など、構成するすべての要素をまとめたものをいいます。
- ・ 公共施設 市が所有又は借用して運営している施設の総称です。指定管理者により運営している施設も含まれます。  
注：総務省の定義では、「公共施設」には道路、橋梁、上下水道などを含むものとされていますが、この白書ではこれらのインフラを含まない狭義の公共施設を指すものとします。
- ・ 指定管理者 公共施設の管理や運営を、民間などに行わせる制度です。市は、施設の管理運営に必要な経費を指定管理料としてまとめて支払います。
- ・ 施設類型 公共施設を、目的や使い方などで分類してグループ分けした状態をいいます。表 1-2 での「大分類」に該当します。
- ・ 修繕 施設の破損した部分を元の状態に復旧することをいいます。
- ・ 改修 経年劣化などにより機能低下した部分を新たに作り直して、元の状態以上となるように改善することをいいます。
- ・ 大規模改修 一部分だけでなく、建物内の多くの場所を対象として行う改修のことをいいます。建物本来の寿命まで健全な状態で使えるように実施される例も多くみられます。
- ・ 延床面積 建物の規模を表すために、各階の床面積を合計した数値です。例えば、100 m<sup>2</sup>のフロアが 5 階まであれば、延床面積は 500 m<sup>2</sup>の建物ということになります。
- ・ 維持費用 建物を管理運営する上において必要な費用をいいます。光熱水費、清掃や点検などの業務委託費、消耗品などの需用費、修繕費などが含まれますが、この白書でいう「維持費用」には人件費は含まれません。
- ・ ライフサイクルコスト 建物を建設してから取り壊すまでのすべての費用の合計をいいます。設計費、建設費、維持費用、解体費など、建物の生涯に必要な費用がすべて含まれます。
- ・ 用途転換 ニーズの変化などが原因で、建物の用途を建設当初とは別の用途に変えることをいいます。

## 第2章 朝霞市の概要

### 1 市の概要

朝霞市は、東京都心から半径 20km 圏内で、埼玉県南部に位置しています。市域は南北約 6.3km、東西約 4.6km、面積は約 18.38km<sup>2</sup> で、周囲では志木市、和光市、新座市、東京都練馬区のほか、荒川を隔ててさいたま市、戸田市と接しています。



図 2-1 : 埼玉県全体の略図で見る朝霞市の位置

### 2 人口の推移

昭和 42 年に市制を施行した時は、人口が約 5 万 5,000 人でしたが、その後、市の発展とともに人口が増加し、平成 26 年 7 月現在で約 13 万 4,000 人になっています。

朝霞市の昭和 30 年以降の人口推移と、将来の平成 72 年までの約 50 年間の推計値を図 2-2 に示します。この図では、年齢階層を 14 歳まで、15～64 歳、65 歳以上の 3 つに分けて表現してあります。このうち 15～64 歳が生産年齢人口に相当します。また、これら 3 つの年齢階層の全人口に占める割合を示したものが図 2-3 です。人口の変動要因には、出生や死亡など自然に起こるものと、転入や転出など社会的に起こるものがあります。図 2-2 と図 2-3 の将来推計は、これらの両方を考慮したものになっています。

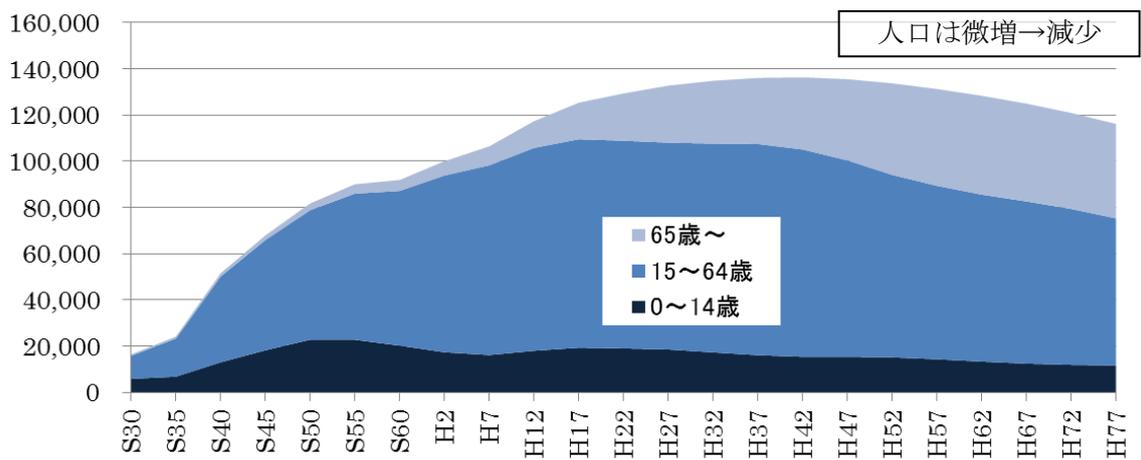


図 2-2：年齢階級別の人口推移と将来推計（単位は人）

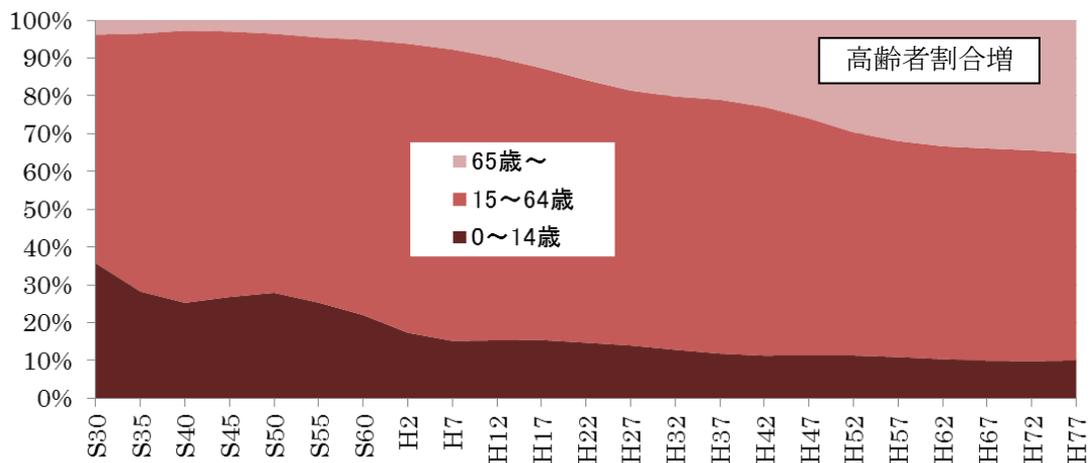


図 2-3：年齢階級の全人口に占める割合の推移と将来推計

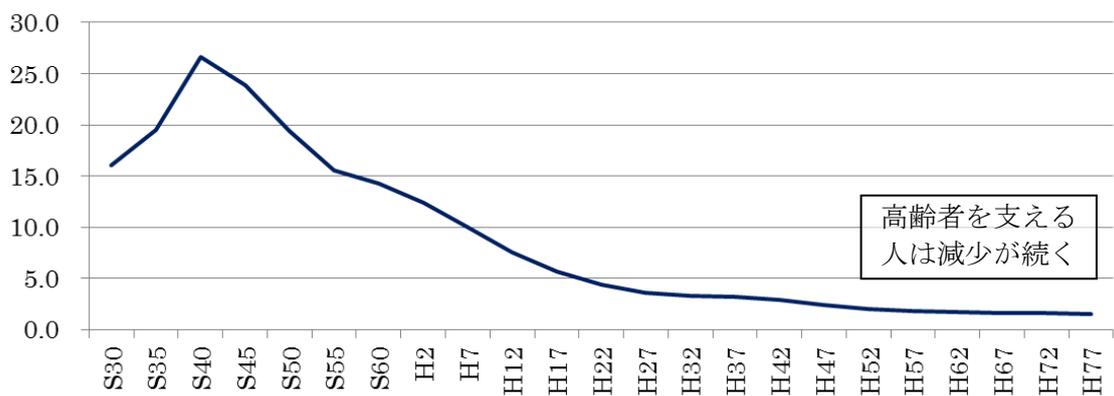


図 2-4：高齢者 1 人を支える生産年齢（15～64 歳）人数の推移と将来推計  
（単位：人）

このページのデータ出典：第 5 次朝霞市総合計画の推計資料

図 2-4 は、高齢者 1 人を支える生産年齢（15～64 歳）人数の推移と将来推計です。これによれば、平成 7 年には高齢者 1 人を 10 人で支えていましたが、減少を続けており、現在では 4 人を下回っています。約 50 年後には 1.6 人にまで減少すると推計されています。

**図から読み取れること（人口の推移と将来推計）**

- 全人口はこれまで増加を続けてきましたが、今後 50 年は、微増から緩やかな減少へ向かうものとみられます。
- 全人口が微増や緩やかな減少であっても、65 歳以上の高齢者は増加を続け、高齢化率（人口に占める 65 歳以上の比率）は平成 77 年で約 35%に達するとみられます。
- 14 歳以下の子どもは緩やかな減少傾向が続きますが、急激に減少することはないものとみられます。
- 高齢者 1 人を支える生産年齢（15～64 歳）の人数は減少を続けています。

### 3 財政状況

朝霞市の財政状況は、市税の減少や扶助費の増加などにより、近年急速に厳しさを増しています。市の毎年の決算を取りまとめた「決算カード」の数字から、財政状況を見てみましょう。

朝霞市制施行（昭和 42 年）以降の普通会計の歳入及び歳出の推移を図 2-5 に示します。歳出は、性質別で内訳を示してあり、義務的経費（人件費、扶助費、公債費）、消費的経費（物件費、維持補修費、補助費等）、投資的経費（普通建設事業、災害復旧）、その他経費に分類しています。

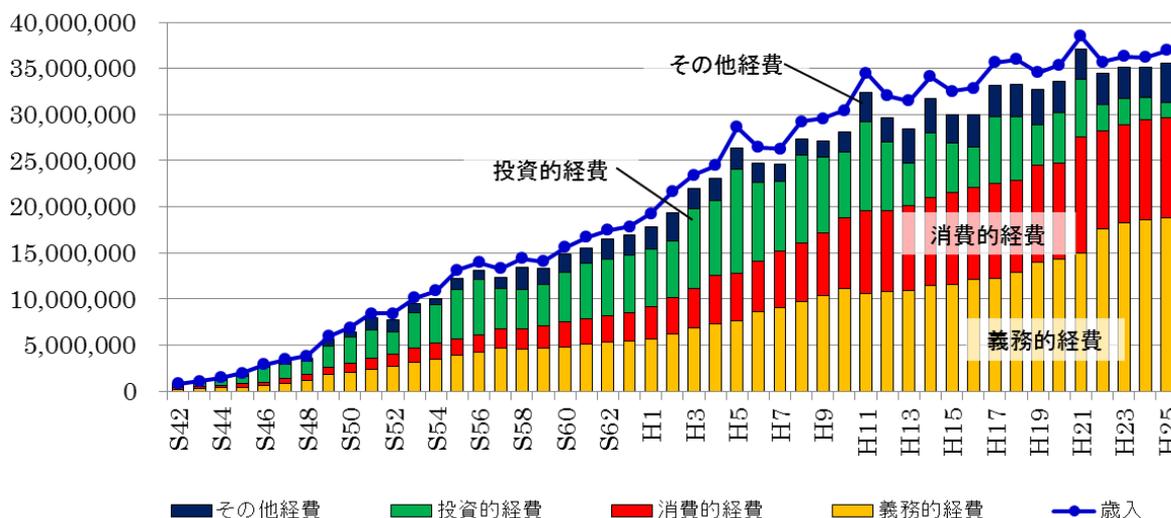


図 2-5：普通会計の歳入・歳出の推移（単位：千円）

公共施設の整備費用は主に投資的経費として計上されています。この投資的経費には、建物だけでなく、道路や橋梁などの整備費用なども含まれています。この投資的経費の推移を図 2-6 に示します。また、全国的に共通する傾向として、扶助費（生活保護や児童福祉、障害者福祉などの社会保障に要する経費）の顕著な増加が挙げられます。扶助費の推移を図 2-7 に示します。

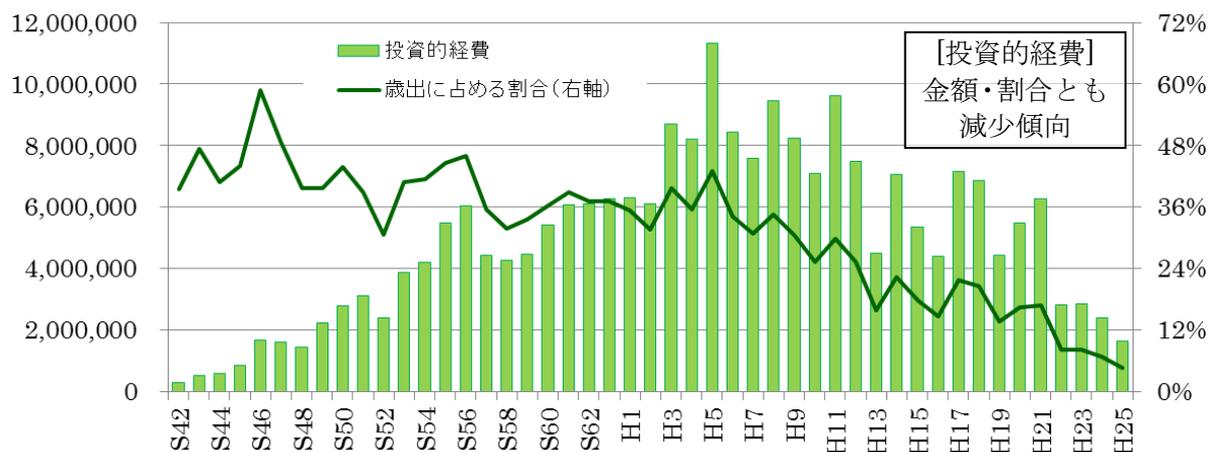


図 2-6：投資的経費の推移（金額の単位：千円）

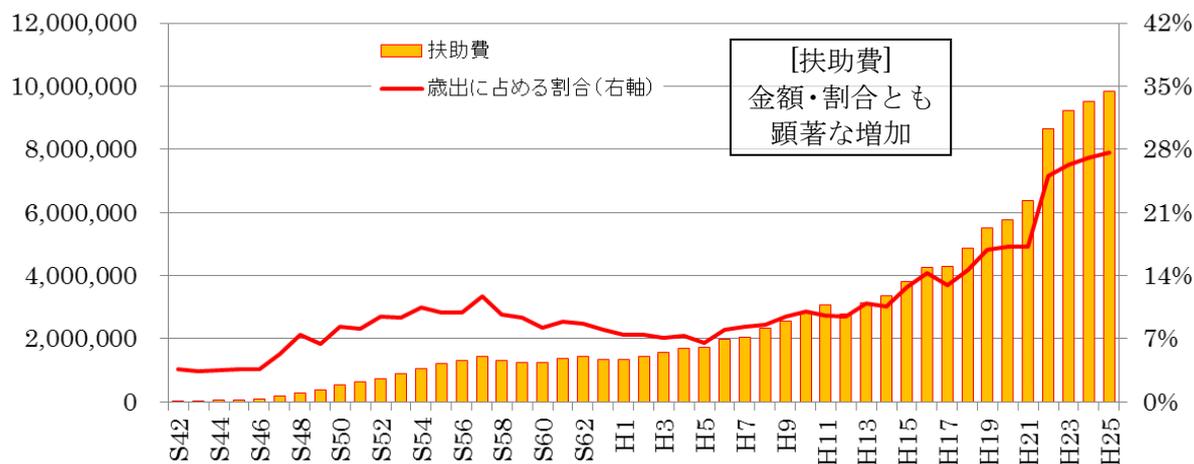


図 2-7：扶助費の推移（金額の単位：千円）

これまでに様々な公共施設を整備してきた時期と、現在との状況を比較するうえで、財政面での目安となる指標として、地方債の現在高の推移をまとめました。

地方債は、朝霞市の借金に相当するもので、公共施設の建設時などに発行しています。地方債の現在高（借金残高）と、歳出に占める公債費（借金の返済額）の割合を示したものが図 2-8 です。平成 13 年度以降は、国の地方交付税財源不足の際に発行する臨時財政対策債の現在高が増加していますが、これ以外の現在高は、第四小学校や第五小学校などの大型建設工事が一段落したこともあり、減少傾向にあります。

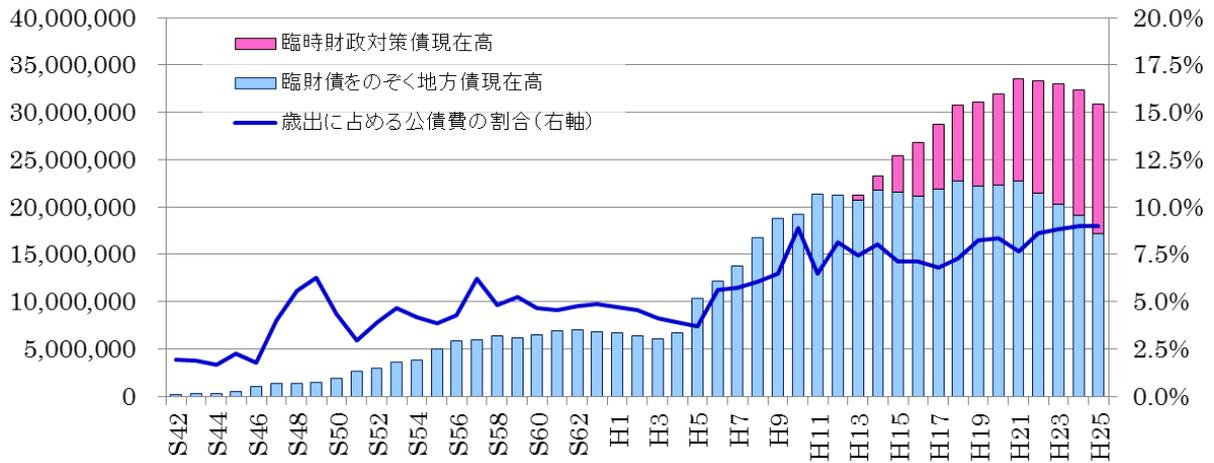


図 2-8：地方債現在高の推移（金額の単位は千円）

次に、財政指標の直近の推移をまとめて示します。

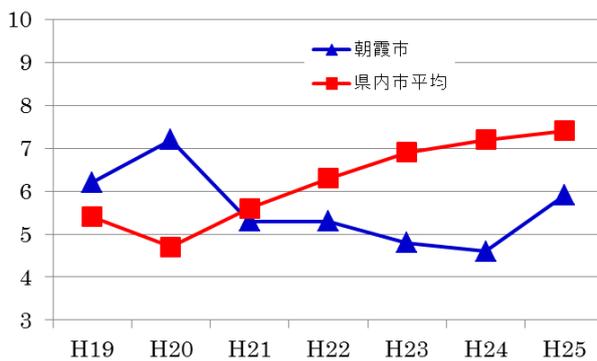


図 2-9：実質収支比率（%）

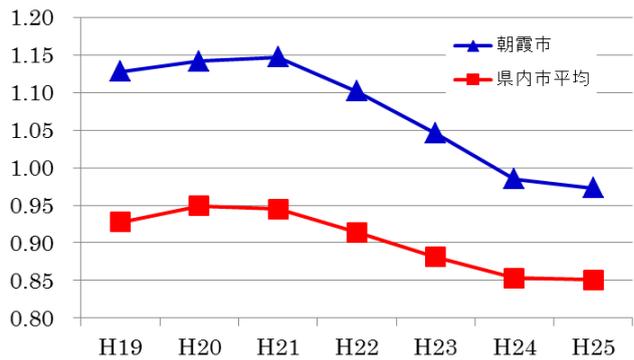


図 2-10：財政力指数

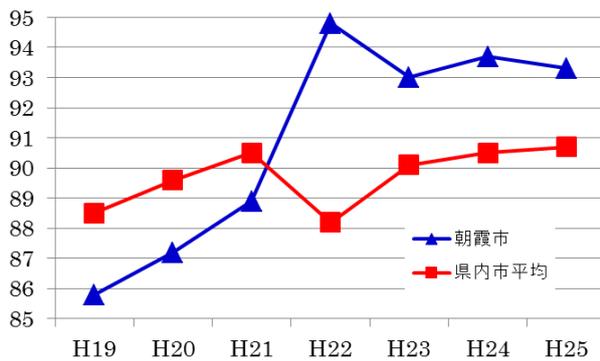


図 2-11：経常収支比率（%）

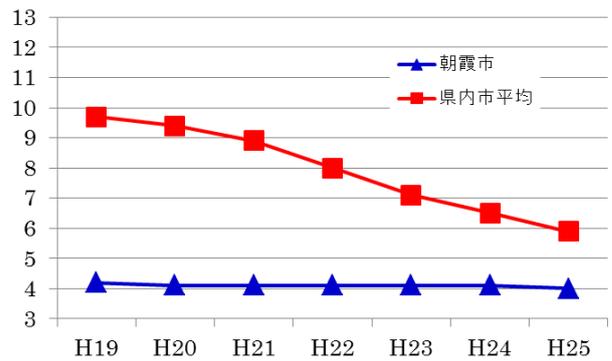


図 2-12：実質公債費比率（%）

図 2-9 に示す「実質収支比率」は、標準財政規模に対する実質収支額の割合で示される指標です。県内市平均よりは低めの傾向にあります。

図 2-10 に示す「財政力指数」は、基準財政収入額を基準財政需要額で割った 3 年平均の数値で、標準的な行政活動を行う財源をどのくらい自力で調達できるかを示した指標です。直近で低下傾向が続いており、1 を割り込んでいる状況にあります。

図 2-11 に示す「経常収支比率」は、人件費、物件費、公債費などの経常経費に、市税、地方交付税、地方譲与税などの経常一般財源等がどの程度充当されているかを示す指標で、この比率が低いほど財政構造に弾力性があることになります。近年は県内市平均を上回り、財政構造が硬直化していることが分かります。

図 2-12 の「実質公債費比率」は、一般会計が負担する地方債の償還金等の標準財政規模に対する比率で、地方債の償還金の大きさを指標化し、財政負担の程度を示すものです。この比率が 18%を超えると、地方債の発行に際して国の許可が必要となります。近年数値に大きな変化はなく、比較的低い水準で推移しています。

#### 図から読み取れること（財政の推移と将来推計）

- ・ 財政規模は順調に拡大してきましたが、直近の 10 年程度で義務的経費が急増しており、相対的に投資的経費に充てられる金額が急減しています。
- ・ 特に扶助費は、金額、歳出に占める割合ともに急増しており、財政状況の悪化の主な原因の一つになっています。
- ・ 臨時財政対策債を除けば、地方債の現在高は、近年減少傾向にあります。

## 4 地区ごとの状況

朝霞市の公共施設の状況を把握するために、この白書では市内を5つの地区に分けて考えることにします。市内を流れる黒目川、新河岸川と、東武東上線をおおよその境界として、図2-13に示すように分割します。

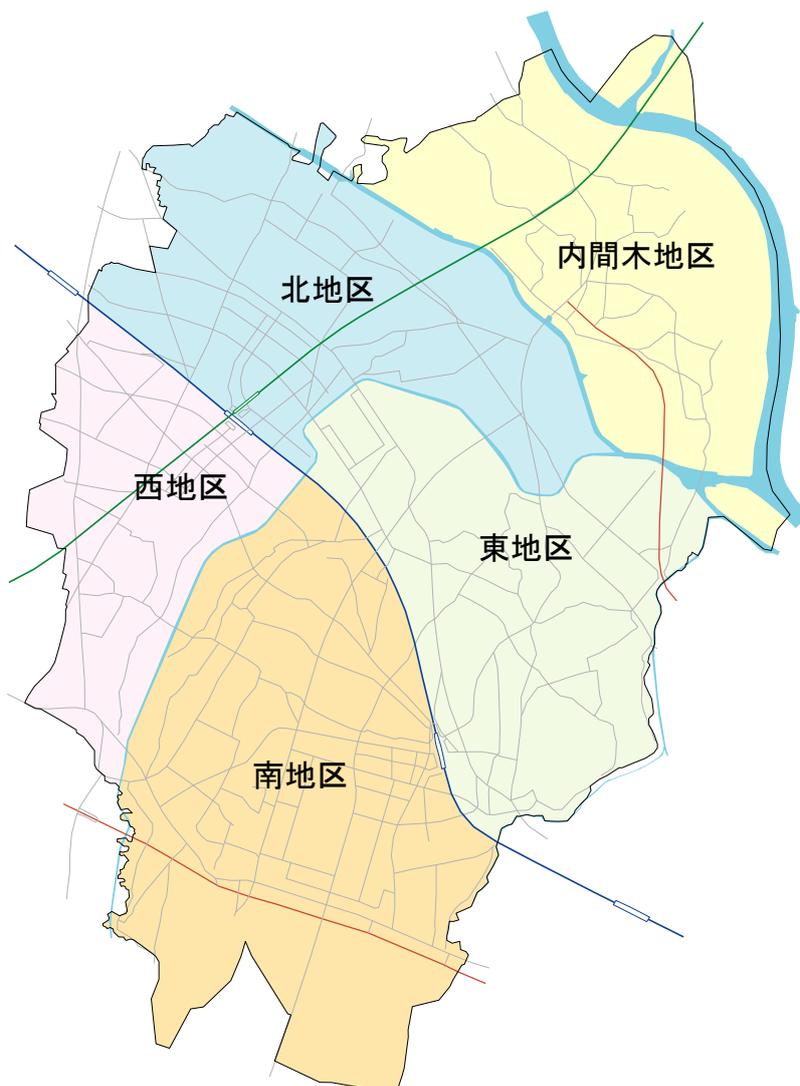


図 2-13 : 市内の地区割り

地区ごとの面積、人口、世帯数は、図2-13とは若干異なる部分もありますが、便宜上、表2-1のとおり割り振って考えることにします。この割り振りで算出した、地区ごとの面積・人口・世帯数を表2-2に、面積・人口の地区別割合を図2-14に、地区ごとの年齢階級別人口と、その割合を図2-15に、それぞれ示します。

表 2-1：地区ごとの町・大字割り振り（数値算出に限った割り振り）

地区名	町・大字
南地区	本町 1～3 丁目、栄町 1～5 丁目、幸町 1～3 丁目、膝折町 1～2 丁目、膝折町 4～5 丁目、溝沼 1～7 丁目、大字膝折、青葉台 1 丁目
西地区	東弁財 1～3 丁目、西弁財 1～2 丁目、三原 1～5 丁目、泉水 1～3 丁目、膝折町 3 丁目、大字溝沼
東地区	仲町 1～2 丁目、大字岡、大字台、大字根岸、岡 1～3 丁目、根岸台 1～8 丁目
北地区	北原 1～2 丁目、西原 1～2 丁目、浜崎 1～4 丁目、大字浜崎、朝志ヶ丘 1～4 丁目、宮戸 1～4 丁目、大字宮戸、田島 1～2 丁目、大字田島
内間木地区	大字上内間木、大字下内間木

表 2-2：地区ごとの面積・人口・世帯数

地区名	面積	人口	人口密度	世帯数
南地区	439.6 ha	50,639 人	11,519 人/km <sup>2</sup>	22,313 世帯
西地区	264.1 ha	25,924 人	9,816 人/km <sup>2</sup>	11,882 世帯
東地区	410.4 ha	27,243 人	6,638 人/km <sup>2</sup>	12,795 世帯
北地区	374.6 ha	28,271 人	7,547 人/km <sup>2</sup>	12,785 世帯
内間木地区	349.3 ha	1,564 人	448 人/km <sup>2</sup>	681 世帯
合計	1,838 ha (18.38km <sup>2</sup> )	133,641 人	7,271 人/km <sup>2</sup>	60,456 世帯

(平成 26 年 7 月 1 日現在・出典：統計あさか)

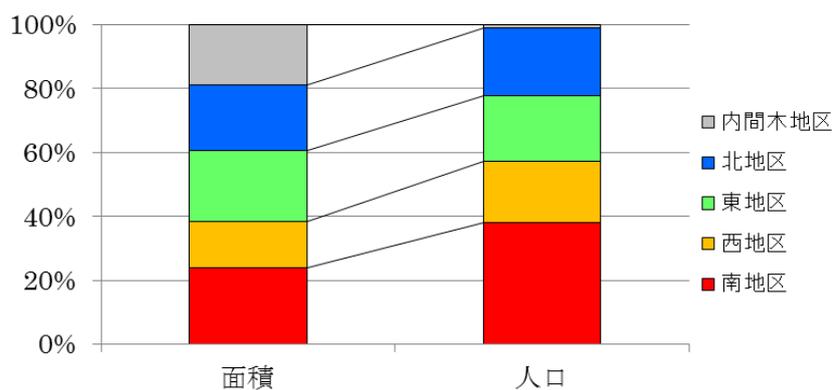


図 2-14：面積・人口の地区別割合

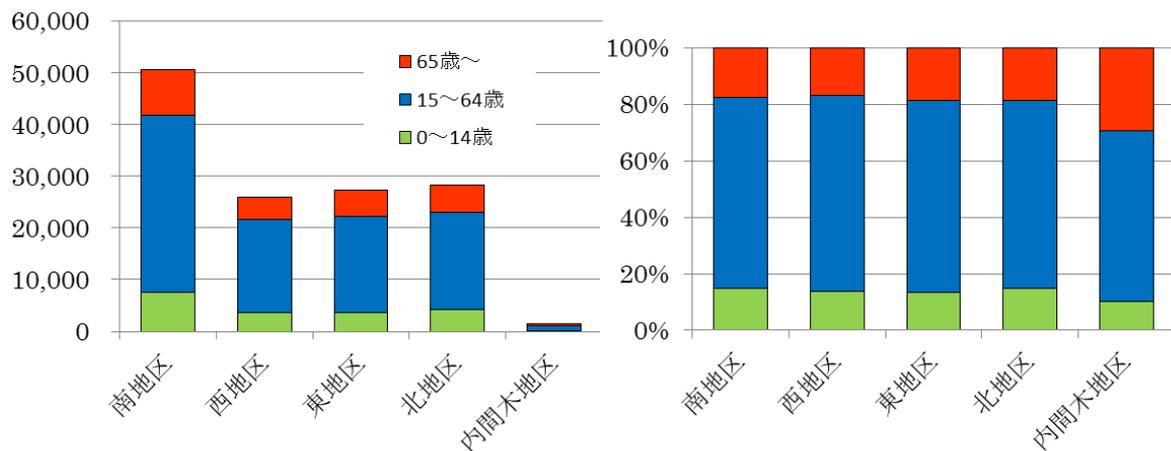


図 2-15：地区ごとの年齢階級別人口（左）と同割合（右）

**図表から読み取れること（地区ごとの状況）**

- ・人口は南地区が最も多く、西地区・東地区・北地区がほぼ同じで、内間木地区が最も少なくなっています。
- ・面積は、西地区が多少小さい程度で、各地区ともほぼ同程度の割合です。
- ・高齢化率（65歳以上の割合）は、内間木地区でやや高くなっています。14歳以下の若年層の割合は、各地区とも大きな差はみられません。

## 第3章 公共施設の現状

### 1 施設整備状況

朝霞市の公共施設には、市庁舎など市が自ら使うもの（公用施設）と、学校や公民館など市民の皆さんに使っていただくもの（公共用施設）があります。このうち、市が所有する公共施設は全部で143あり、延床面積は約24万9千㎡あります。表3-1に施設類型ごとの施設数と延床面積を、図3-1に延床面積でみた施設類型ごとの割合を、図3-2に建築年別の延床面積をそれぞれ示します。

表3-1：施設類型ごとの施設数と延床面積（借家等は含まない）

大分類	中分類	施設数	延床面積 [㎡]
市民文化系施設	公民館	6	8,386
	コミュニティセンター	1	1,634
	市民センター	8	7,889
	市民会館	1	6,958
社会教育系施設		4	6,281
スポーツ・公園系施設		32	11,675
産業系施設		2	3,037
学校教育系施設	小学校	10	81,227
	中学校	5	43,697
	その他	4	4,665
子育て支援系施設	保育園	7	6,425
	児童館	5	2,902
	放課後児童クラブ	10	3,058
保健・福祉系施設		10	19,179
行政系施設	庁舎等	2	11,024
	消防施設（消防団）	8	708
	倉庫等	12	797
駐車場・駐輪場		7	13,935
その他（斎場、リサイクルプラザなど）		6	3,438
用途廃止施設		3	12,559
合 計		143	249,474

同じ棟に複数の施設が入っている場合、施設数は別に数えています。床面積は、それぞれの施設類型ごとに分けています。

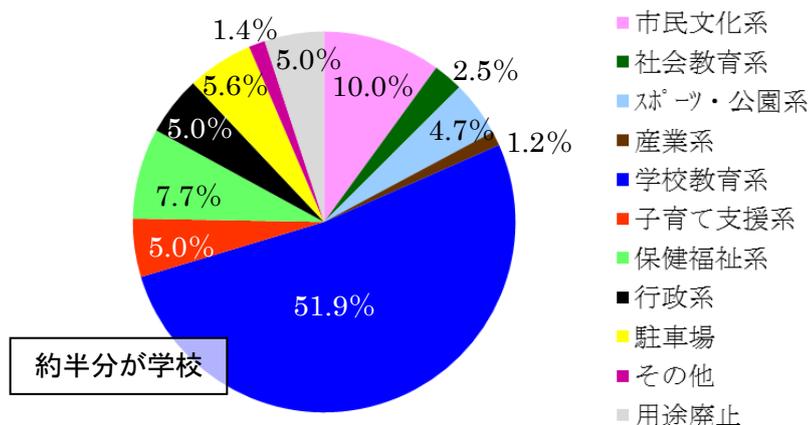


図 3-1：延床面積でみた施設類型ごとの割合

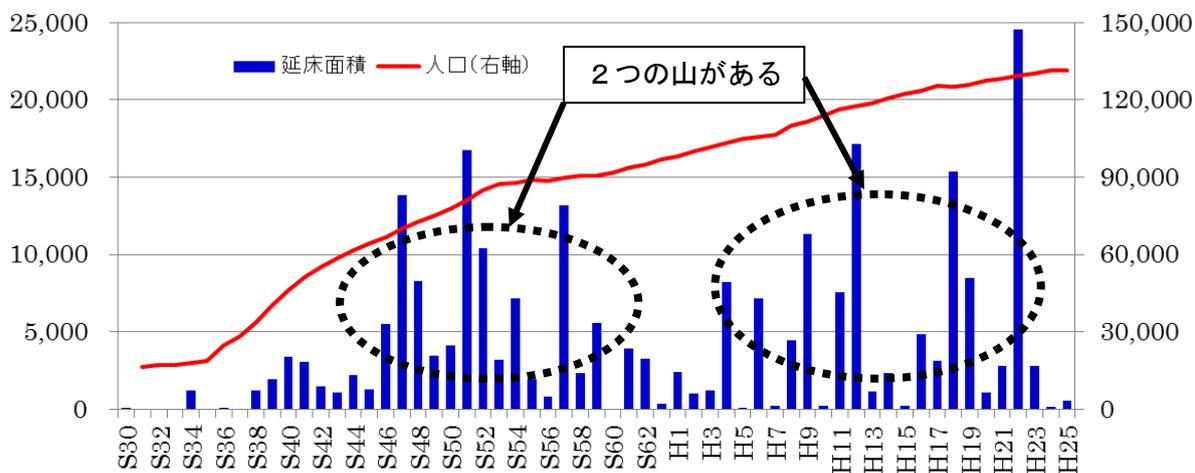


図 3-2：建築年別の延床面積（単位：㎡）と人口（単位：人）

図表から読み取れること（施設類型別の延床面積等）

- ・ 公共施設のうち、延床面積で 51.9% を学校教育系が占めています。
- ・ 建築年別延床面積で見ると、昭和 40～50 年代と、平成に入ってからのもう一つの山があり、人口増加に合わせてこの時期に多くの公共施設が整備されています。
- ・ 市民 1 人あたりの施設面積は約 1.87 ㎡/人です。（全国平均は約 2.89 ㎡/人\*）

\*注記：総務省自治財政局財務調査課「公共施設及びインフラ資産の将来の更新費用の比較分析に関する調査結果」（平成 24 年 3 月）の人口 100～250 千人未満の項による。

延床面積でみた築年数別割合を図 3-3 に示します。構造や修繕などの状況によって異なりますが、この白書では築年数が 30 年を超えるものを「老朽化が進んでいる建物」と定義しています。老朽化が進んだ建物では、大規模改修や長寿命化工事などを適時行う必要があります。市全体では、延床面積で約 43.3%と、半分近くが老朽化している状態にあります。

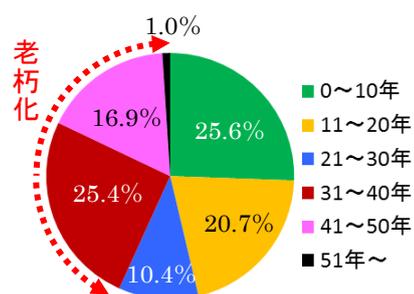


図 3-3：延床面積の築年数別割合

### ○図表をご覧ください。際にご注意いただきたいこと

この図表では、市が建物を保有している施設に限って示しており、建物を借りて運営している施設は含まれません。将来、市の予算で建物を改修したり建替えしたりする必要があるものについて、費用を推計する基礎データを明らかにしておくために、敢えてこのような形にしています。

### ○構造別の状況

どんな構造の建物でも、適切に維持すれば長く使うことができます。しかし、構造によって寿命は多少異なり、改修や建替えの時期も異なってくることから、構造別の施設整備状況を把握しておくことは大切です。表 3-2 に、事務所の場合の法定耐用年数を示します。実際には、適切にメンテナンスすれば、これよりも長く使うことができますが、構造別の寿命の相対的な比較としてご覧ください。

表 3-2：減価償却資産の主な法定耐用年数（事務所の場合）

構 造		耐用年数
木造 (W 造)、合成樹脂造		24 年
鉄骨鉄筋コンクリート造 (SRC 造) 鉄筋コンクリート造 (RC 造)		50 年
れんが造、石造、ブロック造		41 年
金属造 (鉄骨造・S 造)	骨格材肉厚 4mm 超	38 年
	骨格材肉厚 3mm 超 4mm 以下	30 年
	骨格材肉厚 3mm 以下	22 年

図 3-4 に延床面積でみた構造別の割合を、図 3-5 に建築年別、構造別の延床面積をそれぞれ示します。

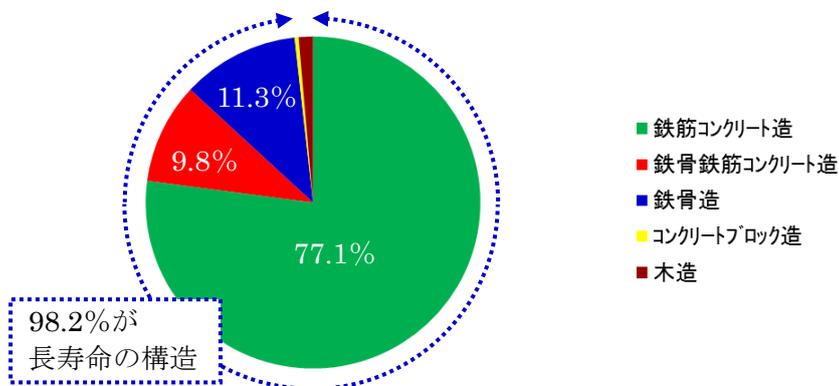


図 3-4：延床面積でみた構造別の割合

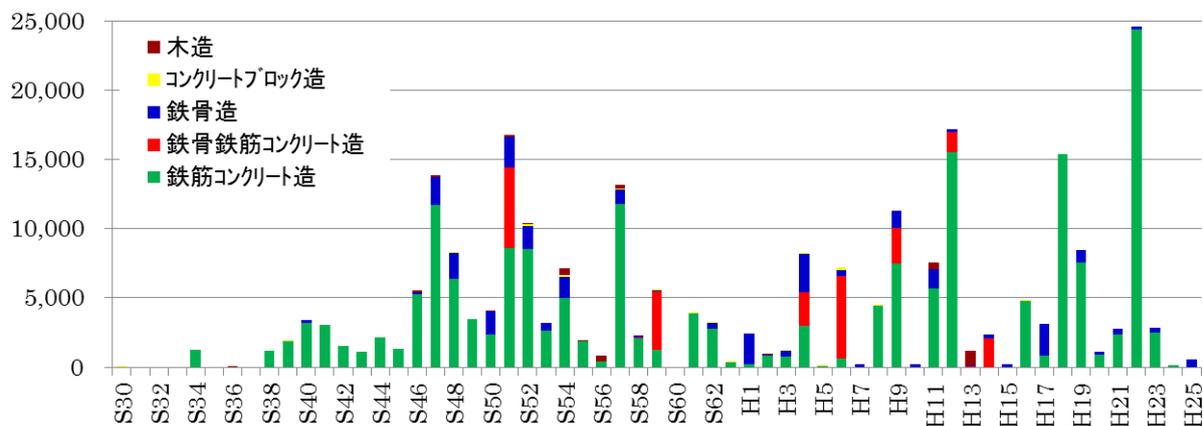


図 3-5：建築年別、構造別の延床面積（単位：m<sup>2</sup>）

図から読み取れること（構造別の延床面積等）

- ・ 98.2%が比較的長寿命で強度の高い構造（鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄骨造）ですが、小規模な建物を中心に木造やコンクリートブロック造もあります。

## ○耐震強度の確保状況

公共施設において、耐震強度を確保することは大前提ともいえるものです。しかし、既存建物の耐震改修には多額の費用がかかることから、市では「朝霞市有公共施設耐震化計画」を策定して、順次耐震強度の確保に努めてきました。

建物の耐震強度に関しては、建築基準法が昭和 56 年（1981 年）6 月に改正され、これ以降に建てられた建物（いわゆる「新耐震基準」の建物）は、震度 5 強程度ではほとんど損傷がなく、震度 6 強から震度 7 程度でも人命に危害を及ぼすような被害はない、とされる強度が確保されています。そこで、この法改正以前に建てられた建物（いわゆる「旧耐震基準」の建物）について、耐震診断を実施し、耐震強度が不足している建物は、改修工事を実施することとしました。

朝霞市で対象とした建物は、以下のとおりです。

昭和 56 年（1981 年）以前のいわゆる「旧耐震基準」の建物のうち、以下のいずれかに該当する建物。

- ・耐震改修促進法\*に定める「特定既存耐震不適格建築物」  
→建物の用途や大きさに応じて基準が設けられている。
- ・避難場所として指定されている建物

\*耐震改修促進法：建築物の耐震改修の促進に関する法律

耐震強度の確保について、小・中学校や公民館など順次対応を進めた結果、平成 26 年度の時点で耐震強度が確保できていない施設は、表 3-3 に示すとおりとなっています。

表 3-3：耐震強度が確保できていない建物と対応方針

施設名称		延床面積	建築年	Is 値	対応方針
市役所	本館	7,346 m <sup>2</sup>	昭和 47 年	0.264	耐震改修事業に H26 年度着手、H29 年度完成予定。
	議場棟			0.353	
市民会館	会議棟	5,810 m <sup>2</sup>	昭和 51 年	0.25	H27 年度耐震改修の設計、H28 年度耐震改修工事の予定。
	ホール棟			0.48	
保健センター		1,906 m <sup>2</sup>	昭和 54 年	0.34	「はまさき生き活き健康タウン」構想を踏まえ、移転・改築等の耐震対応方針を検討する。
武道館		938 m <sup>2</sup>	昭和 51 年	0.55	
合計		16,000 m <sup>2</sup>	(公共施設全体の約 6.5%に相当)		

Is 値： 鉄筋コンクリート造の建物の耐震強度を表す指標のひとつ。朝霞市では、公共施設については 0.75 以上の確保を目標として改修工事を行っています。

## 2 利用状況

公共施設が市民の皆さんに有効にご利用いただいているかどうか、利用状況を見る切り口には、色々なものが考えられます。利用人数は最も分かりやすい指標のひとつですが、福祉施設などのように、人数だけでは評価しきれないものもあります。市役所の窓口など、届出などで義務的にご利用いただくものもあり、利用人数がその施設の善し悪しの評価に全く関係ない場合もあります。

ここでは、ひとつの参考として、平成 25 年度にそれぞれの施設がどの程度利用されたかの具体的な数字を表 3-4 に示します。なお、施設類型ごとの経年的な推移は第 4 章のそれぞれの施設の項に示していますので、ご参照ください。

表 3-4：平成 25 年度 施設利用状況

大分類	施設名	利用状況
市民文化系施設	南朝霞公民館	38,895 人／年
	北朝霞公民館	40,062 人／年
	東朝霞公民館	47,826 人／年
	内間木公民館	40,143 人／年
	西朝霞公民館	41,242 人／年
	中央公民館	99,593 人／年
	コミュニティセンター	88,410 人／年
	朝志ヶ丘市民センター	16,980 人／年
	弁財市民センター	32,042 人／年
	宮戸市民センター	35,875 人／年
	栄町市民センター	18,211 人／年
	仲町市民センター	27,719 人／年
	溝沼市民センター	32,406 人／年
	根岸台市民センター	33,068 人／年
	膝折市民センター	35,010 人／年
市民会館	284,642 人／年	
社会教育系施設	図書館	180,546 人／年
	図書館北朝霞分館	74,039 人／年
	各公民館図書室（合計）	29,730 人／年
	埋蔵文化財センター	65 人／年
	博物館	51,714 人／年

(表 3-4 続き)

大分類	施設名	利用状況
スポーツ・公園系施設	総合体育館	173,019 人／年
	武道館	31,767 人／年
	溝沼子どもプール	37,365 人／年
	滝の根テニスコート	33,035 人／年
	中央公園 (合計)	89,223 人／年
	青葉台公園 (合計)	98,746 人／年
	内間木公園 (合計)	36,368 人／年
	北朝霞公園	34,275 人／年
産業系施設	産業文化センター	174,327 人／年
学校教育系施設 (児童数、生徒数は H25 年 5 月 1 日現在)	朝霞第一小学校 (児童数)	723 人
	朝霞第二小学校 (児童数)	713 人
	朝霞第三小学校 (児童数)	645 人
	朝霞第四小学校 (児童数)	576 人
	朝霞第五小学校 (児童数)	958 人
	朝霞第六小学校 (児童数)	776 人
	朝霞第七小学校 (児童数)	860 人
	朝霞第八小学校 (児童数)	906 人
	朝霞第九小学校 (児童数)	343 人
	朝霞第十小学校 (児童数)	623 人
	朝霞第一中学校 (生徒数)	861 人
	朝霞第二中学校 (生徒数)	698 人
	朝霞第三中学校 (生徒数)	864 人
	朝霞第四中学校 (生徒数)	574 人
	朝霞第五中学校 (生徒数)	386 人
	子ども相談室	704 人／年
子育て支援系施設 (児童数は H25 年 4 月 1 日現在)	北朝霞保育園 (児童数)	113 人
	栄町保育園 (児童数)	87 人
	泉水保育園 (児童数)	82 人
	さくら保育園 (児童数)	112 人
	宮戸保育園 (児童数)	100 人
	溝沼保育園 (児童数)	143 人
	仲町保育園 (児童数)	98 人
	根岸台保育園 (児童数)	90 人
	本町保育園 (児童数)	97 人
	東朝霞保育園 (児童数)	89 人
	浜崎保育園 (児童数)	73 人

(表 3-4 続き)

大分類	施設名	利用状況
子育て支援系施設	きたはら児童館	39,621 人／年
	はまさき児童館	39,355 人／年
	みぞぬま児童館	56,083 人／年
	ねぎしだい児童館	37,311 人／年
	ひざおり児童館	48,299 人／年
	膝折放課後児童クラブ (一小)	22,561 人／年
	岡放課後児童クラブ (二小)	23,147 人／年
	浜崎放課後児童クラブ (三小)	27,249 人／年
	幸町放課後児童クラブ (四小)	26,956 人／年
	泉水放課後児童クラブ (五小)	27,835 人／年
	本町放課後児童クラブ (六小)	30,765 人／年
	朝志ヶ丘放課後児童クラブ (七小)	35,453 人／年
	栄町放課後児童クラブ (八小)	29,593 人／年
	根岸台放課後児童クラブ (九小)	12,013 人／年
	溝沼放課後児童クラブ (十小)	21,975 人／年
保健・福祉系施設	健康増進センター	268,940 人／年
	特別養護老人ホーム (朝光苑) (合計)	34,643 人／年
	浜崎老人福祉センター	67,005 人／年
	溝沼老人福祉センター	70,696 人／年
	総合福祉センター (障害者多機能型施設)	10,397 人／年
	総合福祉センター (貸館業務)	10,938 人／年
	保健センター (職員数)	28 人
行政系施設	市役所 (職員数)	433 人
	内間木支所 (職員数)	3 人
	朝霞台出張所 (職員数)	9 人
	朝霞駅前出張所 (職員数)	10 人
駐車場・駐輪場	朝霞台駅南口地下自転車駐車場	750,531 台／年
	朝霞台駅南口第 1 自転車駐車場	175,812 台／年
	北朝霞駅東口地下自転車駐車場	1,237,034 台／年
	朝霞駅東口立体自転車駐車場	336,642 台／年
	朝霞駅南口原動機付自転車駐車場	92,635 台／年
	朝霞駅東口地下自転車駐車場	337,566 台／年
	朝霞駅南口地下自転車駐車場	1,548,549 台／年
その他	斎場	442 件／年
	女性センター (それいゆぷらざ)	2,435 人／年
	リサイクルプラザ	117,711 人／年

### 3 維持費用

公共施設を維持するために必要な費用には、どのようなものがあるのでしょうか。まずは、電気・ガス・上下水道などの「光熱水費」が思い浮かびます。また、建物にある様々な設備の「設備点検費」が必要です。このほか、建物の設備運転業務などの「建物管理費」、有人警備や機械警備などの「警備費」、建物内外の「清掃費」、「廃棄物処理費」、それに日々の運営に必要な消耗品代や建物の不具合を修繕する「消耗品・修繕費」、電話やインターネットなどの「通信費」、植木剪定などの「その他」などが挙げられます。この白書では、以上の9分類によって維持費用を掲載しています。なお、維持費用には、人件費やそれに相当する委託費などは含んでいません。

施設類型ごとの維持費用の総額比較を図3-6に示します。施設数が異なるため、施設類型間での相対的な比較はあまり意味がありませんが、それぞれの施設タイプの費用合計がどれだけのボリュームを持っているか、参考としてご覧ください。

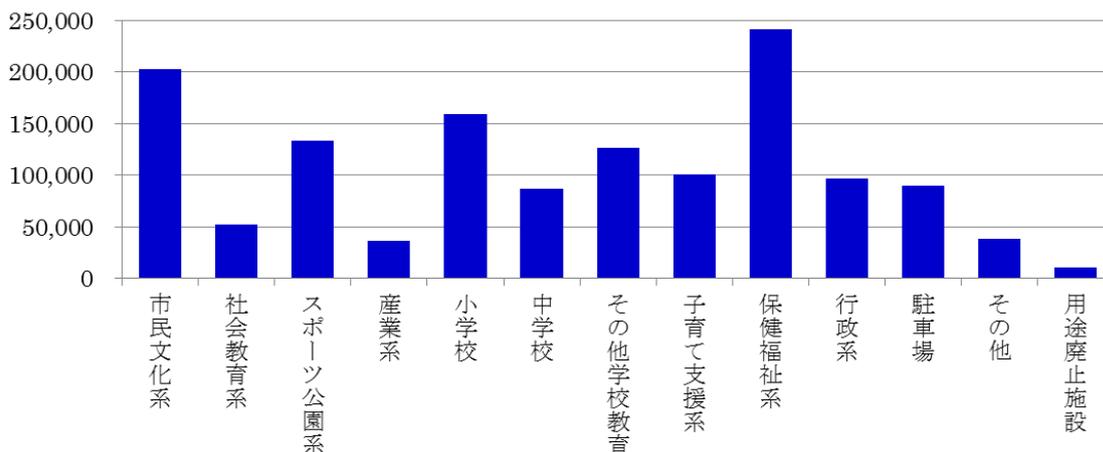


図3-6：施設類型ごとの維持費用の総額比較 (単位：千円)

次に、公共施設全体の維持費用の内訳を図3-7に示します。光熱水費の割合が最も高く、以下、割合の高い順に消耗品・修繕費、建物管理費、清掃費、設備点検費と続きます。ただし、清掃費が建物管理費に含まれている施設もあることから、実際には清掃費の割合は少し高めであると考えられます。

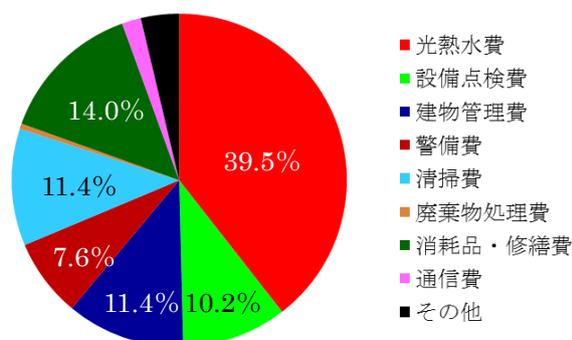


図3-7：公共施設全体の維持費用内訳

施設類型ごとに維持費用の内訳比率を比較したものを図 3-8 に示します。

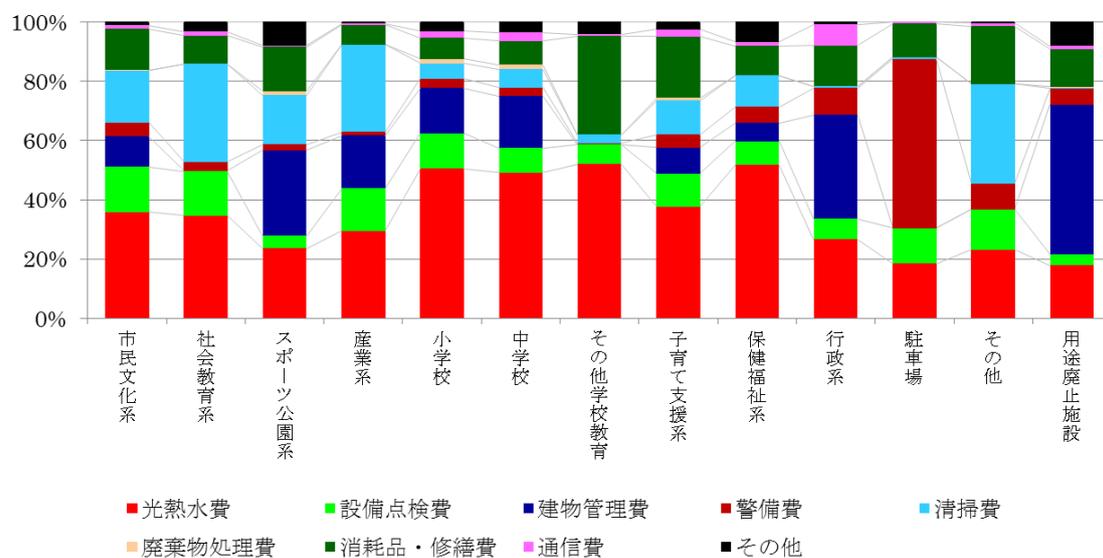


図 3-8：施設類型ごとの維持費用の内訳比率

図から読み取れること（維持費用）

- ・施設類型では、保健福祉系施設が最も維持費用を多く要しています。
- ・内訳では、光熱水費が約 39.5%で最も高い割合を占めています。

## 4 地区ごとの状況

公共施設の配置を考える際には、ひとつの施設を市全体で使うもの（広域対応施設）と、各地区ごとに配置すべきもの（地域対応施設）をそれぞれ特性に応じて分析する必要があります。

地区ごとの公共施設配置状況を表 3-5 と表 3-6 に示します。地区は、第 2 章で示した 5 つの地区割り（南・西・東・北・内間木）としています。

表 3-5：広域対応施設の地区別配置状況

施設区分		南	西	東	北	内間木
地区ごとの人口（人）		50,639	25,924	27,243	28,271	1,564
広域対応施設	市民文化系施設	中央公民館 コミュニティセンター 市民会館				
	社会教育系施設	図書館		旧高橋家	博物館 埋蔵文化財センター	
	スポーツ・公園系施設 (都市公園は主なもの)	総合体育館 武道館 子どもプール 滝の根庭球場 中央公園 青葉台公園			北朝霞公園	内間木公園
	産業系施設				産業文化センター 農業交流センター	
	学校教育系施設				子ども相談室	
	保健・福祉系施設	朝光苑 保健センター			総合福祉センター 健康増進センター	
	行政系施設	市役所	出張所	出張所	支所	
	その他	女性センター		斎場	リサイクルプラザ	

注記： 行政系施設は、広域対応施設と地域対応施設の両方の性質があるため、表 3-5 と表 3-6 の両方に掲載しています。

表 3-6：地域対応施設の地区別配置状況

施設区分		南	西	東	北	内間木
地区ごとの人口（人）		50,639	25,924	27,243	28,271	1,564
地域 対応 施設	市民文化系施設					
	公民館	南朝霞	西朝霞	東朝霞	北朝霞 内間木	
	市民センター	膝折 栄町 溝沼	弁財	仲町 根岸台	朝志ヶ丘 宮戸	
	学校教育系施設					
	小学校	第一 第四 第六 第八 第十	第五	第二 第九	第三 第七	
	中学校	第一 第三 第四		第二	第五	
	学校給食センター	栄町 溝沼			浜崎	
	子育て支援系施設					
	保育園	栄町 溝沼 本町	泉水 さくら	仲町 根岸台 東朝霞	北朝霞 宮戸 浜崎	
	児童館	みぞぬま ひざおり		ねぎしだい	きたはら はまさき	
	放課後児童クラブ	膝折 幸町 本町 栄町 溝沼	泉水	岡	浜崎 朝志ヶ丘 根岸台	
	保健・福祉系施設					
	老人福祉センター	溝沼			浜崎	
シルバーサロン	膝折	弁財	根岸台			
行政系施設	市役所	出張所	出張所	支所		

表から読み取れること（地区別配置状況）

- ・地域対応施設は、概ね人口比率に応じて各地区に整備されていますが、学校などの用地取得が困難な施設はやや配置が偏っています。
- ・広域対応施設は、南地区と北地区に多く配置されています。

→参考：第4章では、各施設類型ごとに、地図上に場所を表しています。

## 第4章 各施設の現状と課題

### 1 市民文化系施設

市民文化系施設は、公民館、市民センター、市民会館など、市民の皆さんが様々な活動を行う場を提供するものです。大きな役割としては、いわゆる「貸館」、つまり部屋を貸し出す機能が代表的です。市民文化系施設の一覧を表4-1-1に示します。

表4-1-1：市民文化系施設一覧

施設名称	棟数	建築年	延床面積	地区
○公民館				
南朝霞公民館	1	昭和52年	1,333 m <sup>2</sup>	南
北朝霞公民館	2	昭和51年	709 m <sup>2</sup>	北
東朝霞公民館	1	昭和55年	1,357 m <sup>2</sup>	東
内間木公民館	1	昭和58年	1,296 m <sup>2</sup>	北
西朝霞公民館	1	昭和59年	1,281 m <sup>2</sup>	西
中央公民館	1	昭和59年	2,410 m <sup>2</sup>	南
○市民センター				
朝志ヶ丘市民センター	1	平成6年	238 m <sup>2</sup>	北
弁財市民センター	2	平成2年	836 m <sup>2</sup>	西
宮戸市民センター	1	平成8年	948 m <sup>2</sup>	北
栄町市民センター	1	平成8年	928 m <sup>2</sup>	南
仲町市民センター	1	平成9年	697 m <sup>2</sup>	東
溝沼市民センター	1	平成9年	921 m <sup>2</sup>	南
根岸台市民センター	1	平成18年	1,510 m <sup>2</sup>	東
膝折市民センター	1	平成21年	1,812 m <sup>2</sup>	南
○その他				
コミュニティセンター	(1)	昭和59年	1,634 m <sup>2</sup>	南
市民会館	2	昭和51年	6,958 m <sup>2</sup>	南
市民活動支援ステーション	(1)	(賃貸)	(36 m <sup>2</sup> )	東

注記：建築年は最も古い棟のものを示しています。

複合施設ではそれぞれの施設部分の床面積を表示しています。

延床面積は、端数処理の都合で合計がほかの表と一致しない場合があります。

棟数の欄が ( ) 書きの施設は、賃貸もしくは他の施設と複合化されています。

参考 公民館・コミュニティセンター・市民センターの違い

公民館は、社会教育法に定められた社会教育施設で、実際の生活に即する教育や文化に関する各種の事業を行っています。コミュニティセンターは、社会教育よりも少し対象範囲が広く、市民の相互交流や文化の向上等を目的として設置されています。一方、市民センターは、市民の会議や集会などに目的を絞って設置されています。

○建築年別延床面積

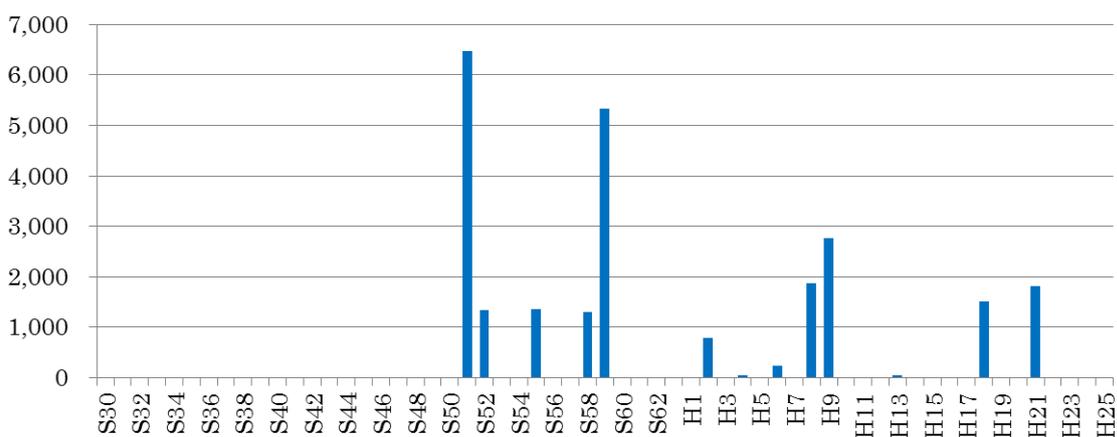


図 4-1-1：市民文化系施設 建築年別延床面積 (単位：㎡)

市民文化系施設は、市民会館や公民館などで、昭和50年代に整備された施設が比較的多いことから、築年数が30年を超えて老朽化した建物は42.1%を占めています。一方で市民センターは近年整備されたものが多く、築年数が20年以下のものも33.2%あり、整備年度が比較的分散されているのが特徴です。

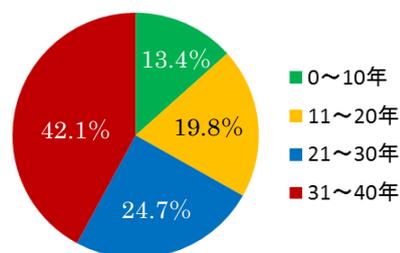


図 4-1-2：市民文化系施設 築年数別床面積割合

耐震強度については、旧耐震基準の公民館（北・南・東）について耐震診断を実施し、強度不足と診断された南・東については耐震改修工事を完了し、現在ではすべての施設で耐震強度が確保された状態になっています。

なお、これらの数値に賃貸物件（建物を市で保有していない施設）は含まれていません。

### ○利用人数の推移

年間利用者数の推移を図 4-1-3 に示します。公民館（コミュニティセンターを含む）や市民センターの利用者数はほぼ横ばいで推移しています。

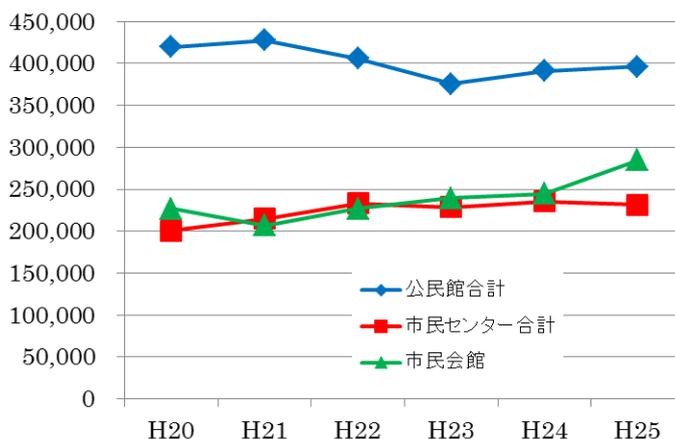


図 4-1-3：市民文化系施設  
年間利用者数の推移（単位：人）

### ○維持費用の比較

施設を運営していく上で必要な費用のうち、人件費をのぞいた維持費用の大まかな内訳を図 4-1-4 に示します。これによれば、電気・ガス・上下水道などの光熱水費が 35.8% で最も割合が高くなっています。建物管理費には、清掃業務を含む施設もあるため、この部分は参考としてご覧ください。警備費は、ほとんどの施設が機械警備ですが、警備員が常駐している施設もあります。

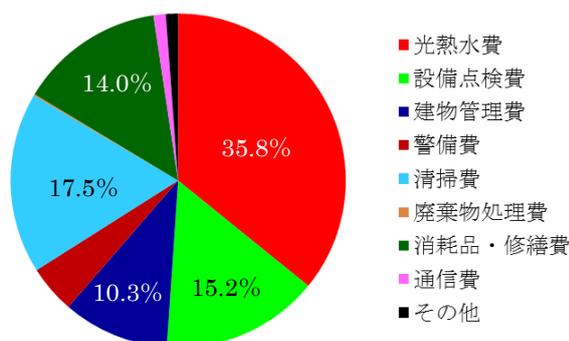


図 4-1-4：維持費用の性質別内訳

次に、各施設ごとの維持費用の比較を図 4-1-5 に、延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの維持費用の比較を図 4-1-6 に、利用者 1 人あたりの維持費用の比較を図 4-1-7 に、それぞれ示します。

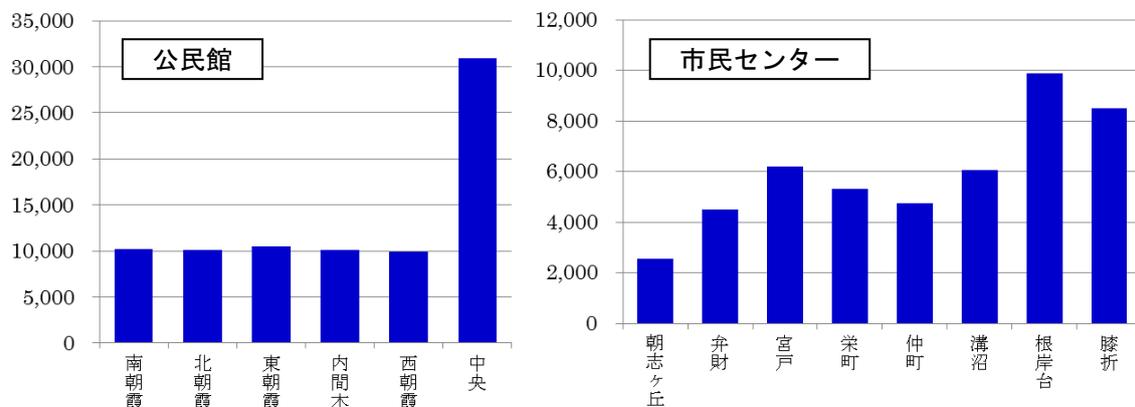


図 4-1-5：各施設ごとの維持費用比較（単位：千円）

(注記：市民会館は 73,195 千円/年と高額であるためグラフから除外)

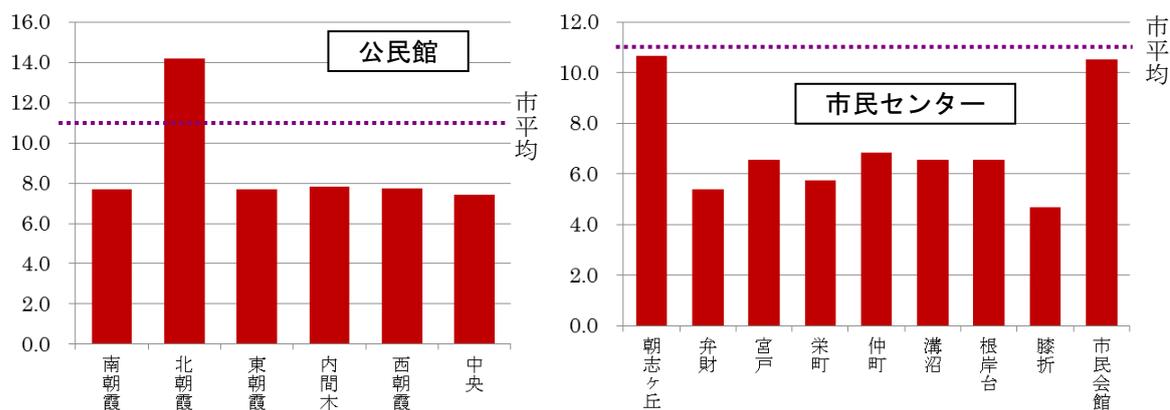


図 4-1-6：延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの維持費用比較 (単位：千円)

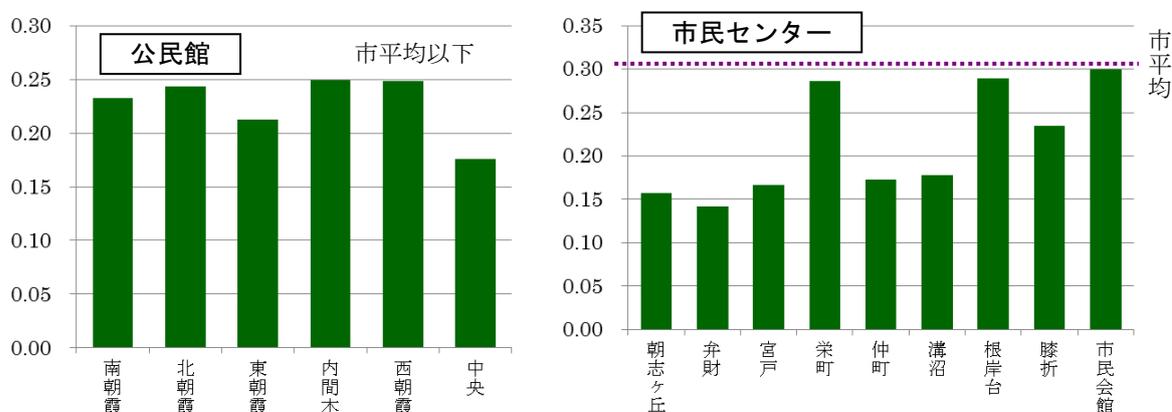


図 4-1-7：利用者 1 人あたりの維持費用比較 (単位：千円)

市民会館や中央公民館は大きな施設ですが、延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりや利用者 1 人あたりの維持費用で見ると、他の施設と大差なく、一定の効率性を保って運営できているといえます。公民館に比べて市民センターは全般に維持費用が低めになっていますが、これは市民センターが貸館にほぼ特化しているのにくらべ、公民館は様々な生涯学習にかかわる事業を自ら展開しているという違いが反映されています。

### ○全体の課題

市民文化系施設のうち、公民館と市民会館については、整備が比較的早かったこともあり、築年数が 30 年を超えるものが多く、全体に老朽化が進んでいます。公民館については、耐震改修工事などと同時に大規模改修工事を行ったところもありますが、市民会館については耐震補強、大規模改修ともに現在未施工の状況にあります。特に市民会館のホールは、舞台装置の老朽化が進んでおり、改修や更新が必要な状況にあります。

○位置図

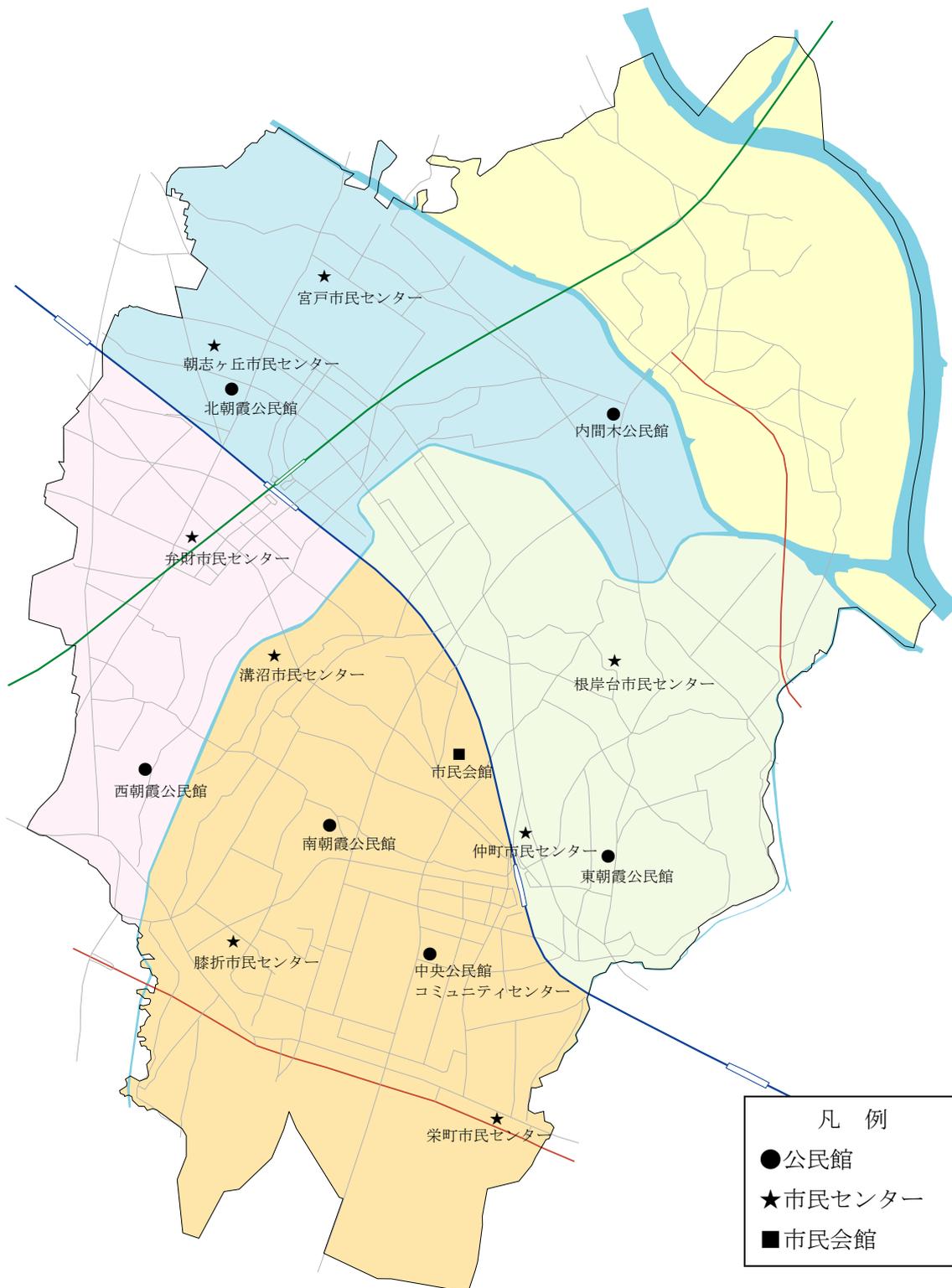


図 4-1-8 : 市民文化系施設の位置図

○各施設の現況

南朝霞公民館					
所在地	溝沼 1-5-24				
施設所管課	中央公民館				
建物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上 3 階、地下なし			
	延床面積	1,332.98 m <sup>2</sup>			
	建築年	昭和 52（1977）年			
	耐震性能	耐震改修工事済（H23 年度）			
施設の概要	南地区の公民館として単独で設置されています。				
設備など	駐車場 28 台、駐輪場あり、エレベータあり				
主なサービス	施設（部屋等）貸出、主催事業実施、ロビーの一般開放など				
施設維持費用 （年間）	光熱水費	2,587 千円	設備点検費	1,308 千円	
	建物管理費	1,730 千円	警備費	277 千円	
	清掃費	2,527 千円	廃棄物処理費	0 千円	
	消耗品・修繕費	1,526 千円	通信費	155 千円	
	その他	118 千円	合計	10,228 千円	
主な部屋の 利用状況	講堂（1 階）	89.4% 16,241 人	談話室（1 階）	32.8% 1,391 人	
	図書室（1 階）	4,550 人	実習室（2 階）	46.5% 3,314 人	
	会議室（2 階）	57.8% 7,556 人	資料室（2 階）	41.0% 2,924 人	
	和室（3 階）	54.1% 1,583 人	視聴覚室（3 階）	79.9% 6,238 人	
	注記：施設貸出対象の部屋は、上段が利用率、下段が年間利用人数です。				
改修工事の状況	平成 23 年度に耐震改修工事と併せて内外装の改修工事を実施しました。				

北朝霞公民館				
所在地		朝志ヶ丘 1-4-1		
施設所管課		中央公民館		
建 物	建物概要	鉄筋コンクリート (RC) 造 地上 2 階、地下なし		
	延床面積	708.98 m <sup>2</sup>		
	建築年	昭和 51 (1976) 年		
	耐震性能	耐震診断の結果、耐震強度ありと判定。		
施設の概要		北地区の公民館として単独で設置されています。平成 4 年に図書室が鉄骨 (S) 造平屋建てで増築されています。		
設備など		駐車場 16 台、駐輪場あり		
主なサービス		施設 (部屋等) 貸出、主催事業実施、ロビーの一般開放など		
施設維持費用 (年間)	光熱水費	1,925 千円	設備点検費	660 千円
	建物管理費	1,633 千円	警備費	278 千円
	清掃費	2,205 千円	廃棄物処理費	0 千円
	消耗品・修繕費	2,965 千円	通信費	244 千円
	その他	160 千円	合計	10,070 千円
主な部屋の 利用状況	和室 (1 階)	56.0% 4,867 人	実習室 (1 階)	63.8% 7,349 人
	談話室 (1 階)	57.0% 4,263 人	図書室 (1 階)	12,311 人
	会議室 (2 階)	69.4% 8,779 人	講堂 (2 階)	93.1% 20,353 人
	注記：施設貸出対象の部屋は、上段が利用率、下段が年間利用人数です。			

東朝霞公民館					
所在地	根岸台 6-8-45				
施設所管課	中央公民館				
建物	建物概要	鉄筋コンクリート (RC) 造 地上 2 階、地下なし			
	延床面積	1,356.84 m <sup>2</sup>			
	建築年	昭和 55 (1980) 年			
	耐震性能	耐震改修工事済 (H22 年度)			
施設の概要	東地区の公民館として単独で設置されています。				
設備など	駐車場 27 台、駐輪場あり				
主なサービス	施設 (部屋等) 貸出、主催事業実施、ロビーの一般開放など				
施設維持費用 (年間)	光熱水費	3,682 千円	設備点検費	575 千円	
	建物管理費	1,472 千円	警備費	278 千円	
	清掃費	2,581 千円	廃棄物処理費	0 千円	
	消耗品・修繕費	1,276 千円	通信費	153 千円	
	その他	445 千円	合計	10,462 千円	
主な部屋の 利用状況	児童室 (1 階)	83.9% 9,028 人	図書室 (1 階)	5,822 人	
	第 1 会議室 (2 階)	71.8% 6,572 人	第 2 会議室 (2 階)	65.7% 5,469 人	
	体育室 (2 階)	93.7% 15,427 人	視聴覚室 (2 階)	86.8% 9,405 人	
	和室 (2 階)	45.3% 3,218 人			
	注記：施設貸出対象の部屋は、上段が利用率、下段が年間利用人数です。				
改修工事の状況	平成 22 年度に耐震改修工事と併せて内外装の改修工事を実施しました。				

内間木公民館					
所在地	田島 2-18-47				
施設所管課	中央公民館				
建物	建物概要	鉄筋コンクリート (RC) 造 地上 2 階、地下なし			
	延床面積	1,295.77 m <sup>2</sup>			
	建築年	昭和 58 (1983) 年			
	耐震性能	新耐震基準の建物です。			
施設の概要	北地区の公民館として単独で設置されています。昭和 61 年に陶芸窯置場が鉄骨 (S) 造平屋建てで増築されています。				
設備など	駐車場 37 台、駐輪場あり				
主なサービス	施設 (部屋等) 貸出、主催事業実施、ロビーの一般開放など				
施設維持費用 (年間)	光熱水費	2,911 千円	設備点検費	1,111 千円	
	建物管理費	1,466 千円	警備費	278 千円	
	清掃費	2,622 千円	廃棄物処理費	0 千円	
	消耗品・修繕費	1,448 千円	通信費	204 千円	
	その他	81 千円	合計	10,121 千円	
主な部屋の 利用状況	視聴覚室 (1 階)	76.8% 9,646 人	会議室 (2 階)	64.7% 6,476 人	
	和室 (2 階)	36.9% 3,673 人	実習室 (2 階)	51.2% 5,967 人	
	体育室 (2 階)	93.1% 14,878 人	図書室 (1 階)	2,244 人	
	注記：施設貸出対象の部屋は、上段が利用率、下段が年間利用人数です。				

西朝霞公民館					
所在地	膝折町 4-19-1				
施設所管課	中央公民館				
建物	建物概要	鉄筋コンクリート (RC) 造 地上 2 階、地下なし			
	延床面積	1,281.07 m <sup>2</sup>			
	建築年	昭和 59 (1984) 年			
	耐震性能	新耐震基準の建物です。			
施設の概要	西地区の公民館として単独で設置されています。				
設備など	駐車場 23 台、駐輪場あり				
主なサービス	施設 (部屋等) 貸出、主催事業実施、ロビーの一般開放など				
施設維持費用 (年間)	光熱水費	3,527 千円	設備点検費	990 千円	
	建物管理費	1,472 千円	警備費	278 千円	
	清掃費	2,400 千円	廃棄物処理費	0 千円	
	消耗品・修繕費	974 千円	通信費	149 千円	
	その他	93 千円	合計	9,883 千円	
主な部屋の 利用状況	図書室 (1 階)	4,655 人	実習室 (1 階)	45.9% 4,196 人	
	体育室 (2 階)	95.0% 18,457 人	会議室 (2 階)	55.9% 6,850 人	
	和室 (2 階)	41.4% 2,754 人	視聴覚室 (2 階)	70.1% 7,496 人	
	注記：施設貸出対象の部屋は、上段が利用率、下段が年間利用人数です。				

中央公民館・コミュニティセンター					
所在地	青葉台 1-7-1				
施設所管課	中央公民館				
建物	建物概要	鉄骨鉄筋 コンクリート（SRC）造 地上3階、地下1階			
	延床面積	4,044.47 m <sup>2</sup> （本施設部分）			
	建築年	昭和59（1984）年			
	耐震性能	新耐震基準の建物です。			
施設の概要	公民館の中央施設、コミュニティセンターとして設置されており、施設内には女性センターが併設されています。				
設備など	駐車場43台、駐輪場あり、エレベータあり				
主なサービス	施設（部屋等）貸出、主催事業実施、ロビーの一般開放など				
施設維持費用 （年間）	光熱水費	11,282 千円	設備点検費	3,039 千円	
	建物管理費	818 千円	警備費	2,444 千円	
	清掃費	9,716 千円	廃棄物処理費	0 千円	
	消耗品・修繕費	2,960 千円	通信費	427 千円	
	その他	215 千円	合計	30,901 千円	
主な部屋の 利用状況	第1和室（1階）	65.6% 4,891 人	第2和室（1階）	64.7% 4,763 人	
	会議室（1階）	78.9% 9,541 人	実習室（2階）	32.9% 4,874 人	
	第1集会室（2階）	53.8% 10,440 人	第2集会室（2階）	56.1% 9,357 人	
	展示ギャラリー （1階）	55.0% 24,314 人	音楽室（2階）	84.3% 17,944 人	
	美術・工芸室（2階）	70.7% 9,262 人	レクリエーション ホール（2階）	92.8% 20,189 人	
	注記：施設貸出対象の部屋は、上段が利用率、下段が年間利用人数です。				

朝志ヶ丘市民センター					
所在地	朝志ヶ丘 3-8-16				
施設所管課	地域づくり支援課				
建物	建物概要	鉄骨 (S) 造 地上 3 階、地下なし			
	延床面積	237.89 m <sup>2</sup>			
	建築年	平成 6 (1994) 年			
	耐震性能	新耐震基準の建物です。			
施設の概要	北地区の市民センターとして設置されており、町内会館を併設しています。				
指定管理者	公益社団法人 朝霞地区シルバー人材センター				
設備など	駐輪場あり				
主なサービス	施設 (部屋等) 貸出、ロビーの一般開放など				
施設維持費用 (年間)	光熱水費	473 千円	設備点検費	395 千円	
	建物管理費	0 千円	警備費	300 千円	
	清掃費	239 千円	廃棄物処理費	0 千円	
	消耗品・修繕費	1,065 千円	通信費	63 千円	
	その他	0 千円	合計	2,535 千円	
主な部屋の 利用状況	集会室 1 (1 階)	56.2% 5,427 人	集会室 2 (1 階)	42.1% 4,584 人	
	和室 1 (2 階)	40.5% 3,187 人	和室 2 (2 階)	35.2% 2,924 人	
	町内会館 (3 階)				
注記：施設貸出対象の部屋は、上段が利用率、下段が年間利用人数です。					

弁財市民センター				
所在地		西弁財 2-2-3		
施設所管課		地域づくり支援課		
建 物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上3階、地下1階		
	延床面積	836.22 m <sup>2</sup>		
	建築年	平成2（1990）年		
	耐震性能	新耐震基準の建物です。		
施設の概要		西地区の市民センターとして設置されており、町内会館、シルバーサロンを併設しています。平成13年に鉄骨（S）造で一部増築されています。		
指定管理者		公益社団法人 朝霞地区シルバー人材センター		
設備など		駐車場4台（軽自動車）、駐輪場あり、エレベータあり		
主なサービス		施設（部屋等）貸出、ロビーの一般開放など		
施設維持費用 （年間）	光熱水費	1,468千円	設備点検費	1,663千円
	建物管理費	0千円	警備費	300千円
	清掃費	265千円	廃棄物処理費	0千円
	消耗品・修繕費	730千円	通信費	79千円
	その他	0千円	合計	4,505千円
主な部屋の 利用状況	ホール（1階）	72.3% 20,200人	和室（2階）	55.8% 4,998人
	会議室（2階）	76.8% 6,605人	町内会館（3階）	
	注記：施設貸出対象の部屋は、上段が利用率、下段が年間利用人数です			

宮戸市民センター					
所在地	宮戸 1-2-60				
施設所管課	地域づくり支援課				
建物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上3階、地下なし			
	延床面積	947.60 m <sup>2</sup>			
	建築年	平成8（1996）年			
	耐震性能	新耐震基準の建物です。			
施設の概要	北地区の市民センターとして設置されており、町内会館を併設しています。				
指定管理者	公益社団法人 朝霞地区シルバー人材センター				
設備など	駐車場 23 台、駐輪場あり、エレベータあり				
主なサービス	施設（部屋等）貸出、ロビーの一般開放など				
施設維持費用 （年間）	光熱水費	2,430 千円	設備点検費	2,097 千円	
	建物管理費	0 千円	警備費	250 千円	
	清掃費	266 千円	廃棄物処理費	0 千円	
	消耗品・修繕費	869 千円	通信費	69 千円	
	その他	216 千円	合計	6,197 千円	
主な部屋の 利用状況	ホール（1階）	76.6% 15,128 人	会議室 1（1階）	76.0% 7,500 人	
	会議室 2（2階）	67.3% 5,038 人	和室 A（2階）	44.7% 5,149 人	
	和室 B（2階）	39.1% 4,344 人	町内会館（3階）		
	注記：施設貸出対象の部屋は、上段が利用率、下段が年間利用人数です。				

栄町市民センター					
所在地	栄町 4-4-26				
施設所管課	地域づくり支援課				
建物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上3階、地下なし			
	延床面積	927.76 m <sup>2</sup>			
	建築年	平成8（1996）年			
	耐震性能	新耐震基準の建物です。			
施設の概要	南地区の市民センターとして単独で設置されており、町内会館を併設しています。				
指定管理者	公益社団法人 朝霞地区シルバー人材センター				
設備など	駐車場5台、駐輪場あり、エレベータあり				
主なサービス	施設（部屋等）貸出、ロビーの一般開放など				
施設維持費用 （年間）	光熱水費	1,792 千円	設備点検費	2,137 千円	
	建物管理費	0 千円	警備費	300 千円	
	清掃費	212 千円	廃棄物処理費	0 千円	
	消耗品・修繕費	620 千円	通信費	66 千円	
	その他	186 千円	合計	5,313 千円	
主な部屋の 利用状況	ホール（1階）	70.7% 11,102 人	会議室（2階）	49.9% 3,254 人	
	和室1（2階）	39.6% 2,907 人	和室2（2階）	10.5% 1,299 人	
	町内会館（3階）				
注記：施設貸出対象の部屋は、上段が利用率、下段が年間利用人数です。					

仲町市民センター				
所在地	仲町 1-2-16			
施設所管課	地域づくり支援課			
建物	建物概要	鉄筋コンクリート (RC) 造 地上 3 階、地下なし		
	延床面積	696.96 m <sup>2</sup>		
	建築年	平成 9 (1997) 年		
	耐震性能	新耐震基準の建物です。		
施設の概要	東地区の市民センターとして設置されており、町内会館を併設しています。			
指定管理者	公益社団法人 朝霞地区シルバー人材センター			
設備など	駐車場 5 台、駐輪場あり、エレベータあり			
主なサービス	施設 (部屋等) 貸出、ロビーの一般開放など			
施設維持費用 (年間)	光熱水費	1,629 千円	設備点検費	1,753 千円
	建物管理費	0 千円	警備費	228 千円
	清掃費	199 千円	廃棄物処理費	0 千円
	消耗品・修繕費	839 千円	通信費	63 千円
	その他	46 千円	合計	4,757 千円
主な部屋の 利用状況	ホール (1 階)	83.8% 13,314 人	会議室 (2 階)	75.8% 7,307 人
	和室 (2 階)	52.5% 6,898 人	町内会館 (3 階)	
	注記：施設貸出対象の部屋は、上段が利用率、下段が年間利用人数です。			



溝沼市民センター					
所在地	大字溝沼 1057-3				
施設所管課	地域づくり支援課				
建物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上3階、地下なし			
	延床面積	920.50 m <sup>2</sup>			
	建築年	平成9（1997）年			
	耐震性能	新耐震基準の建物です。			
施設の概要	南地区の市民センターとして設置されており、町内会館を併設しています。				
指定管理者	公益社団法人 朝霞地区シルバー人材センター				
設備など	駐車場40台、駐輪場あり、エレベータあり				
主なサービス	施設（部屋等）貸出、ロビーの一般開放など				
施設維持費用 （年間）	光熱水費	1,979千円	設備点検費	1,945千円	
	建物管理費	0千円	警備費	250千円	
	清掃費	187千円	廃棄物処理費	0千円	
	消耗品・修繕費	1,549千円	通信費	67千円	
	その他	69千円	合計	6,046千円	
主な部屋の 利用状況	ホール（1階）	86.9% 14,225人	会議室（2階）	66.3% 6,898人	
	和室1（2階）	63.9% 7,455人	和室2（2階）	50.5% 5,483人	
	町内会館（3階）				
	注記：施設貸出対象の部屋は、上段が利用率、下段が年間利用人数です。				

根岸台市民センター				
所在地	根岸台 2-15-12			
施設所管課	地域づくり支援課			
建物	建物概要	鉄筋コンクリート (RC) 造 地上 4 階、地下なし		
	延床面積	1,509.87 m <sup>2</sup> (本施設部分)		
	建築年	平成 18 (2006) 年		
	耐震性能	新耐震基準の建物です。		
施設の概要	東地区の市民センターとして設置されています。施設内には、ねぎし だいい児童館、シルバーサロン、町内会館が併設されています。			
指定管理者	公益社団法人 朝霞地区シルバー人材センター			
設備など	駐車場 44 台、駐輪場あり、エレベータあり			
主なサービス	施設 (部屋等) 貸出、ロビーの一般開放など			
施設維持費用 (年間)	光熱水費	4,188 千円	設備点検費	2,669 千円
	建物管理費	0 千円	警備費	350 千円
	清掃費	840 千円	廃棄物処理費	0 千円
	消耗品・修繕費	1,565 千円	通信費	153 千円
	その他	109 千円	合計	9,874 千円
主な部屋の 利用状況	ホール (1 階)	76.1% 17,255 人	第一会議室 (1 階)	56.6% 7,591 人
	第二会議室 (1 階)	67.5% 6,112 人	工作室 (2 階)	22.1% 3,122 人
	町内会集会室 (2 階)			
注記：施設貸出対象の部屋は、上段が利用率、下段が年間利用人数です。				

膝折市民センター				
所在地	膝折町 1-7-40			
施設所管課	地域づくり支援課			
建物	建物概要	鉄筋コンクリート (RC) 造 地上 3 階、地下なし		
	延床面積	1,812.20 m <sup>2</sup> (本施設部分)		
	建築年	平成 21 (2009) 年		
	耐震性能	新耐震基準の建物です。		
施設の概要	南地区の市民センターとして設置されています。施設内には、ひざおり児童館、シルバーサロン、町内会館が併設されています。			
指定管理者	公益社団法人 朝霞地区シルバー人材センター			
設備など	駐車場 46 台、駐輪場あり、エレベータあり			
主なサービス	施設 (部屋等) 貸出、ロビーの一般開放など			
施設維持費用 (年間)	光熱水費	4,041 千円	設備点検費	2,644 千円
	建物管理費	0 千円	警備費	271 千円
	清掃費	610 千円	廃棄物処理費	0 千円
	消耗品・修繕費	591 千円	通信費	184 千円
	その他	143 千円	合計	8,484 千円
主な部屋の 利用状況	ホール (1 階)	81.8% 15,093 人	第一会議室 (1 階)	88.3% 7,817 人
	第二会議室 (1 階)	79.3% 8,623 人	多目的スタジオ (3 階)	
	町内会集会室 (3 階)			
	注記：施設貸出対象の部屋は、上段が利用率、下段が年間利用人数です。			

市民会館					
所在地	本町 1-26-1				
施設所管課	地域づくり支援課				
建物	建物概要	鉄骨鉄筋コンクリート (SRC) 造 地上 5 階、地下 1 階			
	延床面積	6,958.29 m <sup>2</sup>			
	建築年	昭和 51 (1976) 年			
耐震性能	ホール・会議棟については、耐震診断の結果、耐震強度不足と判定されています。増築棟は新耐震基準の建物です。				
施設の概要	朝霞市の市民会館として単独で設置されています。平成 9 年に鉄骨 (S) 造 2 階建てで増築されています。				
指定管理者	公益財団法人 朝霞市文化・スポーツ振興公社				
設備など	駐車場 124 台、駐輪場あり、エレベータあり				
主なサービス	施設 (部屋等) 貸出、主催事業実施、ロビーの一般開放など				
施設維持費用 (年間)	光熱水費	28,707 千円	設備点検費	7,866 千円	
	建物管理費	12,222 千円	警備費	3,308 千円	
	清掃費	10,605 千円	廃棄物処理費	288 千円	
	消耗品・修繕費	9,378 千円	通信費	321 千円	
	その他	500 千円	合計	73,195 千円	
主な部屋の 利用状況	ホール (1 階)	54.4% 117,858 人	会議室 2 0 1 (2 階)	38.0% 22,940 人	
	会議室 3 0 1 (3 階)	31.4% 6,965 人	会議室 3 0 2 (3 階)	49.2% 2,654 人	
	会議室 3 0 3 (3 階)	46.2% 3,939 人	会議室 3 0 4 (3 階)	37.6% 5,488 人	
	楽屋 1 ~ 4	計 6,060 人	披露宴室 松・竹・梅	計 14,955 人	
	リハーサル室 (新館 1 階)	74.3% 51,111 人	披露宴室 高砂 (新館 2 階)	37.6% 5,488 人	
注記：施設貸出対象の部屋は、上段が利用率、下段が年間利用人数です。					

## 2 社会教育系施設

社会教育系施設は、図書館や博物館に代表されるように、市民の皆さんに学びの場を提供する施設です。社会教育系施設の一覧を表 4-2-1 に示します。なお、図書館については、下表に示したものの以外にも、中央以外の公民館 5 箇所にも図書室が設けられており、図書館と同様の機能があります。また、その他の社会教育系施設としては、旧高橋家住宅や湧水代官水などがあります。

表 4-2-1：社会教育系施設一覧

施設名称	棟数	建築年	延床面積	地区
図書館	1	昭和 62 年	2,769 m <sup>2</sup>	南
図書館北朝霞分館	(1)	平成 11 年	558 m <sup>2</sup>	北
博物館	1	平成 8 年	2,500 m <sup>2</sup>	東
埋蔵文化財センター	2	平成 3 年	453 m <sup>2</sup>	北

注記：建築年は最も古い棟のものを示しています。

複合施設ではそれぞれの施設部分の床面積を表示しています。

延床面積は、端数処理の都合で合計がほかの表と一致しない場合があります。

棟数の欄が ( ) 書きの施設は、賃貸もしくは他の施設と複合化されています。

### ○建築年別延床面積

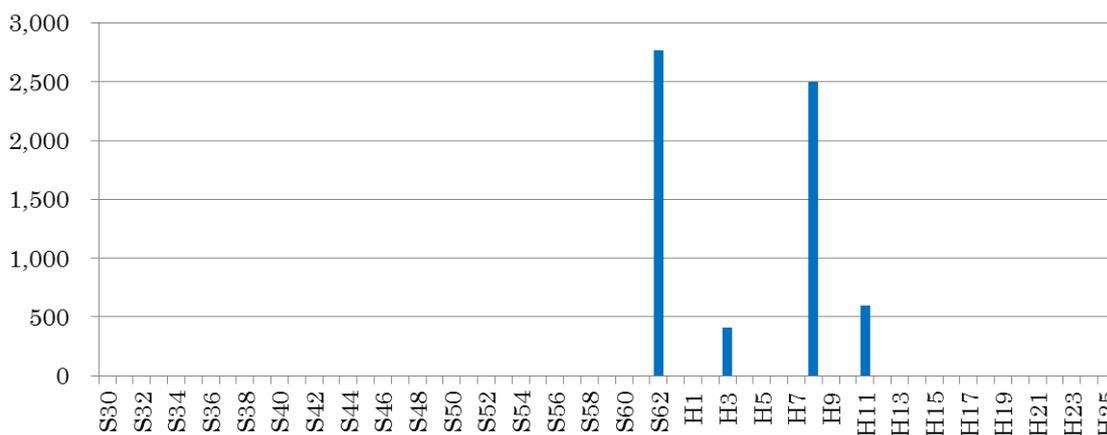


図 4-2-1：社会教育系施設 建築年別延床面積 (単位：m<sup>2</sup>)

社会教育系施設は、図書館と博物館がほとんどを占めており、すべて築30年以内です。また、旧耐震基準の建物はありません。

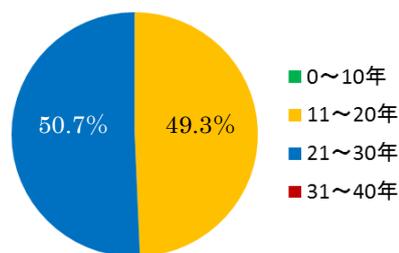


図 4-2-2：社会教育系施設 築年数別床面積割合

### ○利用人数の推移

図書館と博物館の年間利用者数の推移を図 4-2-3 に示します。図書館の利用者数には、各公民館に併設されている図書室の人数を含んでいます。いずれもほぼ横ばいの傾向が続いています。なお、埋蔵文化財センターについては、利用者がかなり限定されることから、図の対象外としました。

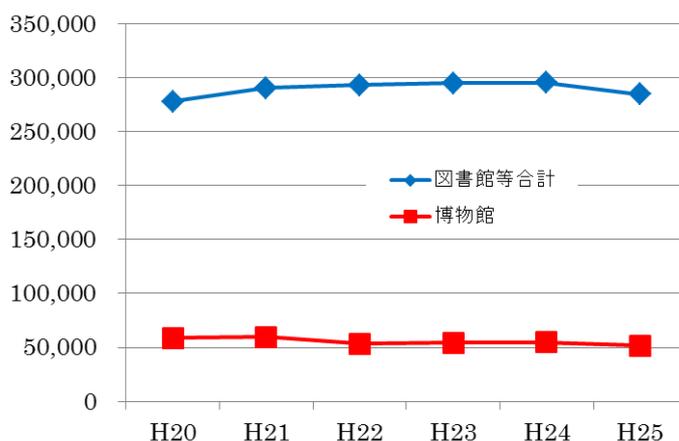


図 4-2-3：社会教育系施設 年間利用者数の推移 (単位：人)

### ○維持費用の比較

社会教育系施設全体での維持費用の内訳を図 4-2-4 に示します。光熱水費と清掃費の割合が高くなっています。

各施設ごとの維持費用を図 4-2-5 に、延床面積 1㎡あたりの維持費用を図 4-2-6 に、利用者 1人あたりの維持費用を図 4-2-6 にそれぞれ示します。なお、埋蔵文化財センターの利用者数はきわめて少数であるため、利用者 1人あたりの比較は対象外としました。

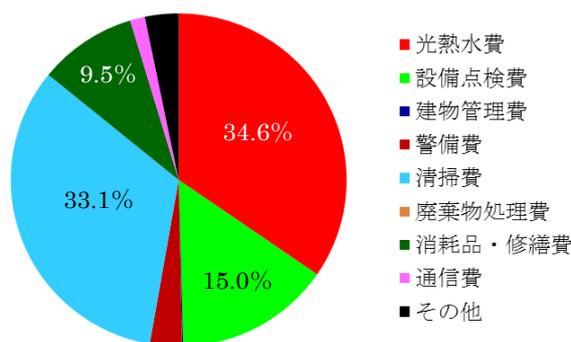


図 4-2-4：維持費用の性質別内訳

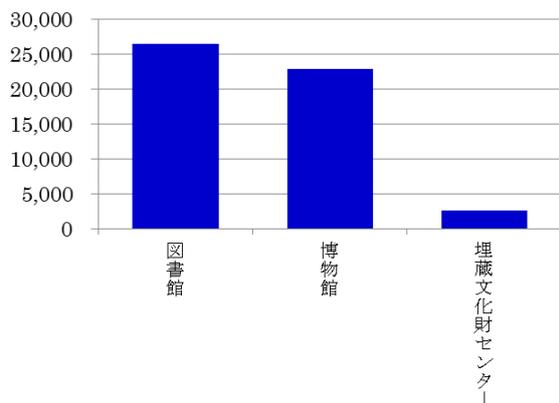


図 4-2-5 : 各施設ごとの維持費用比較  
(単位：千円)

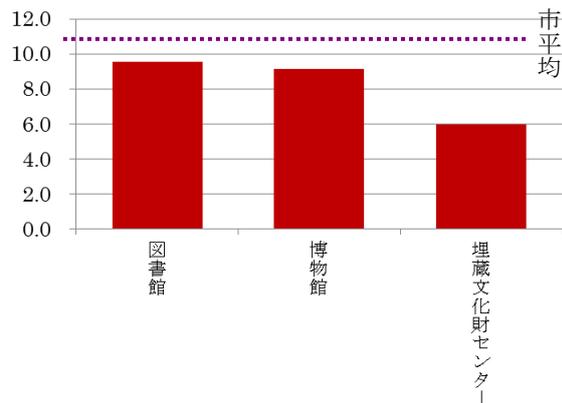


図 4-2-6 : 延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの維持費用比較 (単位：千円)

図書館の維持費用が比較的高額なように思えますが、そのぶん利用者数が多いため、延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの維持費用は市平均以下で、利用者 1 人あたりの維持費用では逆に博物館より安価になっています。

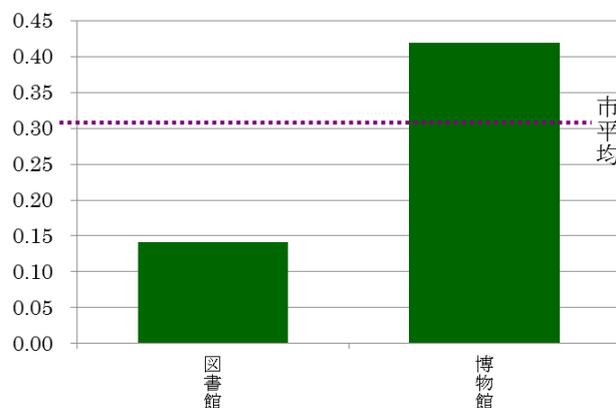


図 4-2-7 : 利用者 1 人あたりの維持費用比較 (単位：千円)

### ○全体の課題

建築年別延床面積の項でも記述しましたが、社会教育系施設は全般に築年数が浅く、現在のところ深刻な老朽化の問題には直面していません。しかし、経年劣化による建物の不具合がみられるほか、建物内には多くの物品を収蔵していることから、これらに影響を与えないように、大規模改修を計画的に行う必要があります。

○位置図

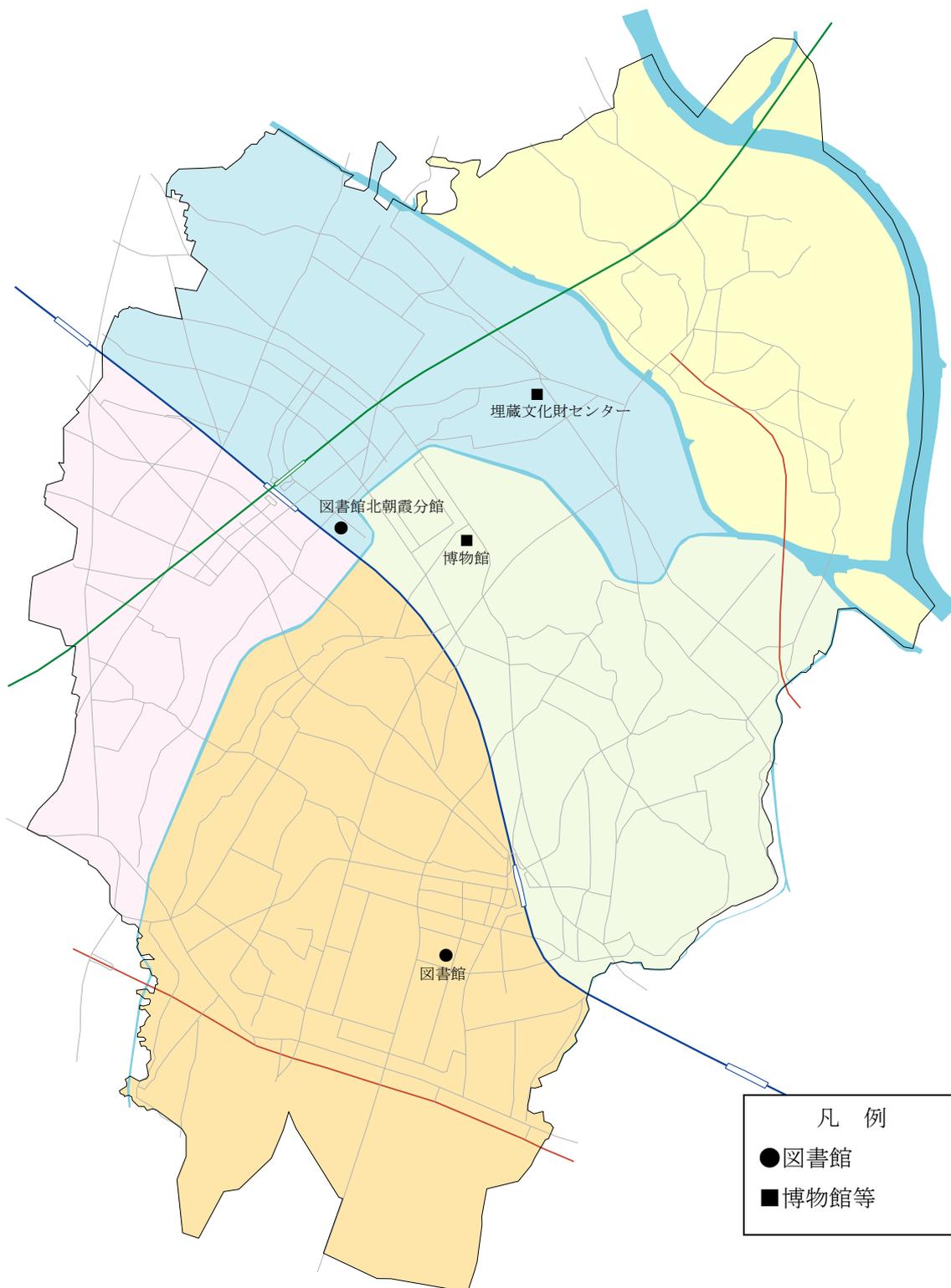


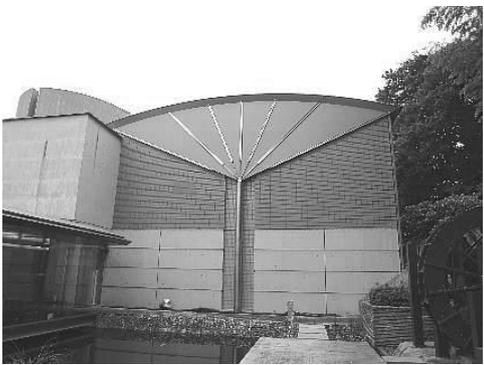
図 4-2-8 : 社会教育系施設の位置図

○各施設の現況

図書館					
所在地	青葉台 1-7-26				
施設所管課	図書館				
建物	建物概要	鉄筋コンクリート (RC) 造 地上 2 階、地下 1 階			
	延床面積	2,769.44 m <sup>2</sup>			
	建築年	昭和 62 (1987) 年			
	耐震性能	新耐震基準の建物です。			
施設の概要		朝霞市の図書館として単独で設置されています。			
設備など		駐車場 52 台、駐輪場、エレベータあり			
主なサービス		図書の貸出、レファレンス、主催事業の実施など			
施設維持費用 (年間)	光熱水費	11,445 千円	設備点検費	3,153 千円	
	建物管理費	0 千円	警備費	315 千円	
	清掃費	9,229 千円	廃棄物処理費	0 千円	
	消耗品・修繕費	1,726 千円	通信費	460 千円	
	その他	131 千円	合計	26,459 千円	
主な部屋の 利用状況	視聴覚室 (1 階)	50%	会議室 (1 階)	18.2%	
	応接室 (1 階)	3%	集会室 (1 階)		
	和室 (1 階)		コンピュータ室 (1 階)		
	注記：施設貸出対象の部屋は、右方に利用率を示しています。				



図書館北朝霞分館（産業文化センター内に設置）		
所在地	大字浜崎 669-1	
施設所管課	図書館	
建物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上4階（産文センター内）
	延床面積	558.45 m <sup>2</sup>
	建築年	平成11（1999）年
	耐震性能	新耐震基準の建物です。
		
施設の概要	朝霞市の図書館として産業文化センター内に設置されています。	
設備など	駐車場 75 台（産業文化センター全体）、駐輪場、エレベータあり	
主なサービス	図書の貸出、レファレンス、ビジネス支援、主催事業の実施など	
施設維持費用 （年間）	産業文化センターに含む	
主な部屋	図書館（2階）	書庫（2階）
	多目的室（2階）	

博物館				
所在地		岡 2-7-22		
施設所管課		文化財課		
建 物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上2階、地下なし		
	延床面積	2,500.00 m <sup>2</sup>		
	建築年	平成8（1996）年		
	耐震性能	新耐震基準の建物です。		
施設の概要		市の博物館として単独で設置されています。		
設備など		駐車場 22 台、駐輪場、エレベータあり		
主なサービス		歴史や文化資料の保存、展示など		
施設維持費用 （年間）	光熱水費	5,863 千円	設備点検費	4,451 千円
	建物管理費	58 千円	警備費	947 千円
	清掃費	8,008 千円	廃棄物処理費	0 千円
	消耗品・修繕費	1,740 千円	通信費	280 千円
	その他	1,559 千円	合 計	22,906 千円
主な部屋	展示室（1階）		ギャラリー（1階）	
	図書室（1階）		講座室（1階）	
	体験学習室（1階）		事務室（1階）	

埋蔵文化財センター				
所在地	大字浜崎 231-2			
施設所管課	文化財課			
建物	建物概要	鉄骨 (S) 造 地上 2 階、地下なし		
	延床面積	452.67 m <sup>2</sup>		
	建築年	平成 3 (1991) 年		
	耐震性能	新耐震基準の建物です。		
施設の概要	市の埋蔵文化財センターとして単独で設置されています。 平成 11 年に鉄骨 (S) 造平屋建てで増築されています。			
設備など	駐車場 2 台、駐輪場あり			
主なサービス	市内で出土した埋蔵文化財の整理・保存の実施			
施設維持費用 (年間)	光熱水費	703 千円	設備点検費	205 千円
	建物管理費	0 千円	警備費	341 千円
	清掃費	0 千円	廃棄物処理費	0 千円
	消耗品・修繕費	1,464 千円	通信費	0 千円
	その他	0 千円	合計	2,713 千円
主な部屋	事務室 (1 階)		整理室 (1 階)	
	撮影室 (2 階)		会議室 (2 階)	

### 3 スポーツ・公園系施設

スポーツ・公園系施設は、市民の皆さんがスポーツやレクリエーションなどを楽しんでいただく場所です。スポーツを目的として単独で設置されている施設や、都市公園内にスポーツ施設が設けられているものなど、様々な形態が存在しています。この種の施設は、必ずしも建物を必要としないものもありますが、ここでは一定規模の建物があるものを対象にしています。表 4-3-1 にスポーツ・公園系施設の一覧を示します。

表 4-3-1：スポーツ・公園系施設一覧

施設名称	棟数	建築年	延床面積	地区
総合体育館	1	昭和 57 年	6,221 m <sup>2</sup>	南
武道館	1	昭和 51 年	932 m <sup>2</sup>	南
溝沼子どもプール	5	昭和 63 年	462 m <sup>2</sup>	南
滝の根テニスコート	1	平成 4 年	29.7 m <sup>2</sup>	南
内間木公園	1	平成 11 年	480 m <sup>2</sup>	内間木
青葉台公園	6	昭和 56 年	819 m <sup>2</sup>	南
朝霞中央公園	8	昭和 57 年	2,245 m <sup>2</sup>	南
北朝霞公園	3	平成 3 年	27 m <sup>2</sup>	北
北割公園	1	平成 17 年	14 m <sup>2</sup>	北
浜崎公園	1	平成 22 年	17 m <sup>2</sup>	北
西久保公園	1	平成 21 年	17 m <sup>2</sup>	西
弁財公園	2	平成 3 年	21 m <sup>2</sup>	西
南割公園	1	平成 19 年	17 m <sup>2</sup>	西
城山公園	2	平成 5 年	27 m <sup>2</sup>	東
越戸公園	1	平成 8 年	10 m <sup>2</sup>	南
上の原公園	1	平成 2 年	5 m <sup>2</sup>	南
泉水公園	1	平成 18 年	9 m <sup>2</sup>	西
滝の根公園	2	昭和 63 年	25 m <sup>2</sup>	南
島の上公園	1	平成元年	22 m <sup>2</sup>	西
水久保公園	2	平成 2 年	124 m <sup>2</sup>	東
北浦公園	1	平成 16 年	10 m <sup>2</sup>	南
中道公園	1	平成 12 年	16 m <sup>2</sup>	南
広沢公園	1	平成 14 年	10 m <sup>2</sup>	南

(表 4-3-1 続き)

南の風公園	1	平成 5 年	23 m <sup>2</sup>	南
いずみ公園	1	平成 14 年	8 m <sup>2</sup>	西
あけぼの公園	1	平成 16 年	10 m <sup>2</sup>	東
柗塚古墳歴史広場	1	平成 16 年	12 m <sup>2</sup>	東
三原公園	1	平成 20 年	7 m <sup>2</sup>	西
宮戸ハケタ公園	1	平成 20 年	11 m <sup>2</sup>	北
根岸台自然公園	1	平成 21 年	23 m <sup>2</sup>	東
湧水代官水	1	平成 24 年	14 m <sup>2</sup>	東
新高橋ふれあい広場	1	平成 18 年	11 m <sup>2</sup>	南

注記：建築年は最も古い棟のものを示しています。

延床面積は、端数処理の都合で合計がほかの表と一致しない場合があります。

### ○建築年別延床面積

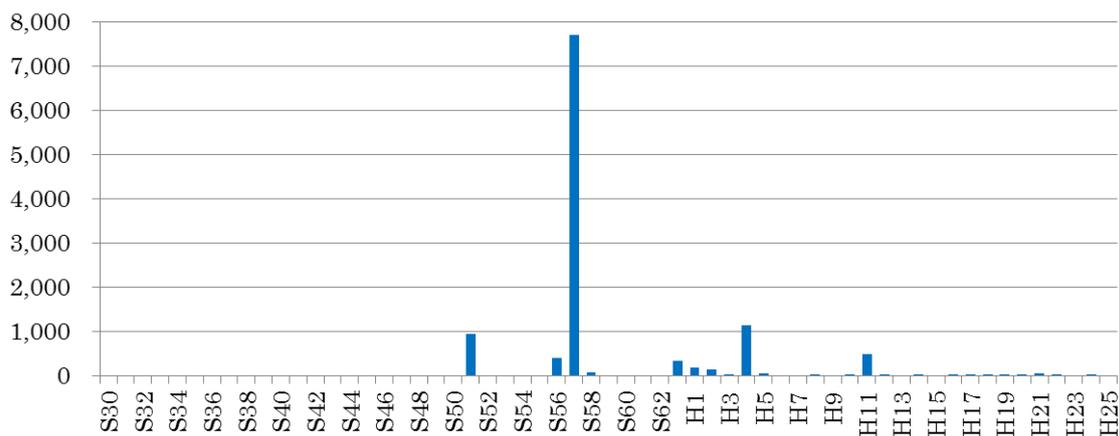


図 4-3-1：スポーツ・公園系施設 建築年別延床面積 (単位：m<sup>2</sup>)

スポーツ・公園系施設は、朝霞中央公園の陸上競技場・野球場や青葉台公園、総合体育館など、昭和 56～57 年頃にかけて基地跡地に集中的に整備された施設が多くを占めています。これらは築年数が 30 年を超えており、大規模改修が必要な時期にさしかかっています。なお、旧耐震基準で耐震強度が不足している建物は、武道館のみです。

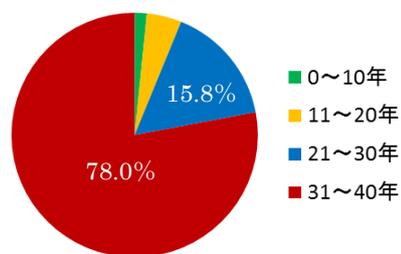


図 4-3-2：スポーツ・公園系施設 築年数別床面積割合

### ○利用人数の推移

スポーツ・公園系施設の年間利用者数の推移を図 4-3-3 に示します。利用者数は年度単位で増減がみられます。

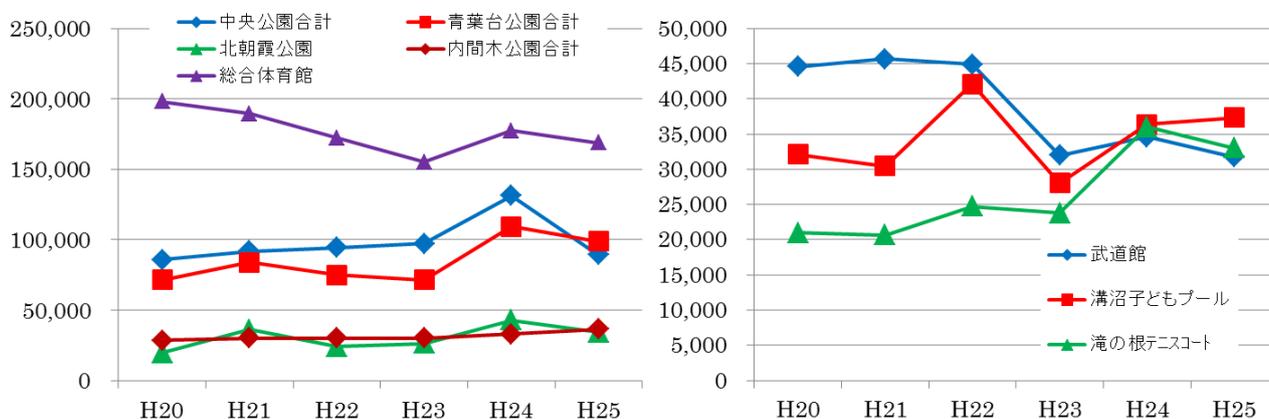


図 4-3-3：スポーツ・公園系施設の年間利用者数の推移 (単位：人)

### ○維持費用の比較

施設の維持費用の内訳を図 4-3-4 に示します。他の施設に比べて、建物管理費の割合が高い傾向にあります。なお、この費用には、指定管理料の人件費相当分は含んでいません。

次に、各施設ごとの維持費用を図 4-3-5 に、利用者 1 人あたりの維持費用を図 4-3-6 に、それぞれ示します。

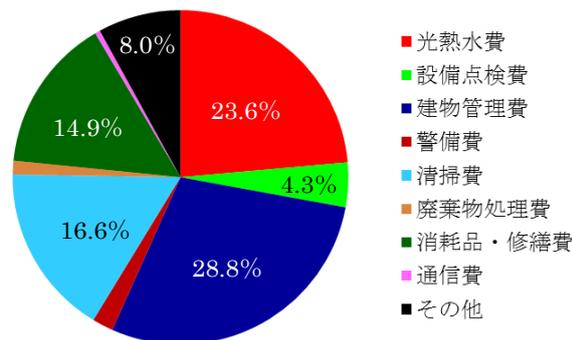


図 4-3-4：維持費用の性質別内訳

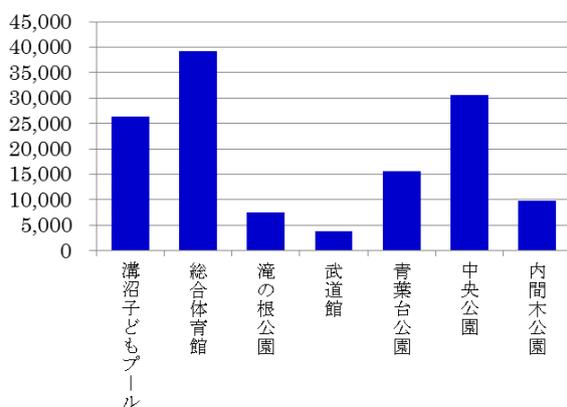


図 4-3-5：各施設ごとの維持費用比較 (単位：千円)

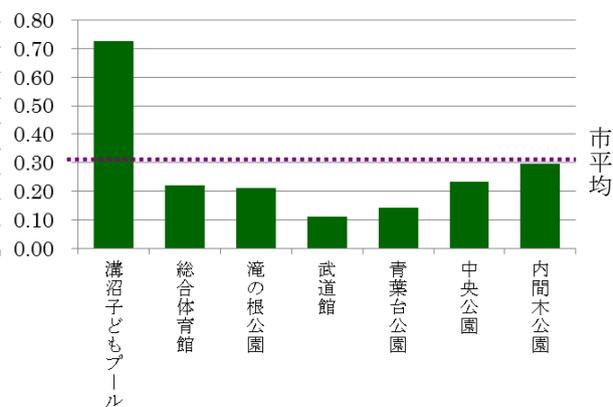


図 4-3-6：利用者 1 人あたりの維持費用比較 (単位：千円)

## ○全体の課題

建物については、昭和 56～57 年頃に、朝霞中央公園、青葉台公園、総合体育館などが集中的に整備されており、これらが延床面積の多くを占めています。これらの施設は、築年数は 30 年を超えており、老朽化の傾向がみられ、大規模改修工事が必要な時期にさしかかっているものと考えられます。また、武道館については、耐震強度が不足した状態になっており、何らかの対策が必要です。

利用者数は、年度ごとの増減はあるものの、現時点では概ね横ばいに推移しています。また、体育館の機能としては、ここに示した施設のほかに小・中学校の体育館を一部時間帯や一部曜日に地域に開放しており、実質的に体育館機能を補完しています。

○位置図

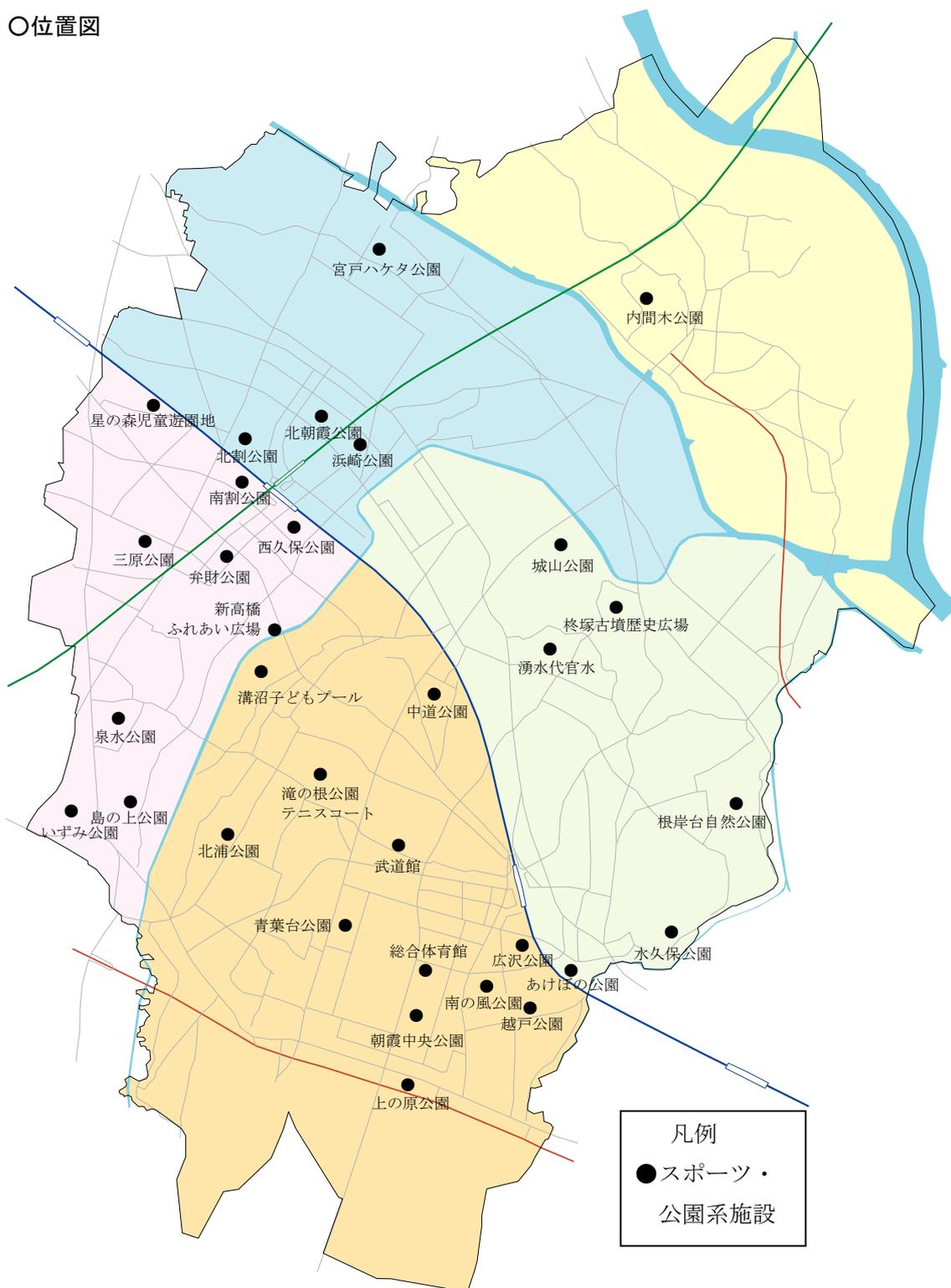


図 4-3-7 : スポーツ・公園系施設の位置図

○各施設の現況

総合体育館					
所在地	青葉台 1-8-1				
施設所管課	生涯学習・スポーツ課				
建物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上 2 階、地下なし			
	延床面積	6,221.05 m <sup>2</sup>			
	建築年	昭和 57（1982）年			
	耐震性能	新耐震基準の建物です。			
施設の概要	市の体育館として単独で設置されています。				
指定管理者	公益財団法人 朝霞市文化・スポーツ振興公社				
設備など	駐車場 82 台、駐輪場あり				
主なサービス	メインアリーナ、トレーニングルームなどの貸出、各種大会の開催				
施設維持費用 (年間)	光熱水費	9,014 千円	設備点検費	1,768 千円	
	建物管理費	16,725 千円	警備費	278 千円	
	清掃費	7,176 千円	廃棄物処理費	172 千円	
	消耗品・修繕費	3,647 千円	通信費	288 千円	
	その他	177 千円	合計	39,245 千円	
主な施設の 利用状況	メインアリーナ (1 階)	80.7% 72,137 人	サブアリーナ(1 階)	88.9% 41,424 人	
	会議室 (1 階)	27.0% 10,956 人	トレーニングルーム (1 階)	100% 41,865 人	
	ランニングコース (2 階)		医務室 (1 階)		
	注記：右方の数字は上から利用率、年間利用人数を示しています。				

武道館					
所在地		本町 1-12-3			
施設所管課		生涯学習・スポーツ課			
建 物	建物概要	鉄筋コンクリート (RC) 造 地上 2 階、地下なし			
	延床面積	932.00 m <sup>2</sup>			
	建築年	昭和 51 (1976) 年			
	耐震性能	耐震診断 (H21 年度) の結果、 耐震強度不足と判定されています。			
施設の概要		市の武道館として単独で設置されています。			
指定管理者		公益財団法人 朝霞市文化・スポーツ振興公社			
設備など		駐車場 18 台、駐輪場あり			
主なサービス		柔道場、剣道場、相撲場等の貸出			
施設維持費用 (年間)		光熱水費	1,142 千円	設備点検費	357 千円
		建物管理費	1,349 千円	警備費	65 千円
		清掃費	622 千円	廃棄物処理費	0 千円
		消耗品・修繕費	56 千円	通信費	60 千円
		その他	200 千円	合計	3,851 千円
主な部屋の 利用状況		柔道場 (1 階)	59.5% 13,799 人	剣道場 (2 階)	67.9% 16,491 人
		相撲場 (屋外)	3.2% 1,090 人	師範更衣室 (1、2 階)	
		注記：右方の数字は上から利用率、年間利用人数を示しています。			

溝沼子どもプール				
所在地		大字溝沼 1033		
施設所管課		生涯学習・スポーツ課		
建物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上1階、地下なし		
	延床面積	462.36 m <sup>2</sup>		
	建築年	昭和 63（1988）年		
施設の概要		市の子どもプールとして単独で設置されています。		
設備など		駐車場 90 台、駐輪場あり		
主なサービス		子ども（未就学児～小学生）専用プールの提供		
施設維持費用 （年間）	光熱水費	5,180 千円	設備点検費	1,004 千円
	建物管理費	13,356 千円	警備費	2,033 千円
	清掃費	0 千円	廃棄物処理費	0 千円
	消耗品・修繕費	4,758 千円	通信費	59 千円
	その他	0 千円	合計	26,390 千円
主な部屋		事務室（1階）		

内間木公園				
所在地		大字上内間木 518-3		
施設所管課		生涯学習・スポーツ課 みどり公園課		
建 物	建物概要	木造 (W) 造 地上 1 階、地下なし		
	延床面積	479.83 m <sup>2</sup>		
	建築年	平成 11 (1999) 年		
	耐震性能	新耐震基準の建物です。		
施設の概要		市の弓道場及び公園事務室として単独で設置されています。		
指定管理者		公益財団法人 朝霞市文化・スポーツ振興公社		
設備など		駐車場 41 台、駐輪場あり		
主なサービス		弓道場、ソフトボール場、テニスコートの貸出など		
施設維持費用 (年間)	光熱水費	2,256 千円	設備点検費	627 千円
	建物管理費	143 千円	警備費	65 千円
	清掃費	39 千円	廃棄物処理費	496 千円
	消耗品・修繕費	2,115 千円	通信費	54 千円
	その他	3,993 千円	合計	9,788 千円
主な部屋	弓道場 (1 階)		事務室 (1 階)	
	給湯室 (1 階)		師範室 (1 階)	
	看的室 (1 階)			

青葉台公園（管理事務所・フィールドハウス）					
所在地	大字膝折 2-29				
施設所管課	生涯学習・スポーツ課 みどり公園課				
建物	建物概要	管理事務所：鉄筋 コンクリート（RC）造 2 階 フィールドハウス： 木（W）造 1 階			
	延床面積	819.28 m <sup>2</sup> （全体の合計）			
	建築年	昭和 56（1981）年			
施設の概要	青葉台公園内の建物としては、管理事務所、テニスコートフィールドハウスやトイレ、倉庫などがあります。				
指定管理者	公益財団法人 朝霞市文化・スポーツ振興公社（テニスコート）				
設備など	駐車場 49 台、駐輪場あり				
主なサービス	テニスコートの貸出など				
施設維持費用 （年間）	光熱水費	3,779 千円	設備点検費	945 千円	
	建物管理費	0 千円	警備費	65 千円	
	清掃費	7,720 千円	廃棄物処理費	494 千円	
	消耗品・修繕費	2,085 千円	通信費	48 千円	
	その他	489 千円	合計	15,625 千円	
主な部屋	事務室（1階）		男女各更衣室（1階）		

朝霞中央公園					
所在地	青葉台 1-9-1				
施設所管課	生涯学習・スポーツ課 みどり公園課				
建 物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上2階など			
	延床面積	2,245.26 m <sup>2</sup>			
	建築年	昭和 57（1982）年			
施設の概要	市の総合公園として設置されています。施設内の主な建物としては、陸上競技場、野球場、トイレなどがあります。				
指定管理者	公益財団法人 朝霞市文化・スポーツ振興公社				
設備など	駐車場 53 台、駐輪場あり				
主なサービス	陸上競技場、野球場の貸出など				
施設維持費用 （年間）	光熱水費	9,847 千円	設備点検費	1,025 千円	
	建物管理費	0 千円	警備費	129 千円	
	清掃費	6,499 千円	廃棄物処理費	598 千円	
	消耗品・修繕費	6,635 千円	通信費	101 千円	
	その他	5,765 千円	合 計	30,599 千円	
主な部屋	事務室（1階）		応接室（1階）		
	審判員室（1階）		医務室（1階）		
	男女各更衣室（1階）		会議室（1階）		

## 4 産業系施設

産業系施設は、農業、商業、工業など市内で事業を営む皆さんの事業活動の振興を図るための施設です。部屋などを貸す機能が中心となっていますが、産業振興を目的とした、いわゆる商業利用が認められているのが特徴です。産業系施設の一覧を表 4-4-1 に示します。

表 4-4-1：産業系施設一覧

施設名称	棟数	建築年	延床面積	地区
産業文化センター	1	平成 11 年	2,880 m <sup>2</sup>	北
浜崎農業交流センター	1	平成 9 年	157 m <sup>2</sup>	北

注記：建築年は最も古い棟のものを示しています。

複合施設ではそれぞれの施設部分の床面積を表示しています。

延床面積は、端数処理の都合で合計がほかの表と一致しない場合があります。

### ○建築年別延床面積

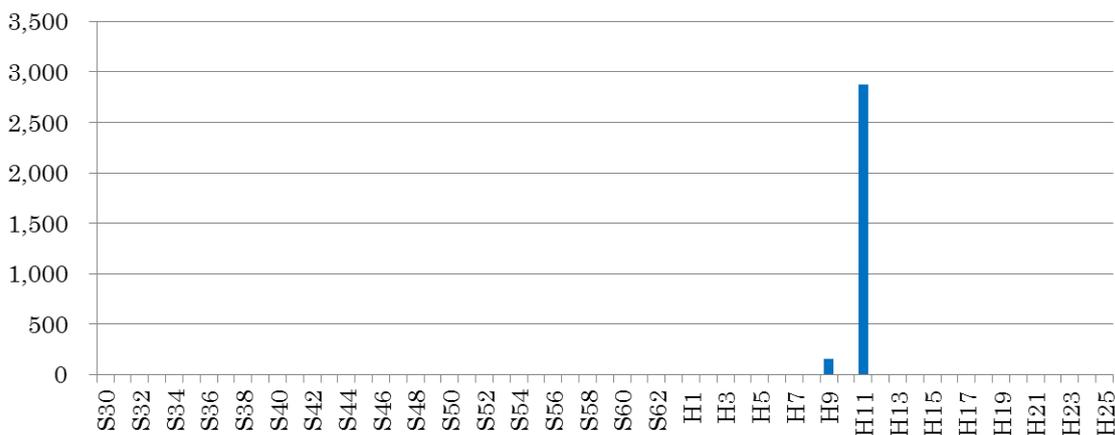


図 4-4-1：産業系施設 建築年別延床面積 (単位：m<sup>2</sup>)

産業系施設は、いずれも築年数 20 年以内の新耐震基準の建物で占められています。

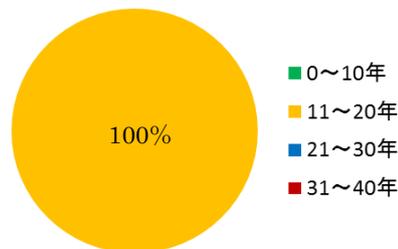


図 4-4-2：産業系施設  
築年数別床面積割合

### ○利用人数の推移

産業系施設のうち、産業文化センターの年間利用者数の推移を図 4-4-3 に示します。年ごとの若干の変動はあるものの、概ね横ばいを保っています。

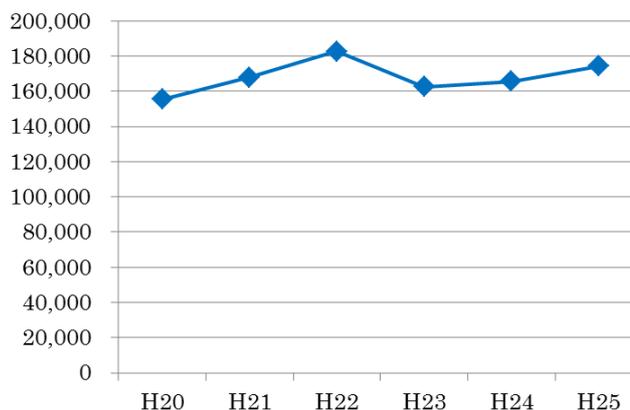


図 4-4-3：産業文化センターの年間利用者数の推移（単位：人）

### ○維持費用の比較

施設の維持費用の内訳を図 4-4-4 に示します。この費用には、指定管理料の人工費相当分は含まれていません。

各施設の維持費用比較を図 4-4-5 に、延床面積 1㎡あたりの維持費用の比較を図 4-4-6 に、それぞれ示します。

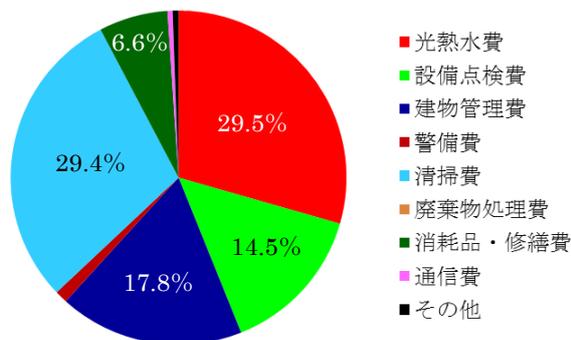


図 4-4-4：維持費用の性質別内訳

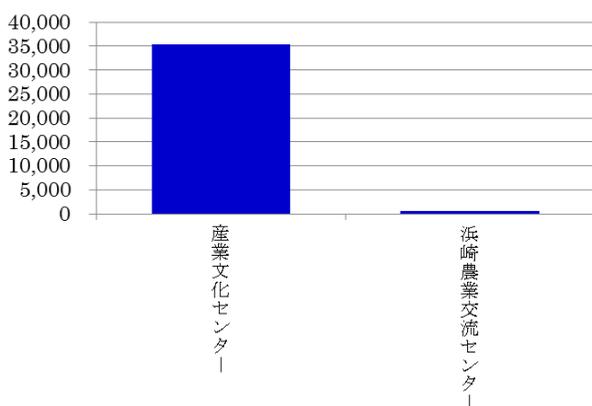


図 4-4-5：各施設ごとの維持費用比較  
(単位：千円)

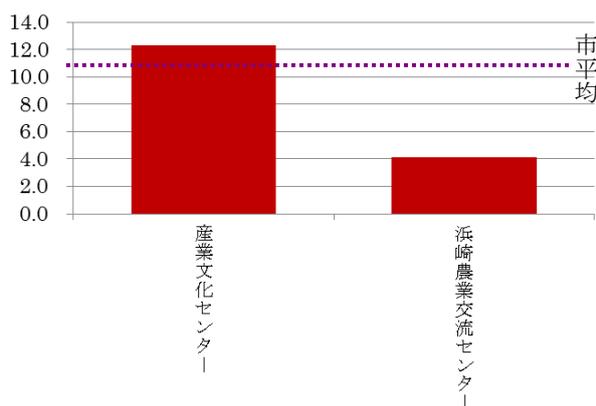


図 4-4-6：延床面積 1㎡あたりの維持費用比較  
(単位：千円)

### ○全体の課題

建物については、いずれも築年数が浅く、現状では大きな課題はありません。

○位置図

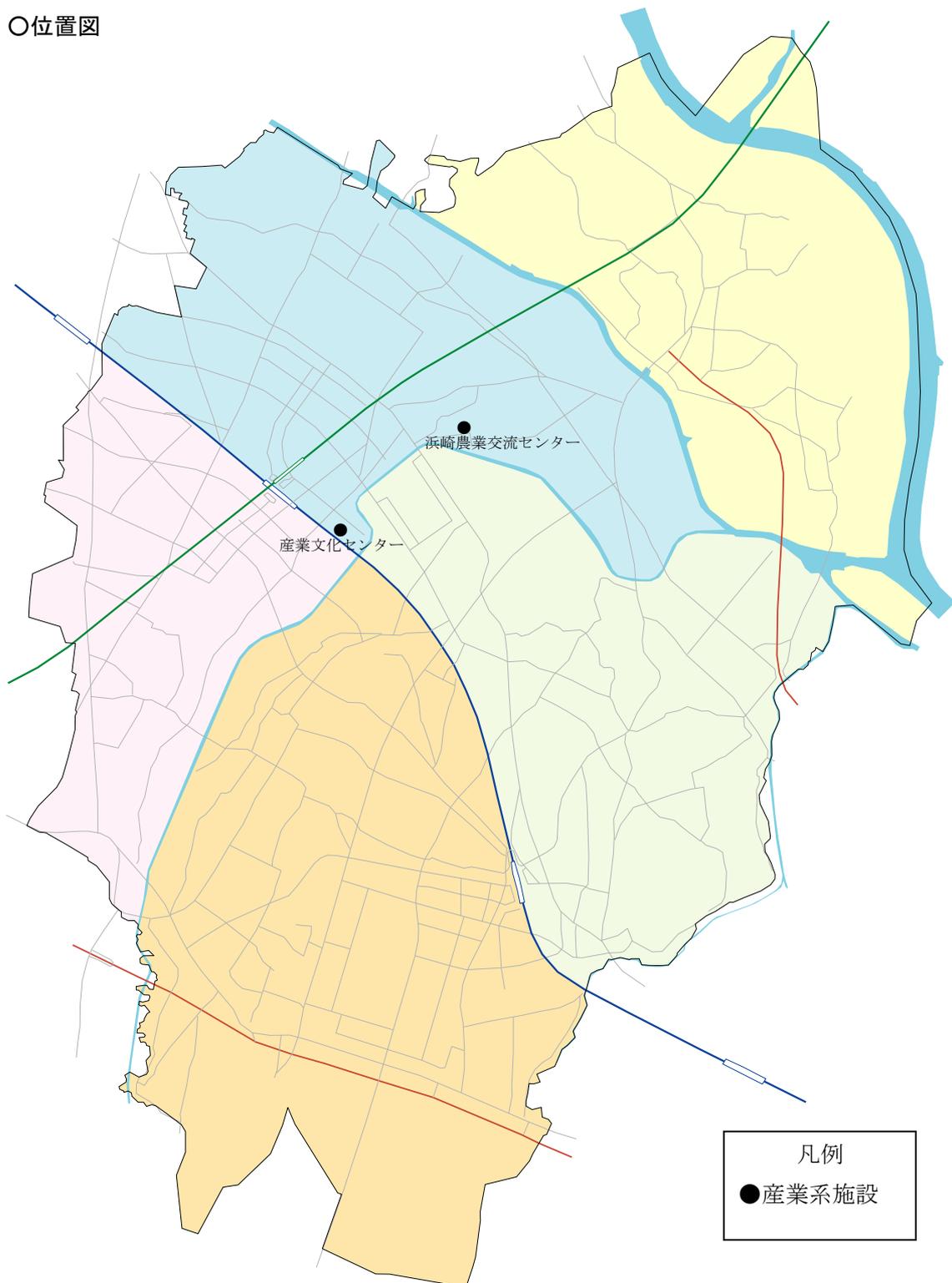


図 4-4-7 : 産業系施設の位置図

○各施設の現況

産業文化センター				
所在地	大字浜崎 669-1			
施設所管課	産業振興課			
建物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上4階、地下なし		
	延床面積	2,880.14 m <sup>2</sup> （本施設部分）		
	建築年	平成11（1999）年		
	耐震性能	新耐震基準の建物です。		
施設の概要	市の産業文化センターとして設置され、建物内に事務室や会議室、ホール、舞台などがあるほか、図書館北朝霞分館が併設されています。			
指定管理者	朝霞市商工会			
設備など	駐車場 75 台、駐輪場あり、エレベータあり			
主なサービス	施設（部屋等）貸出、主催事業実施、ロビーの一般開放など			
施設維持費用 （年間）	光熱水費	10,166 千円	設備点検費	5,127 千円
	建物管理費	6,412 千円	警備費	438 千円
	清掃費	10,572 千円	廃棄物処理費	0 千円
	消耗品・修繕費	2,305 千円	通信費	138 千円
	その他	205 千円	合計	35,363 千円
主な部屋の 利用状況	ギャラリー（1階）	79.3% 69,708 人	研修室兼集会室(1) （2階）	62.8% 28,550 人
	研修室兼集会室(2) （2階）	67.8% 14,275 人	研修室兼集会室(3) （2階）	68.3% 19,025 人
	会議室（3階）	77.0% 8,589 人		
	多目的ホール （ホールのみ使用） （3階）	45.2% 12,958 人	多目的ホール （ホール・ステージ 使用）（3階）	23.2% 21,222 人
	注記：施設貸出対象の部屋は、上段が利用率、下段が年間利用人数です。			



浜崎農業交流センター				
所在地		大字浜崎 18-2		
施設所管課		産業振興課		
建物	建物概要	鉄骨 (S) 造 地上 1 階、地下なし		
	延床面積	156.51 m <sup>2</sup>		
	建築年	平成 9 (1997) 年		
施設の概要		地場農産物の直売活動の拠点として、また市民と農業者の交流の場として、単独で設置されています。		
設備など		駐車場 10 台、駐輪場あり		
主なサービス		地場農産物の直売施設として貸し出し		
施設維持費用 (年間)	光熱水費	437 千円	設備点検費	84 千円
	建物管理費	0 千円	警備費	0 千円
	清掃費	0 千円	廃棄物処理費	0 千円
	消耗品・修繕費	81 千円	通信費	39 千円
	その他	0 千円	合計	641 千円
主な部屋		事務所 (1 階)		



## 5 学校教育系施設

義務教育を行う場や、それらを補完する施設として設置されているのが、学校教育系施設です。具体的には、小学校と中学校が該当しますが、これに関連した学校給食センターや、子ども相談室も含んでいます。学校教育系施設の一覧を表 4-5-1 に示します。

表 4-5-1：学校教育系施設一覧

施設名称	棟数	建築年	延床面積	地区
○小学校				
朝霞第一小学校	14	昭和 36 年	7,841 m <sup>2</sup>	南
朝霞第二小学校	16	昭和 34 年	6,239 m <sup>2</sup>	東
朝霞第三小学校	13	昭和 36 年	6,597 m <sup>2</sup>	北
朝霞第四小学校	5	平成 22 年	11,955 m <sup>2</sup>	南
朝霞第五小学校	7	平成 22 年	14,614 m <sup>2</sup>	西
朝霞第六小学校	11	昭和 46 年	6,436 m <sup>2</sup>	南
朝霞第七小学校	11	昭和 47 年	6,622 m <sup>2</sup>	北
朝霞第八小学校	11	昭和 51 年	6,603 m <sup>2</sup>	南
朝霞第九小学校	7	昭和 57 年	4,662 m <sup>2</sup>	東
朝霞第十小学校	6	平成 12 年	9,657 m <sup>2</sup>	南
○中学校				
朝霞第一中学校	4	平成 18 年	13,395 m <sup>2</sup>	南
朝霞第二中学校	16	昭和 40 年	8,833 m <sup>2</sup>	東
朝霞第三中学校	11	昭和 48 年	8,648 m <sup>2</sup>	南
朝霞第四中学校	9	昭和 52 年	6,947 m <sup>2</sup>	南
朝霞第五中学校	9	昭和 53 年	5,874 m <sup>2</sup>	北
○その他				
浜崎学校給食センター	3	昭和 61 年	1,409 m <sup>2</sup>	北
栄町学校給食センター	4	昭和 52 年	1,009 m <sup>2</sup>	南
溝沼学校給食センター	1	平成 14 年	2,047 m <sup>2</sup>	南
子ども相談室	1	平成 7 年	200 m <sup>2</sup>	北

注記：建築年は最も古い棟のものを示しています。

複合施設ではそれぞれの施設部分の床面積を表示しています。

延床面積は、端数処理の都合で合計がほかの表と一致しない場合があります。

### ○建築年別延床面積

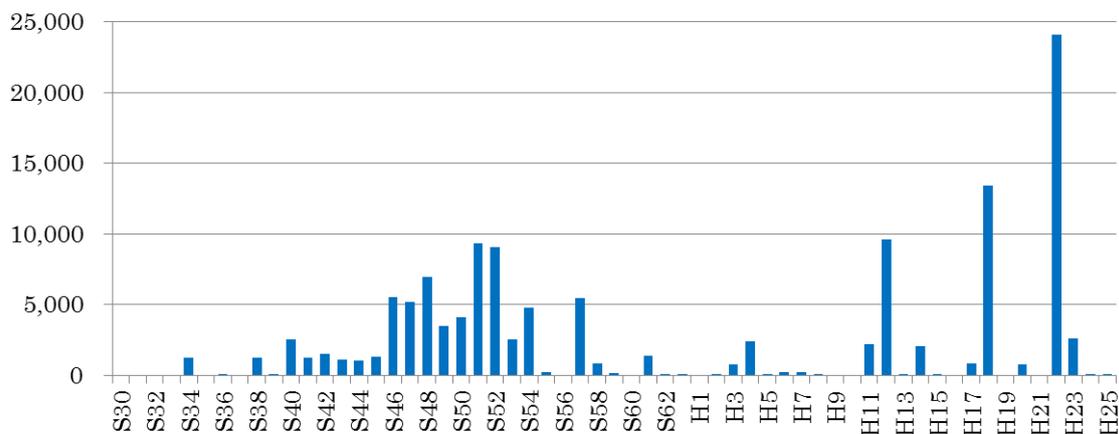


図 4-5-1: 学校教育系施設 建築年別延床面積 (単位: m<sup>2</sup>)

学校教育系施設は、延床面積の合計が約 13 万 m<sup>2</sup> に近く、保有量が非常に多いのが特徴です。また、築年数が 30 年を超える割合が 53.0% になっており、全般に老朽化が進んでいることが分かります。

また、耐震強度が不足している建物については、すべて耐震補強工事が完了しています。

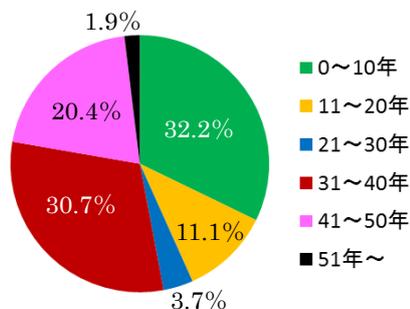


図 4-5-2: 学校教育系施設 築年数別床面積割合

### ○児童・生徒数の推移

小学校児童数と中学校生徒数の近年の推移を図 4-5-3 に示します。全体ではほぼ横ばいの人数になっています。

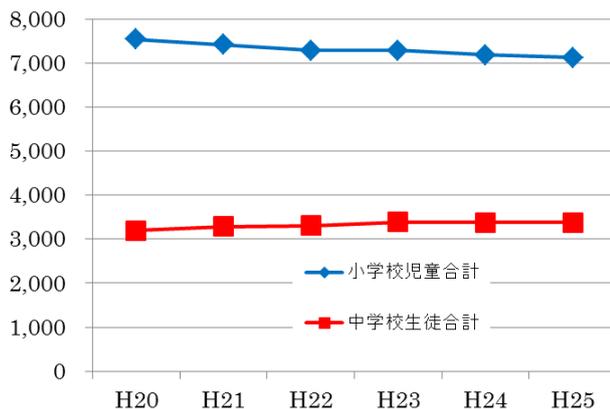


図 4-5-3: 小学校児童数、中学校生徒数の推移 (単位: 人)

## ○維持費用の比較

施設の維持費用の内訳を図 4-5-4 に示します。他の種類の施設に比べて光熱水費の割合が非常に高くなっています。これは、学校給食センターが光熱水費を多く使用する調理業務を行っているのが主な理由です。また、集計年度は平成 24 年度で、平成 24 年 9 月からはすべての小・中学校でエアコンが稼働を開始したことから、光熱水費の割合が高くなっているものと考えられます。

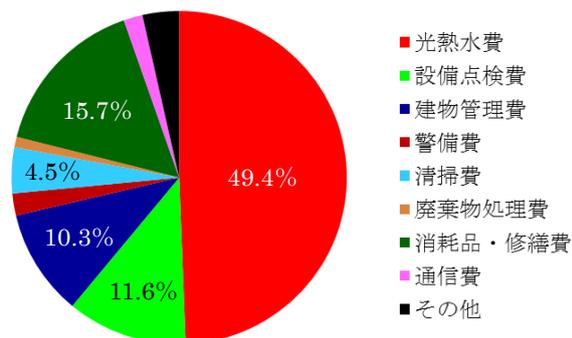


図 4-5-4：維持費用の性質別内訳

次に、小・中学校の学校別維持費用比較を図 4-5-5 に、児童・生徒 1 人あたりの維持費用比較を図 4-5-6 に、環境面での参考比較として、児童・生徒 1 人あたりの延床面積比較を図 4-5-7 に、それぞれ示します。

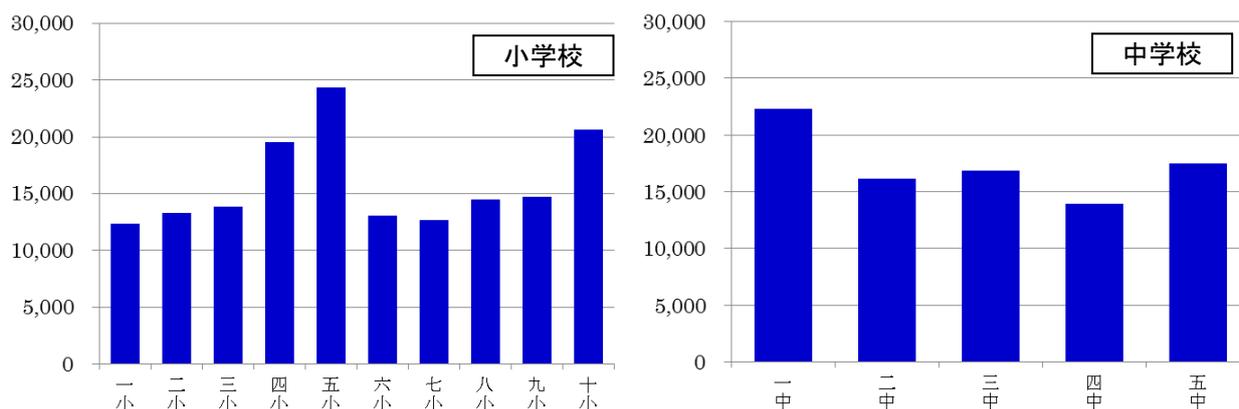


図 4-5-5：学校別維持費用比較 (単位：千円)

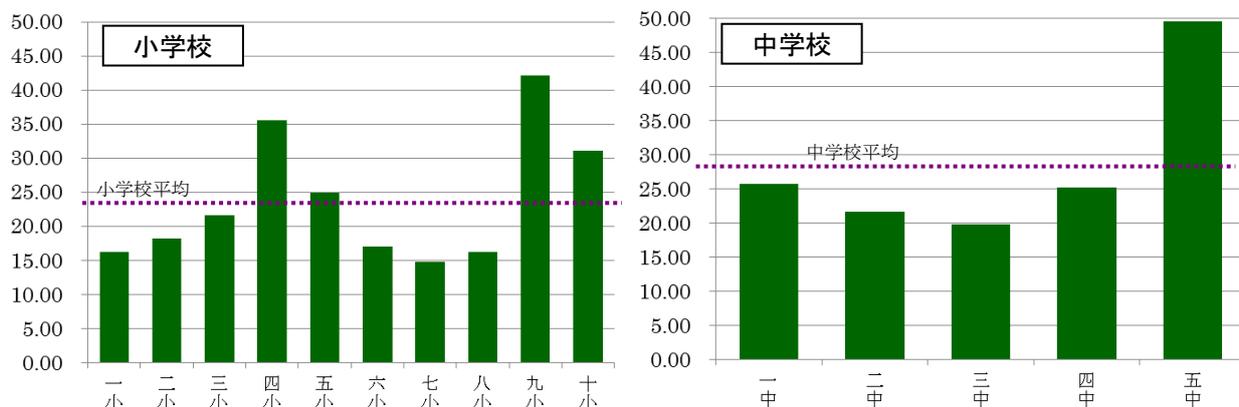


図 4-5-6：児童・生徒 1 人あたりの維持費用比較 (単位：千円)

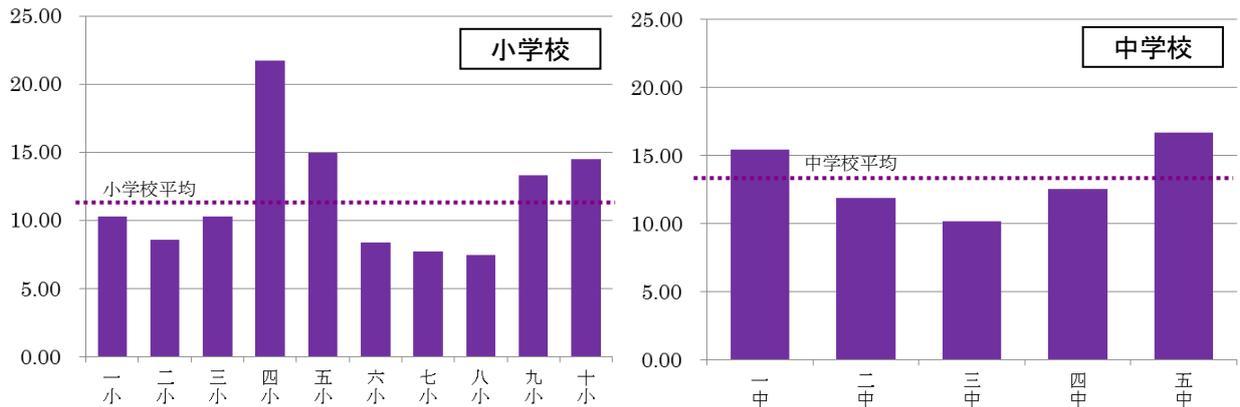


図 4-5-7：児童・生徒 1 人あたりの延床面積比較 (単位：m<sup>2</sup>)

これらの図を見ると、第九小学校や第五中学校のような児童・生徒数が少ない学校は、どうしても 1 人あたりの維持費用が高くなってしまいう傾向が分かります。一方、第四小学校は施設規模に比べて児童数が少なく、維持費用が高くなっていることが分かります。

これらの傾向をもう少し分かりやすく見るため、児童・生徒数と、1 人あたりの維持費用との相関を図 4-5-8 に示します。この図によれば、

小・中学校ともに児童・生徒数が多いほど効率的な運営ができている傾向が分かります。

また、児童・生徒 1 人あたりの延床面積では、学校ごとの差が特に大きくみられます。近年に建替えまたは新設した第四小学校、第五小学校、第十小学校、第一中学校と、比較的児童・生徒数の少ない第九小学校、第五中学校以外は平均値以下になっています。

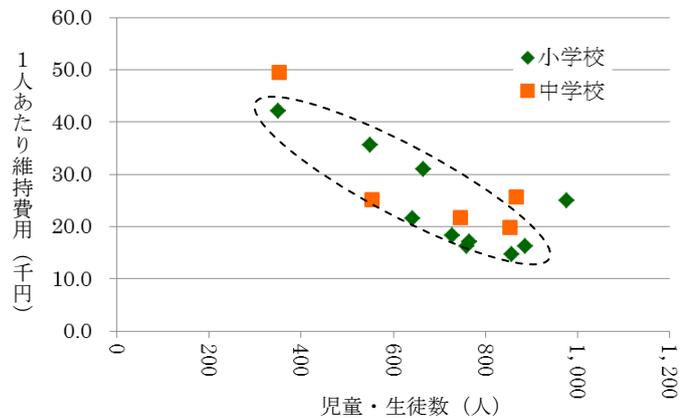


図 4-5-8：児童・生徒数（横軸）と、児童・生徒 1 人あたり維持費用（縦軸）との相関図

学校給食センターは、市内3箇所に設置されており、第四小学校、第五小学校をのぞく各学校に給食を供給しています。給食センターの施設別維持費用比較を図4-5-9に、供給1食あたりの維持費用を図4-5-10に、それぞれ示します。

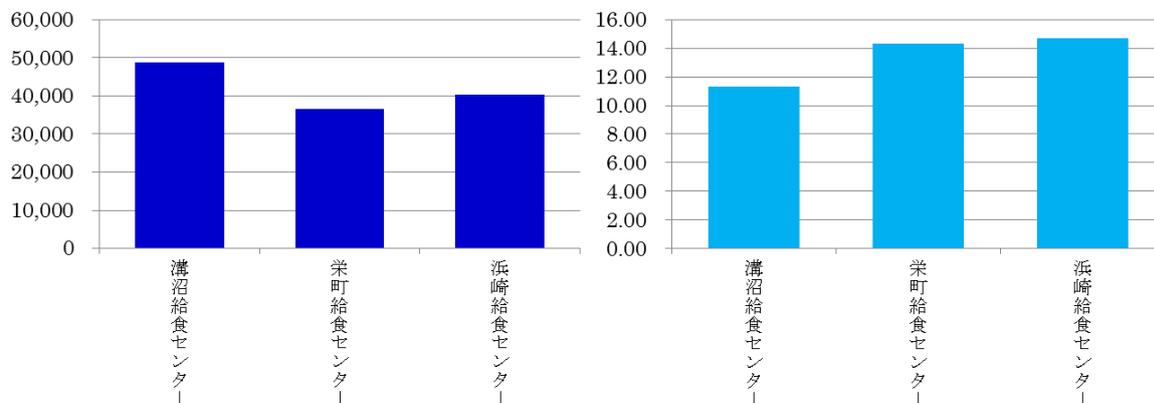


図 4-5-9：各施設ごとの維持費用比較  
(単位：千円)

図 4-5-10：供給1食あたりの維持費用比較 (単位：千円)

供給食数は溝沼が4,320食、栄町が2,549食、浜崎が2,740食で、供給食数が多い溝沼学校給食センターが最も効率よく運営できていることが分かります。

### ○全体の課題

建物については、第四小学校、第五小学校、第一中学校などのように建替えにより一新された学校がある一方で、その他は全般に老朽化が進んでいる状態にあります。特に築年数が50年を超えるものもあり、劣化状況を点検等を通じて確認し、必要に応じて修繕や改修を行う必要があります。ただし、老朽化に伴う修繕や改修工事は、これまで優先的に行われてきたことから、義務教育を行ううえで支障なく維持管理されています。

築年数30年以上の延床面積は68,616㎡あり、これは市の保有する公共施設全体の実に27.5%に相当します。これらをどう維持していくかは非常に大きな課題であり、長寿命化と建替えを組み合わせ、財政面で無理のない計画を立てる必要があります。

○位置図

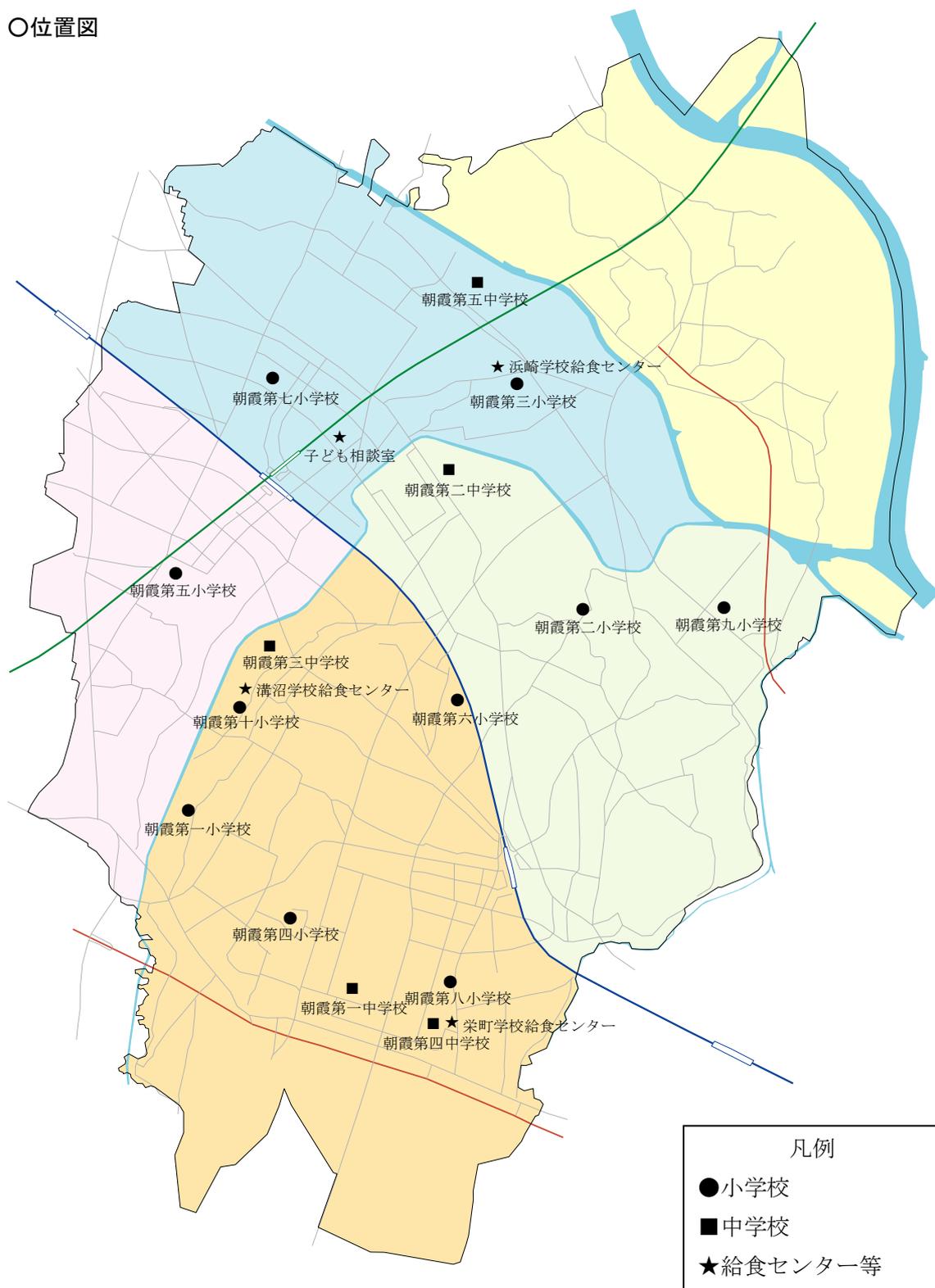


図 4-5-11 : 学校教育系施設の位置図

○各施設の現況

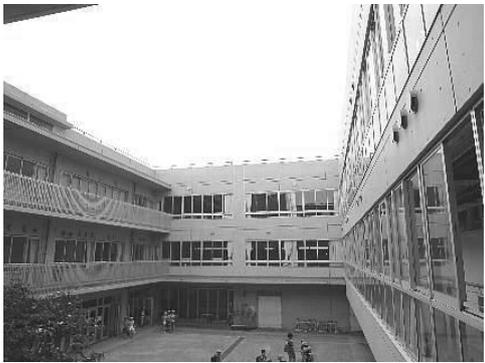
朝霞第一小学校				
所在地		膝折町 4-11-7		
施設所管課		教育総務課		
建 物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上 4 階など		
	延床面積	7,841.25 ㎡		
	建築年	昭和 36（1961）年		
	耐震性能	耐震改修工事済 （平成 19 年度）		
施設の概要		<p>膝折・泉水・溝沼地区の小学校として設置されています。</p> <p>児童数：760 人（H24.5.1 時点）</p> <p>【教室棟・体育館の建築年】</p> <p>教室棟（4 棟）：普通教室特別教室（S36）、普通教室（S40）、 普通特別管理教室（S49）、普通教室特別教室（H11）</p> <p>体育館（S47）</p>		
設備など		駐車場 19 台、駐輪場、エレベータあり		
主なサービス		義務教育の実施		
施設維持費用 （年間）	光熱水費	6,372 千円	設備点検費	1,403 千円
	建物管理費	0 千円	警備費	506 千円
	清掃費	1,175 千円	廃棄物処理費	256 千円
	消耗品・修繕費	1,610 千円	通信費	375 千円
	その他	630 千円	合計	12,327 千円
主な教室	普通教室（実学級数）		23 室	
	特別教室		生活科室・算数教室・被服室・ 家庭科室・図工室・理科室・ 音楽室・コンピュータ室	
改修工事の状況		平成 22 年度にトイレ改修工事、平成 25 年度に北校舎屋上防水工事を実施しました。		

朝霞第二小学校				
所在地	岡 3-16-13			
施設所管課	教育総務課			
建 物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上 4 階など		
	延床面積	6,239.00 m <sup>2</sup>		
	建築年	昭和 34（1959）年		
	耐震性能	耐震改修工事済 （平成 19 年度）		
施設の概要	<p>根岸台・岡地区の小学校として設置されています。            児童数：728 人（H24.5.1 時点）  <b>【教室棟・体育館の建築年】</b>            教室棟（6 棟）：特別普通教室棟（S34）、普通教室棟（S44）、            管理特別普通教室棟（S46）、教室棟（S46）、            特別普通教室棟（S55）、特別教室棟（H17）            体育館（S48）</p>			
設備など	駐車場 29 台、駐輪場あり			
主なサービス	義務教育の実施			
施設維持費用 （年間）	光熱水費	5,657 千円	設備点検費	1,235 千円
	建物管理費	3,039 千円	警備費	506 千円
	清掃費	648 千円	廃棄物処理費	256 千円
	消耗品・修繕費	993 千円	通信費	321 千円
	その他	630 千円	合 計	13,285 千円
主な教室	普通教室（実学級数）	23 室		
	特別教室	生活科室・算数教室・学習室・ 家庭科室・図工室・理科室・ 音楽室・コンピュータ室		
改修工事の状況	平成 22 年度にトイレ改修工事、平成 24 年度に北校舎南面外壁改修工事を実施しました。			



朝霞第三小学校				
所在地	大字浜崎 230			
施設所管課	教育総務課			
建 物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上 4 階など		
	延床面積	6,597.00 m <sup>2</sup>		
	建築年	昭和 36（1961）年		
	耐震性能	耐震改修工事済 （平成 20 年度）		
施設の概要	<p>宮戸・浜崎・田島・内間木地区の小学校として設置されています。          児童数：641 人（H24.5.1 時点）</p> <p>【教室棟・体育館の建築年】</p> <p>教室棟（6 棟）：教室棟（S38）、教室棟（S38）、教室棟（S40）、          管理棟（S43）、教室棟（S45）、普通教室棟（S52）          体育館（S48）</p>			
設備など	駐車場 16 台、駐輪場あり			
主なサービス	義務教育の実施			
施設維持費用 （年間）	光熱水費	6,360 千円	設備点検費	826 千円
	建物管理費	3,039 千円	警備費	506 千円
	清掃費	648 千円	廃棄物処理費	256 千円
	消耗品・修繕費	1,263 千円	通信費	349 千円
	その他	630 千円	合 計	13,877 千円
主な教室	普通教室（実学級数）	21 室（うち特別支援学級 1 室）		
	特別教室	理科室・学習室・家庭科室・ 被服室・音楽室・図工室・ コンピュータ室		
改修工事の状況	平成 23 年度にトイレ改修工事、平成 25 年度に南校舎三面の外壁改修工事を実施しました。			



朝霞第四小学校					
所在地	幸町 1-6-9				
施設所管課	教育総務課				
建 物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上 4 階、地下 1 階			
	延床面積	11,955.07 ㎡			
	建築年	平成 22（2010）年			
	耐震性能	新耐震基準の建物です。			
施設の概要	<p>本町・幸町・膝折・青葉台地区の小学校として設置されています。          自校式給食室、ランチルームがあります。          建物内に幸町放課後児童クラブが併設されています。          児童数：550 人（H24.5.1 時点）  <b>【教室棟・体育館の建築年】</b>          教室棟（1 棟）：教室・管理棟（H22）          給食棟（H22）、屋内運動場（H22）</p>				
設備など	駐車場 36 台、駐輪場、エレベータ、太陽光発電システムあり				
主なサービス	義務教育の実施				
施設維持費用 （年間）	光熱水費	10,626 千円	設備点検費	3,884 千円	
	建物管理費	3,039 千円	警備費	506 千円	
	清掃費	129 千円	廃棄物処理費	256 千円	
	消耗品・修繕費	756 千円	通信費	363 千円	
	その他	0 千円	合 計	19,559 千円	
主な教室	普通教室（実学級数）		22 室（うち特別支援学級 4 室）		
	特別教室		保育室・理科室・調理室・ 生活科室・被服室・音楽室・ 図工室・コンピュータ室		

朝霞第五小学校					
所在地	泉水 3-16-1				
施設所管課	教育総務課				
建 物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上 5 階など			
	延床面積	14,614.33 ㎡			
	建築年	平成 22（2010）年			
	耐震性能	新耐震基準の建物です。			
施設の概要	<p>西弁財・東弁財・三原・泉水地区の小学校として設置されています。          自校式給食室、ランチルームがあります。          建物内に泉水放課後児童クラブが併設されています。          児童数：976 人（H24.5.1 時点）  <b>【教室棟・体育館の建築年】</b>          教室棟（1 棟）：教室・管理棟（H22）          屋内運動場・プール棟（H22）</p>				
設備など	駐車場 26 台、駐輪場、エレベータ、太陽光発電システムあり				
主なサービス	義務教育の実施				
施設維持費用 （年間）	光熱水費	15,152 千円	設備点検費	3,992 千円	
	建物管理費	3,039 千円	警備費	506 千円	
	清掃費	648 千円	廃棄物処理費	256 千円	
	消耗品・修繕費	315 千円	通信費	468 千円	
	その他	0 千円	合 計	24,376 千円	
主な教室	普通教室（実学級数）		30 室（うち特別支援学級 1 室）		
	特別教室		算数学習室・理科室・生活科室・ 被服室・音楽室・図工室・ コンピュータ室		

朝霞第六小学校				
所在地	本町 1-25-1			
施設所管課	教育総務課			
建 物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上 4 階など		
	延床面積	6,436.00 m <sup>2</sup>		
	建築年	昭和 46（1971）年		
	耐震性能	耐震改修工事済 （平成 20 年度）		
施設の概要	<p>本町・仲町・根岸台・岡・溝沼地区の小学校として設置されています。            児童数：766 人（H24.5.1 時点）</p> <p>【教室棟・体育館の建築年】</p> <p>教室棟（4 棟）：管理特別普通教室（S46）、管理特別普通教室（S47）、            特別棟（S50）、特別普通棟（S50）、            体育館（S50）</p>			
設備など	駐車場 21 台、駐輪場あり			
主なサービス	義務教育の実施			
施設維持費用 （年間）	光熱水費	5,543 千円	設備点検費	826 千円
	建物管理費	3,039 千円	警備費	506 千円
	清掃費	648 千円	廃棄物処理費	256 千円
	消耗品・修繕費	1,262 千円	通信費	350 千円
	その他	630 千円	合 計	13,060 千円
主な教室	普通教室（実学級数）	26 室（うち特別支援学級 2 室）		
	特別教室	理科室・生活科室・家庭科室・ 音楽室・図工室・コンピュータ室		
改修工事の状況	平成 23 年度にトイレ改修工事を実施しました。			



朝霞第七小学校					
所在地	北原 2-6-1				
施設所管課	教育総務課				
建物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上 4 階など			
	延床面積	6,621.95 m <sup>2</sup>			
	建築年	昭和 47（1972）年			
	耐震性能	耐震改修工事済 （平成 20 年度）			
施設の概要	<p>北原・西原・浜崎・朝志ヶ丘地区の小学校として設置されています。          児童数：858 人（H24.5.1 時点）</p> <p>【教室棟・体育館の建築年】</p> <p>教室棟（4 棟）：普通特別管理校舎（S47）、教室棟（S51）、          普通特別教室棟（S58）、特別教室棟（H17）</p> <p>体育館（S50）</p>				
設備など	駐車場 20 台、駐輪場あり				
主なサービス	義務教育の実施				
施設維持費用 （年間）	光熱水費	7,229 千円	設備点検費	1,376 千円	
	建物管理費	0 千円	警備費	506 千円	
	清掃費	1,175 千円	廃棄物処理費	256 千円	
	消耗品・修繕費	1,106 千円	通信費	410 千円	
	その他	630 千円	合計	12,688 千円	
主な教室	普通教室（実学級数）		27 室（うち特別支援学級 2 室）		
	特別教室		理科室・生活科室・家庭科室・音楽室・図工室・総合学習資料室・コンピュータ室		
改修工事の状況	平成 21 年度に校舎屋上防水工事、平成 22 年度に校舎 1 面の外壁改修工事、平成 24 年度にトイレ改修工事を実施しています。				

朝霞第八小学校					
所在地	栄町 5-1-41				
施設所管課	教育総務課				
建 物	建物概要	鉄筋コンクリート (RC) 造 地上 4 階など			
	延床面積	6,603.16 m <sup>2</sup>			
	建築年	昭和 51 (1976) 年			
	耐震性能	耐震改修工事済 (平成 20 年度)			
施設の概要	<p>本町・仲町・根岸台・栄町・青葉台地区の小学校として設置されています。</p> <p>児童数：887 人 (H24.5.1 時点)</p> <p>【教室棟・体育館の建築年】</p> <p>教室棟 (4 棟)：管理特別普通教室 (S51)、特別普通教室棟 (S51)、普通教室棟 (S53)、特別・普通教室棟 (H20)</p> <p>体育館 (S51)</p>				
設備など	駐車場 19 台、駐輪場あり				
主なサービス	義務教育の実施				
施設維持費用 (年間)	光熱水費	6,853 千円	設備点検費	826 千円	
	建物管理費	3,039 千円	警備費	506 千円	
	清掃費	1,174 千円	廃棄物処理費	256 千円	
	消耗品・修繕費	779 千円	通信費	407 千円	
	その他	630 千円	合 計	14,470 千円	
主な教室	普通教室 (実学級数)		26 室		
	特別教室		理科室・生活科室・家庭科室・ 音楽室・図工室・算数科室・ コンピュータ室		
改修工事の状況	平成 24 年度にトイレ改修工事、平成 26 年度に校舎西面外壁改修工事を実施しました。				

朝霞第九小学校					
所在地	大字台 295				
施設所管課	教育総務課				
建 物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上 4 階など			
	延床面積	4,662.00 m <sup>2</sup>			
	建築年	昭和 57（1982）年			
	耐震性能	新耐震基準の建物です。			
施設の概要	田島・根岸台・台地区の小学校として設置されています。 児童数：350 人（H24.5.1 時点） 【教室棟・体育館の建築年】 教室棟（1 棟）：管理普通特別棟（S57） 体育館（S57）				
設備など	駐車場 18 台、駐輪場あり				
主なサービス	義務教育の実施				
施設維持費用 （年間）	光熱水費	5,639 千円	設備点検費	1,326 千円	
	建物管理費	3,039 千円	警備費	506 千円	
	清掃費	1,174 千円	廃棄物処理費	256 千円	
	消耗品・修繕費	1,906 千円	通信費	284 千円	
	その他	630 千円	合 計	14,760 千円	
主な教室	普通教室（実学級数）		12 室		
	特別教室		理科室・家庭科室・音楽室・ 図工室・コンピュータ室		
改修工事の状況	平成 25 年度にトイレ改修工事を実施しました。				

朝霞第十小学校				
所在地		大字溝沼 828-1		
施設所管課		教育総務課		
建 物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上4階など		
	延床面積	9,657.04 m <sup>2</sup>		
	建築年	平成12（2000）年		
	耐震性能	新耐震基準の建物です。		
施設の概要		<p>溝沼・東弁財・泉水・三原地区の小学校として設置されています。  建物内に溝沼放課後児童クラブが併設されています。</p> <p>児童数：665人（H24.5.1時点）  <b>【教室棟・体育館の建築年】</b>  教室棟（1棟）：校舎棟（H12）  体育館（H12）</p>		
設備など		駐車場 22台、駐輪場、エレベータあり		
主なサービス		義務教育の実施		
施設維持費用 （年間）	光熱水費	11,008千円	設備点検費	3,103千円
	建物管理費	3,039千円	警備費	506千円
	清掃費	648千円	廃棄物処理費	256千円
	消耗品・修繕費	1,162千円	通信費	312千円
	その他	630千円	合計	20,664千円
主な教室	普通教室（実学級数）		21室（うち特別支援学級2室）	
	特別教室		理科室・生活科室・社会科道徳室・ 調理室・被服室・音楽室・図工室・ コンピュータ室	

朝霞第一中学校				
所在地		大字膝折 2-31		
施設所管課		教育総務課		
建 物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上4階など		
	延床面積	13,395.00 ㎡		
	建築年	平成 18（2006）年		
	耐震性能	新耐震基準の建物です。		
施設の概要		<p>本町・幸町・膝折町・泉水・溝沼・青葉台地区の中学校として設置されています。</p> <p>生徒数：867人（H24.5.1時点）</p> <p>【教室棟・体育館の建築年】</p> <p>教室棟（2棟）：普通教室・管理棟（H18）、特別教室棟（H18）</p> <p>屋内運動場棟（H18）</p>		
設備など		駐車場 53 台、駐輪場、エレベータ、太陽光発電システムあり		
主なサービス		義務教育の実施		
施設維持費用 （年間）	光熱水費	10,995 千円	設備点検費	3,893 千円
	建物管理費	3,039 千円	警備費	506 千円
	清掃費	648 千円	廃棄物処理費	256 千円
	消耗品・修繕費	1,720 千円	通信費	591 千円
	その他	630 千円	合計	22,278 千円
主な教室	普通教室（実学級数）		26 室（うち特別支援学級 3 室）	
	特別教室		技術室・美術室・調理室・被服室・音楽室・コンピュータ室・理科室	

朝霞第二中学校					
所在地	大字岡 199				
施設所管課	教育総務課				
建 物	建物概要	鉄筋コンクリート (RC) 造 地上 3 階など			
	延床面積	8,833.40 m <sup>2</sup>			
	建築年	昭和 40 (1965) 年			
	耐震性能	耐震改修工事済 (平成 18 年度)			
施設の概要	<p>朝志ヶ丘・北原・西原・浜崎・岡・根岸台・田島地区の中学校として設置されています。</p> <p>生徒数：746 人 (H24.5.1 時点)</p> <p>【教室棟・体育館の建築年】</p> <p>教室棟 (7 棟)：普通教室棟 (S40)、普通教室棟 (S41)、 普通教室棟 (S41)、特別教室棟 (S42)、 普通教室棟 (S48)、普通教室棟 (S50)、特別棟 (S50)</p> <p>屋内運動場 (H4)</p>				
設備など	駐車場 16 台、駐輪場あり				
主なサービス	義務教育の実施				
施設維持費用 (年間)	光熱水費	7,758 千円	設備点検費	826 千円	
	建物管理費	3,039 千円	警備費	506 千円	
	清掃費	1,174 千円	廃棄物処理費	256 千円	
	消耗品・修繕費	1,530 千円	通信費	443 千円	
	その他	630 千円	合計	16,162 千円	
主な教室	普通教室 (実学級数)		21 室 (うち特別支援学級 2 室)		
	特別教室		技術室・美術室・調理室・被服室・ 音楽室・コンピュータ室・理科室		
改修工事の状況	平成 22 年度にトイレ改修工事、平成 24 年度に北校舎北面外壁改修工事を実施しました。				

朝霞第三中学校					
所在地	大字溝沼 1043-1				
施設所管課	教育総務課				
建物	建物概要	鉄筋コンクリート (RC) 造 地上 4 階など			
	延床面積	8,648.05 m <sup>2</sup>			
	建築年	昭和 48 (1973) 年			
	耐震性能	耐震改修工事済 (平成 20 年度)			
施設の概要	<p>西弁財・東弁財・溝沼・三原・泉水地区の中学校として設置されています。</p> <p>生徒数：853 人 (H24.5.1 時点)</p> <p>【教室棟・体育館の建築年】</p> <p>教室棟 (3 棟)：管理特別普通教室 (S48)、普通教室棟 (S51)、 普通特別教室棟 (S54)</p> <p>体育館 (S51)、柔剣道場 (H3)</p>				
設備など	駐車場 17 台、駐輪場あり				
主なサービス	義務教育の実施				
施設維持費用 (年間)	光熱水費	8,288 千円	設備点検費	825 千円	
	建物管理費	3,039 千円	警備費	506 千円	
	清掃費	1,174 千円	廃棄物処理費	256 千円	
	消耗品・修繕費	1,612 千円	通信費	539 千円	
	その他	630 千円	合計	16,869 千円	
主な教室	普通教室 (実学級数)		24 室 (うち特別支援学級 2 室)		
	特別教室		技術室・美術室・家庭科室・ 被服室・音楽室・コンピュータ室・ 視聴覚室・理科室		
改修工事の状況	平成 22 年度にトイレ改修工事、平成 26 年度に校舎北面外壁改修工事を実施しました。				

朝霞第四中学校					
所在地	栄町 5-1-60				
施設所管課	教育総務課				
建 物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上 4 階など			
	延床面積	6,947.00 m <sup>2</sup>			
	建築年	昭和 52（1977）年			
	耐震性能	耐震改修工事済 （平成 20 年度）			
施設の概要	<p>本町・仲町・根岸台・栄町・青葉台地区の中学校として設置されています。生徒数：554 人（H24.5.1 時点）</p> <p>【教室棟・体育館の建築年】</p> <p>教室棟（3 棟）：普通棟（S52）、管理特別普通教室（S52）、普通特別棟（S57）</p> <p>体育館（S52）</p>				
設備など	駐車場 16 台、駐輪場あり				
主なサービス	義務教育の実施				
施設維持費用 （年間）	光熱水費	6,093 千円	設備点検費	826 千円	
	建物管理費	3,039 千円	警備費	506 千円	
	清掃費	1,174 千円	廃棄物処理費	256 千円	
	消耗品・修繕費	914 千円	通信費	495 千円	
	その他	630 千円	合計	13,933 千円	
主な教室	普通教室（実学級数）		15 室		
	特別教室		技術室・美術室・家庭科室・国際理解教室・被服室・音楽室・コンピュータ室・視聴覚室・理科室		
改修工事の状況	平成 24 年度にトイレ改修工事を実施しました。				

朝霞第五中学校				
所在地		大字宮戸 1580		
施設所管課		教育総務課		
建 物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上 4 階など		
	延床面積	5,873.83 ㎡		
	建築年	昭和 53（1978）年		
	耐震性能	耐震改修工事済 （平成 19 年度）		
施設の概要		<p>宮戸・浜崎・内間木・台地区の中学校として設置されています。</p> <p>生徒数：353 人（H24.5.1 時点）</p> <p>【教室棟・体育館の建築年】</p> <p>教室棟（2 棟）：教室棟（S53）、教室棟（S54）、 体育館（S54）</p>		
設備など		駐車場 17 台、駐輪場あり		
主なサービス		義務教育の実施		
施設維持費用 （年間）	光熱水費	9,482 千円	設備点検費	826 千円
	建物管理費	3,039 千円	警備費	506 千円
	清掃費	1,174 千円	廃棄物処理費	256 千円
	消耗品・修繕費	1,165 千円	通信費	401 千円
	その他	630 千円	合 計	17,479 千円
主な教室	普通教室（実学級数）		11 室	
	特別教室		技術室・美術室・家庭科室・ 被服室・音楽室・コンピュータ室・ 理科室	
改修工事の状況		平成 25 年度にトイレ改修工事を実施しました。		



浜崎学校給食センター				
所在地		浜崎 4-13-63		
施設所管課		学校給食課		
建 物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上2階、地下なし		
	延床面積	1,409.00 m <sup>2</sup>		
	建築年	昭和 61（1986）年		
	耐震性能	新耐震基準の建物です。		
施設の概要		朝霞第二、第三、第七、第九小学校の給食センターとして単独で設置されています。		
設備など		駐車場 6 台、駐輪場あり		
主なサービス		小学校への給食の提供		
施設維持費用 (年間)	光熱水費	19,725 千円	設備点検費	1,888 千円
	建物管理費	0 千円	警備費	126 千円
	清掃費	1,115 千円	廃棄物処理費	0 千円
	消耗品・修繕費	15,488 千円	通信費	203 千円
	その他	1,736 千円	合 計	40,281 千円
主な部屋	事務室（1階）		検品室（1階）	
	男女各休憩室（2階）		会議室（2階）	

栄町学校給食センター				
所在地		栄町 5-1-57		
施設所管課		学校給食課		
建物	建物概要	鉄筋コンクリート (RC) 造 地上 2 階、地下なし		
	延床面積	1,008.53 m <sup>2</sup>		
	建築年	昭和 52 (1977) 年		
				
施設の概要		朝霞第一、第六、第八小学校の給食センターとして単独で設置されています。		
設備など		駐輪場あり		
主なサービス		小学校への給食の提供		
施設維持費用 (年間)	光熱水費	18,559 千円	設備点検費	2,187 千円
	建物管理費	0 千円	警備費	126 千円
	清掃費	1,115 千円	廃棄物処理費	0 千円
	消耗品・修繕費	12,657 千円	通信費	161 千円
	その他	1,736 千円	合計	36,541 千円
主な部屋	事務室 (1 階)		検収室 (1 階)	
	男女各休憩室 (2 階)		会議室 (2 階)	

溝沼学校給食センター				
所在地		大字溝沼 1029-8		
施設所管課		学校給食課		
建 物	建物概要	鉄骨鉄筋コンクリート (SRC) 造 地上 2 階、地下 1 階		
	延床面積	2,046.64 m <sup>2</sup>		
	建築年	平成 14 (2002) 年		
	耐震性能	新耐震基準の建物です。		
施設の概要		朝霞第十小学校、朝霞第一、第二、第三、第四、第五中学校の給食センターとして単独で設置されています。		
設備など		駐車場 6 台、駐輪場、エレベータあり		
主なサービス		小学校、中学校への給食の提供		
施設維持費用 (年間)	光熱水費	27,263 千円	設備点検費	4,379 千円
	建物管理費	0 千円	警備費	126 千円
	清掃費	1,262 千円	廃棄物処理費	0 千円
	消耗品・修繕費	13,742 千円	通信費	339 千円
	その他	1,735 千円	合 計	48,846 千円
主な部屋	事務室 (1 階)		検収室 (1 階)	
	男女各休憩室 (2 階)		会議室 (2 階)	

子ども相談室				
所在地		浜崎 3-6-24		
施設所管課		教育指導課		
建 物	建物概要	鉄骨（S）造 地上 2 階、地下なし		
	延床面積	200.49 m <sup>2</sup>		
	建築年	平成 7（1995）年		
	耐震性能	新耐震基準の建物です。		
施設の概要		子育て・教育に関する相談を受ける施設として単独で設置されています。		
設備など		駐車場 3 台、駐輪場あり		
主なサービス		専門の教育相談員による相談受付		
施設維持費用 （年間）	光熱水費	289 千円	設備点検費	0 千円
	建物管理費	0 千円	警備費	227 千円
	清掃費	174 千円	廃棄物処理費	0 千円
	消耗品・修繕費	114 千円	通信費	188 千円
	その他	81 千円	合計	1,073 千円



## 6 子育て支援系施設

子育てを支援するための施設として、保育園や放課後児童クラブ、児童館などの子育て支援系施設が設置されています。朝霞市では子育て世帯が多いことから、需要の伸びが著しく、かつ、ニーズが多様化している分野です。子育て支援系施設の一覧を表 4-6-1 に示します。

表 4-6-1：子育て支援系施設一覧

施設名称	棟数	建築年	延床面積	地区
○保育園（公設のみ）				
北朝霞保育園	2	昭和 53 年	523 m <sup>2</sup>	北
北朝霞保育園分園	(1)	(賃貸)	(267 m <sup>2</sup> )	北
栄町保育園	1	昭和 54 年	409 m <sup>2</sup>	南
泉水保育園	1	昭和 56 年	446 m <sup>2</sup>	西
さくら保育園	1	平成 13 年	920 m <sup>2</sup>	西
宮戸保育園	1	平成 16 年	995 m <sup>2</sup>	北
溝沼保育園	(1)	平成 16 年	1,629 m <sup>2</sup>	南
仲町保育園	1	平成 19 年	1,502 m <sup>2</sup>	東
根岸台保育園	(1)	(賃貸)	(516 m <sup>2</sup> )	東
本町保育園	(1)	(賃貸)	(515 m <sup>2</sup> )	南
東朝霞保育園	(1)	(賃貸)	(591 m <sup>2</sup> )	東
浜崎保育園	(1)	(賃貸)	(681 m <sup>2</sup> )	北
○児童館				
きたはら児童館	1	平成 9 年	682 m <sup>2</sup>	北
はまさき児童館	(1)	平成 12 年	406 m <sup>2</sup>	北
ねぎしだい児童館	(1)	平成 18 年	389 m <sup>2</sup>	東
ひざおり児童館	(1)	平成 21 年	447 m <sup>2</sup>	南
みぞぬま児童館	1	平成 16 年	977 m <sup>2</sup>	南
○放課後児童クラブ				
膝折放課後児童クラブ	2	平成 10 年	411 m <sup>2</sup>	南
岡放課後児童クラブ	3	昭和 54 年	400 m <sup>2</sup>	東
浜崎放課後児童クラブ	1	平成 17 年	176 m <sup>2</sup>	北
幸町放課後児童クラブ	(1)	平成 22 年	182 m <sup>2</sup>	南
泉水放課後児童クラブ	(1)	平成 22 年	144 m <sup>2</sup>	西

(表 4-6-1 続き)

本町放課後児童クラブ	2	平成 4 年	282 m <sup>2</sup>	南
朝志ヶ丘放課後児童クラブ	1	平成 25 年	449 m <sup>2</sup>	北
栄町放課後児童クラブ	2	平成 13 年	340 m <sup>2</sup>	南
根岸台放課後児童クラブ	1	平成 19 年	265 m <sup>2</sup>	東
溝沼放課後児童クラブ	(2)	平成 21 年	408 m <sup>2</sup>	南
障害児放課後児童クラブ	(1)	(賃貸)	(378 m <sup>2</sup> )	北

注記：建築年は最も古い棟のものを示しています。

複合施設ではそれぞれの施設部分の床面積を表示しています。

延床面積は、端数処理の都合で合計がほかの表と一致しない場合があります。

棟数の欄が ( ) 書きの施設は、賃貸もしくは他の施設と複合化されています。

### ○建築年別延床面積

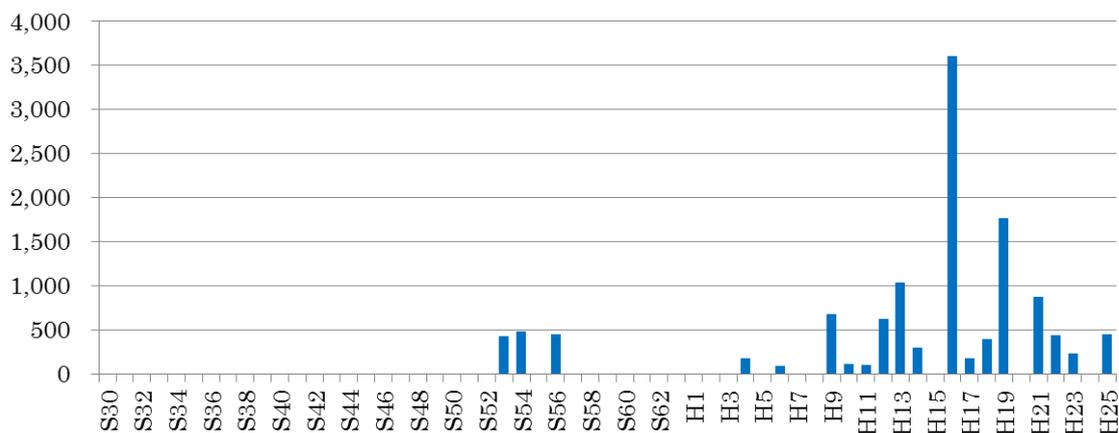


図 4-6-1：子育て支援系施設 建築年別延床面積 (単位：m<sup>2</sup>)

子育て支援系施設は、延床面積合計で見ると学校教育系施設の約 10 分の 1 程度ですが、施設数は 28 で学校教育系施設より多くなっています。これは、子育て支援系施設が中小規模で地域に密着した存在であることを示しています。また、旧耐震基準の保育園については耐震診断を実施し、必要な改修工事を終わっています。

なお、これらの数値に賃貸物件（建物を市で保有していない施設）は含まれていません。

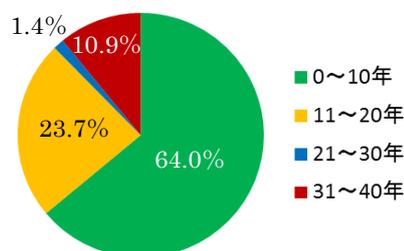


図 4-6-2：子育て支援系施設 築年数別床面積割合

### ○児童数の推移

児童数と施設利用者数の近年の推移を図 4-6-3 に示します。保育園の児童数は、受入れ可能な人数に制限されるため、結果としてほぼ横ばいになっていますが、実際には民設保育園なども含め、全体のニーズは増加傾向にあります。

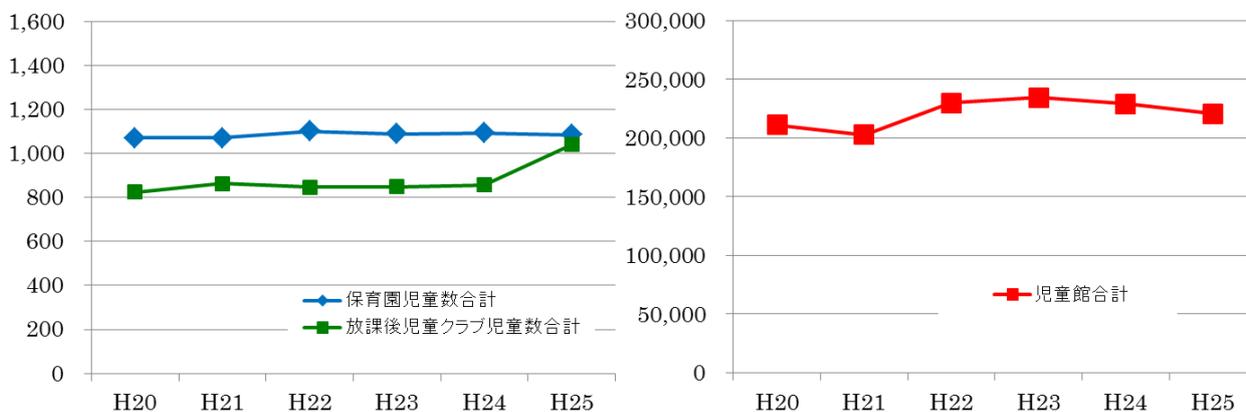


図 4-6-3：児童数と施設年間利用者数の推移 (単位：人)

### ○維持費用の比較

施設の維持費用内訳を図 4-6-4 に示します。消耗品、修繕費が他の施設に比べて多めの割合になっています。

保育園、放課後児童クラブごとの維持費用の比較を図 4-6-5 に、延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの維持費用の比較を図 4-6-6 に、児童 1 人あたりの維持費用の比較を図 4-6-7 に、それぞれ示します。

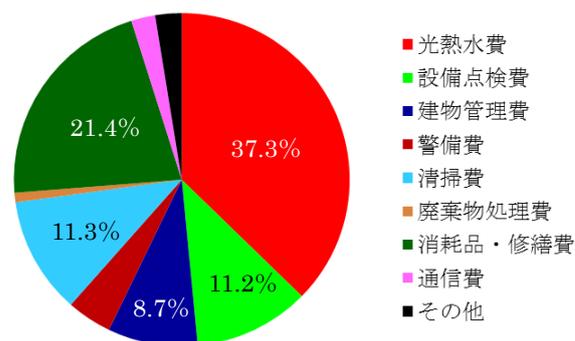


図 4-6-4：維持費用の性質別内訳

児童館は他の施設と複合化されており、単独での維持費用の算出が難しい状態ですが、参考として、溝沼複合施設（溝沼保育園、溝沼老人福祉センターを含んだ数値）と、きたはら児童館（ファミリーサポートセンター、きたはら子育て支援センターを含んだ数値）の比較を、図 4-6-8 と図 4-6-9 に示します。

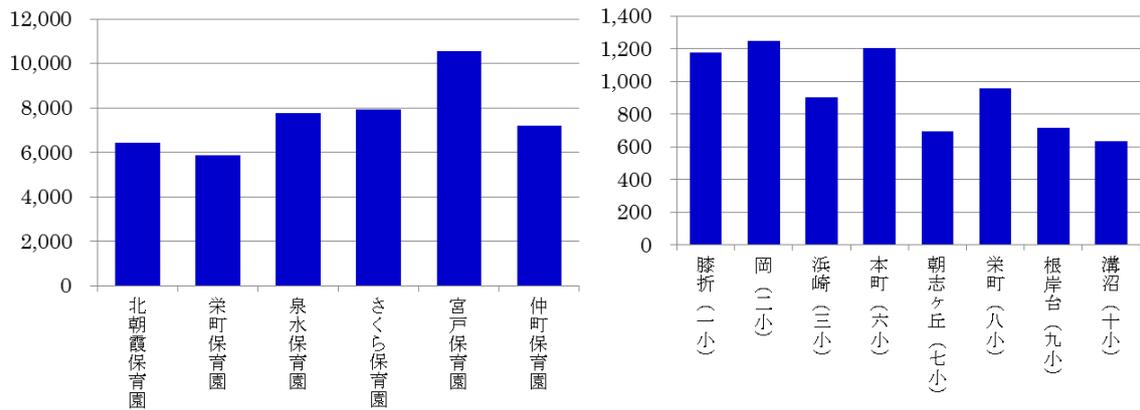


図 4-6-5：各施設ごとの維持費用比較（単位：千円）

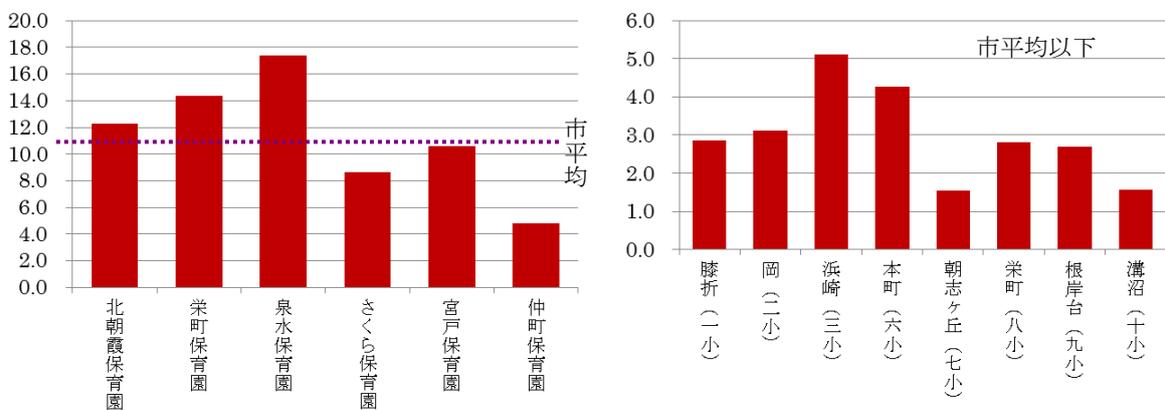


図 4-6-6：延床面積 1㎡あたりの維持費用比較（単位：千円）

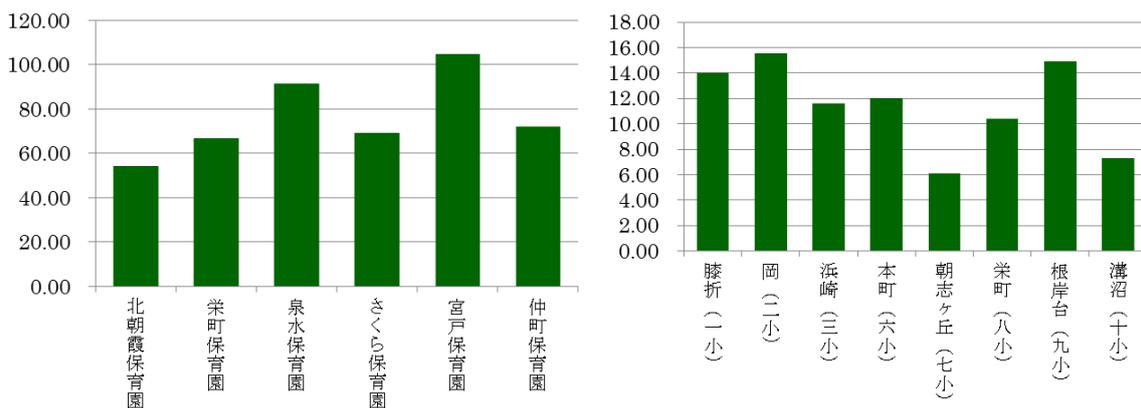


図 4-6-7：児童 1人あたりの維持費用比較（単位：千円）

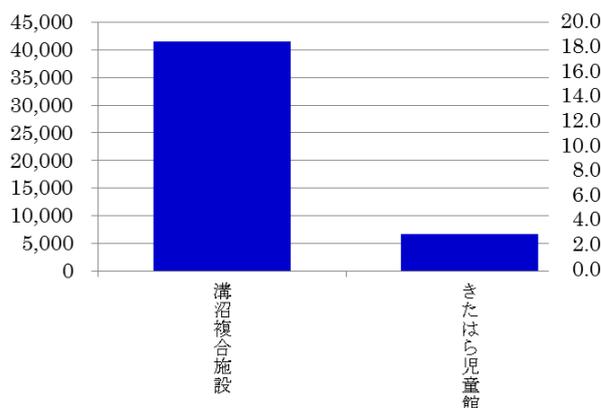


図 4-6-8：施設ごとの維持費用比較  
(単位：千円)

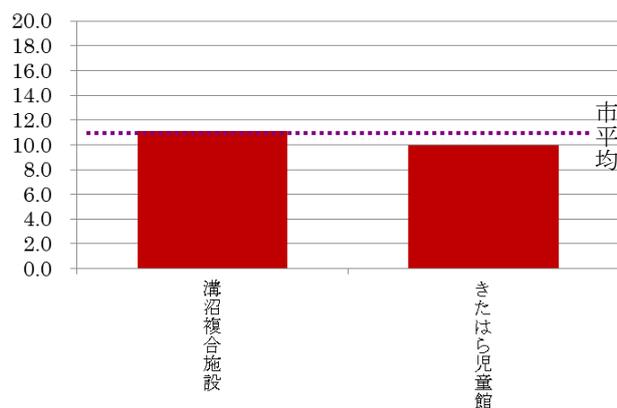


図 4-6-9：延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの維持費用比較 (単位：千円)

維持費用については、同じ種類の施設で比較してみると、2倍程度の差がみられる例もあります。延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの維持費用は、保育園、児童館等が市平均前後のレベルであるのに対して、放課後児童クラブは市平均を大きく下回っています。なお、放課後児童クラブの維持費用には、指定管理料の人件費相当分は含まれていません。

### ○全体の課題

建物については、保育園で築年数が 30 年を超えて老朽化が進んでいるものがみられますが、耐震改修工事にあわせて改修工事が実施されている園（泉水、栄町）もあります。一方で、児童館や放課後児童クラブは比較的近年に設置されたものが多く、適切な修繕を行うことで当面は維持可能であると考えられます。放課後児童クラブは比較的小規模な建物が複数棟に分かれて設置されている例がいくつかあります。

施設の維持にあたっては、公共施設の中でも特に安全面できめ細かな配慮が必要であり、修繕費の縮減とバランスを取るのが非常に難しい状況にあります。

○位置図

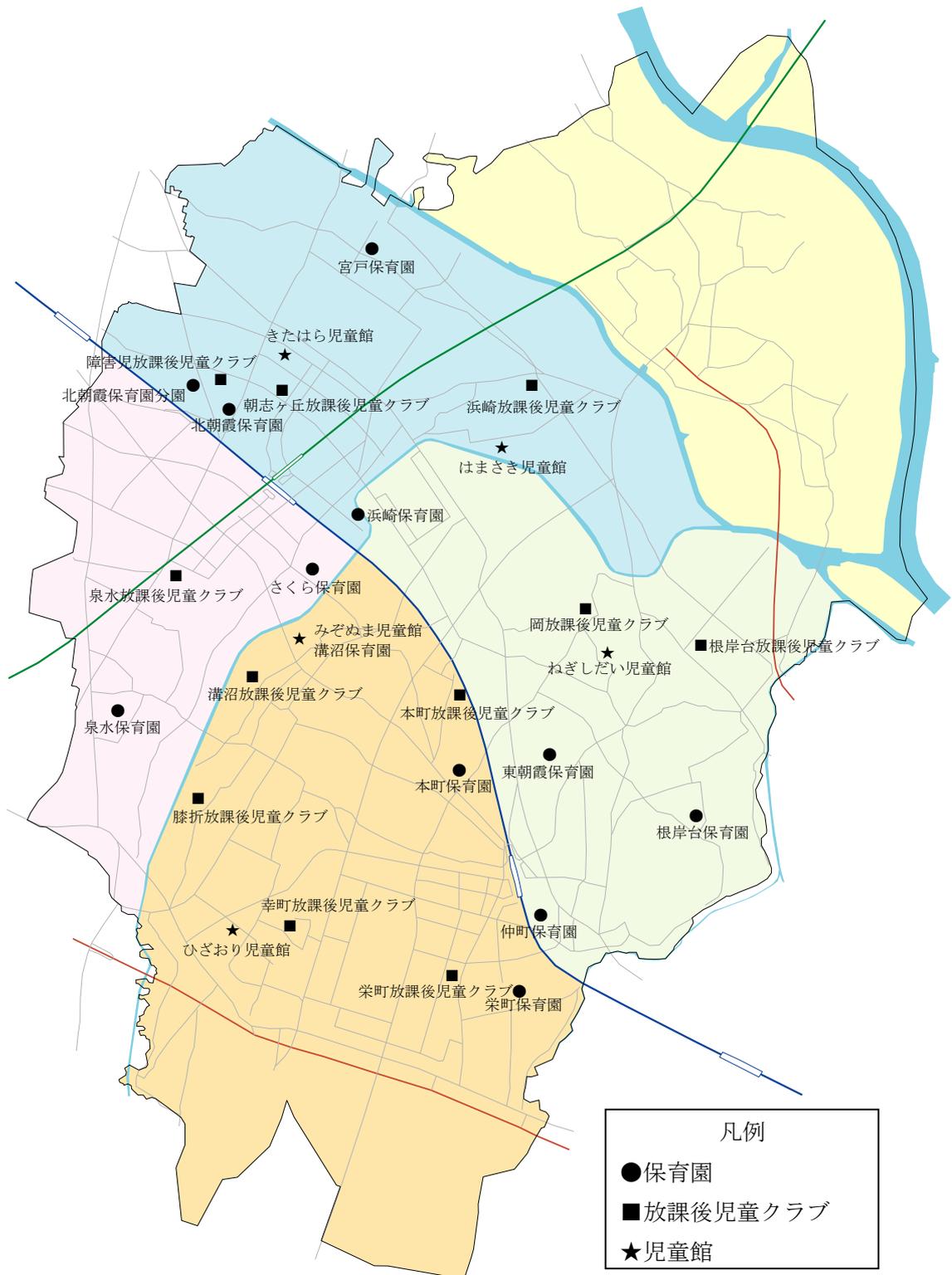


図 4-6-10 : 子育て支援系施設の位置図

○各施設の現況

北朝霞保育園				
所在地		朝志ヶ丘 1-3-26		
施設所管課		保育課		
建 物	建物概要	鉄骨（S）造 地上1階、地下なし		
	延床面積	523.32 m <sup>2</sup>		
	建築年	昭和53（1978）年		
	耐震性能	耐震診断の結果、耐震強度ありと判定。		
施設の概要		北地区に設置している公設公営保育園です。 平成6年（1994）に園舎を増築しています。		
設備など		駐車場6台、駐輪場あり		
主なサービス		保育事業の実施など		
施設維持費用 （年間）	光熱水費	2,172 千円	設備点検費	21 千円
	建物管理費	0 千円	警備費	192 千円
	清掃費	338 千円	廃棄物処理費	131 千円
	消耗品・修繕費	3,170 千円	通信費	112 千円
	その他	285 千円	合計	6,421 千円
主な部屋	年齢別保育室（1階）		事務室（1階）	
	給食室（1階）			

栄町保育園				
所在地		栄町 1-5-43		
施設所管課		保育課		
建 物	建物概要	木（W）造 地上 1 階、地下なし		
	延床面積	409.08 m <sup>2</sup>		
	建築年	昭和 54（1979）年		
	耐震性能	耐震改修工事済（H25 年度）		
施設の概要		南地区に設置している公設公営保育園です。		
設備など		駐車場 2 台、駐輪場あり		
主なサービス		保育事業の実施など		
施設維持費用 （年間）	光熱水費	2,153 千円	設備点検費	21 千円
	建物管理費	0 千円	警備費	192 千円
	清掃費	338 千円	廃棄物処理費	146 千円
	消耗品・修繕費	2,688 千円	通信費	117 千円
	その他	231 千円	合 計	5,886 千円
主な部屋	年齢別保育室（1 階）		調乳室（1 階）	
	給食室（1 階）		事務室（1 階）	
改修工事の状況		平成 25 年度に施設内各所の改修工事を実施しました。		

泉水保育園					
所在地		泉水 2-12-11			
施設所管課		保育課			
建 物	建物概要	木（W）造 地上 1 階、地下なし			
	延床面積	446.34 m <sup>2</sup>			
	建築年	昭和 56（1981）年			
	耐震性能	耐震改修工事済（H25 年度）			
施設の概要		西地区に設置している公設公営保育園です。			
設備など		駐輪場あり			
主なサービス		保育事業の実施など			
施設維持費用 （年間）		光熱水費	2,150 千円	設備点検費	21 千円
		建物管理費	0 千円	警備費	192 千円
		清掃費	372 千円	廃棄物処理費	146 千円
		消耗品・修繕費	4,546 千円	通信費	117 千円
		その他	231 千円	合 計	7,775 千円
主な部屋		年齢別保育室（1 階）		調乳室（1 階）	
		給食室（1 階）		事務室（1 階）	
改修工事の状況		平成 25 年度に施設内各所の改修工事を実施しました。			



さくら保育園					
所在地		大字溝沼 435-1			
施設所管課		保育課			
建 物	建物概要	木（W）造 地上1階、地下なし			
	延床面積	919.65 m <sup>2</sup>			
	建築年	平成13（2001）年			
	耐震性能	新耐震基準の建物です。			
施設の概要		西地区に設置している公設公営保育園です。さくら子育て支援センターが併設されています。			
設備など		駐車場5台、駐輪場あり			
主なサービス		保育事業の実施など			
施設維持費用 （年間）		光熱水費	3,419 千円	設備点検費	508 千円
		建物管理費	0 千円	警備費	192 千円
		清掃費	389 千円	廃棄物処理費	131 千円
		消耗品・修繕費	2,898 千円	通信費	116 千円
		その他	285 千円	合計	7,938 千円
主な部屋		年齢別保育室（1階）		下膳室（1階）	
		給食室（1階）		事務室（1階）	

宮戸保育園					
所在地		宮戸 4-6-2			
施設所管課		保育課			
建 物	建物概要	鉄筋コンクリート (RC) 造 地上 3 階、地下なし			
	延床面積	995.26 m <sup>2</sup>			
	建築年	平成 16 (2004) 年			
	耐震性能	新耐震基準の建物です。			
施設の概要		北地区に設置している公設民営保育園です。			
運営委託先		株式会社ベネッセスタイルケア			
設備など		駐車場 4 台、駐輪場、エレベータ、ダムウェーターあり			
主なサービス		保育事業の実施など			
施設維持費用 (年間)		光熱水費	4,156 千円	設備点検費	1,419 千円
		建物管理費	0 千円	警備費	192 千円
		清掃費	414 千円	廃棄物処理費	118 千円
		消耗品・修繕費	3,873 千円	通信費	163 千円
		その他	231 千円	合 計	10,566 千円
主な部屋		年齢別保育室 (1、2 階)		調乳室 (1 階)	
		給食室 (1 階)		事務室 (1 階)	
		更衣室 (2 階)		倉庫 (1、2 階)	

溝沼保育園（溝沼複合施設内に設置）		
所在地	溝沼 7-13-11	
施設所管課	保育課	
建 物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上3階、地下なし
	延床面積	1,629.00 m <sup>2</sup> （本施設部分）
	建築年	平成16（2004）年
	耐震性能	新耐震基準の建物です。
施設の概要	南地区に設置している公設公営保育園です。保育園のほか、溝沼老人福祉センター、みぞぬま児童館が同一建物内に併設されており、「溝沼複合施設」として運営されています。	
設備など	駐車場13台（溝沼複合施設の全体数）、駐輪場、エレベータあり	
主なサービス	保育事業の実施など	
施設維持費用 （年間）	みぞぬま児童館（溝沼複合施設）に含む	
主な部屋	年齢別保育室（1、2階）	給食室（1階）
	遊戯室（2階）	事務室（1階）
	更衣室（2階）	倉庫（1、2階）



仲町保育園					
所在地		仲町 2-4-31			
施設所管課		保育課			
建 物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上3階、地下なし			
	延床面積	1,502.41 m <sup>2</sup>			
	建築年	平成 19（2007）年			
	耐震性能	新耐震基準の建物です。			
施設の概要		東地区に設置している公設民営保育園です。			
運営委託先		株式会社こどもの森			
設備など		駐車場 8 台、駐輪場、エレベータ、ダムウェーターあり			
主なサービス		保育事業の実施など			
施設維持費用 (年間)		光熱水費	4,609 千円	設備点検費	1,431 千円
		建物管理費	0 千円	警備費	192 千円
		清掃費	389 千円	廃棄物処理費	118 千円
		消耗品・修繕費	103 千円	通信費	222 千円
		その他	132 千円	合計	7,196 千円
主な部屋		年齢別保育室（1階）		沐浴・オムツ替室（1階）	
		調理室（1階）		事務室（1階）	

きたはら児童館				
所在地	北原 2-8-11			
施設所管課	こども未来課			
建物	建物概要	鉄筋コンクリート (RC) 造 地上 2 階、地下なし		
	延床面積	682.35 m <sup>2</sup>		
	建築年	平成 9 (1997) 年		
	耐震性能	新耐震基準の建物です。		
施設の概要	北地区の児童館として設置されています。ファミリー・サポート・センター、きたはら子育て支援センターが同じ建物内に併設されています。			
指定管理者	社会福祉法人 朝霞市社会福祉協議会			
設備など	駐車場 2 台、駐輪場あり、エレベータあり			
主なサービス	健康を増進し、情操を豊かにするため、健全な遊びを提供する。			
施設維持費用 (年間)	光熱水費	1,255 千円	設備点検費	1,471 千円
	建物管理費	0 千円	警備費	441 千円
	清掃費	2,134 千円	廃棄物処理費	0 千円
	消耗品・修繕費	978 千円	通信費	354 千円
	その他	147 千円	合計	6,780 千円
主な部屋	プレイルーム (1 階)		図書室 (1 階)	
	支援センター (1 階)		事務所 (1 階)	
	活動室 (2 階)		遊戯室 (2 階)	

はまさき児童館（総合福祉センター内に設置）		
所在地	大字浜崎 51-1	
施設所管課	こども未来課	
建 物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上3階、地下1階
	延床面積	405.98 m <sup>2</sup> （本施設部分）
	建築年	平成12（2000）年
	耐震性能	新耐震基準の建物です。
施設の概要	総合福祉センターの中に設置されている児童館です。老人福祉センター、はあとびあ障害者多機能型施設などと併設されています。	
指定管理者	社会福祉法人 朝霞市社会福祉協議会	
設備など	駐車場 87 台、駐輪場あり、エレベータあり	
主なサービス	健康を増進し、情操を豊かにするため、健全な遊びを提供する。	
施設維持費用 （年間）	総合福祉センターに含む	
主な部屋	プレイルーム（3階）	活動室（3階）
	図書室（3階）	静養室（3階）
	遊戯室（3階）	事務室（3階）



ねぎしだい児童館（根岸台市民センター内に設置）		
所在地	根岸台 2-15-12	
施設所管課	こども未来課	
建 物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上 4 階、地下なし
	延床面積	389.40 m <sup>2</sup> （本施設部分）
	建築年	平成 18（2006）年
	耐震性能	新耐震基準の建物です。
施設の概要	東地区の児童館として根岸台市民センター内に併設されています。	
指定管理者	社会福祉法人 朝霞市社会福祉協議会	
設備など	駐車場 44 台、駐輪場あり、エレベータあり	
主なサービス	健康を増進し、情操を豊かにするため、健全な遊びを提供する。	
施設維持費用 （年間）	根岸台市民センターに含む	
主な部屋	遊戯室（3階）	事務室（3階）
	鑑賞室（3階）	図書室（3階）
	静養室（3階）	相談室（3階）



ひざおり児童館（膝折市民センター内に設置）		
所在地	膝折町 1-7-40	
施設所管課	こども未来課	
建 物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上3階、地下なし
	延床面積	447.20 m <sup>2</sup> （本施設部分）
	建築年	平成 21（2009）年
	耐震性能	新耐震基準の建物です。
施設の概要	南地区の児童館として膝折市民センター内に併設されています。	
指定管理者	社会福祉法人 朝霞市社会福祉協議会	
設備など	駐車場 46 台、駐輪場あり、エレベータあり	
主なサービス	健康を増進し、情操を豊かにするため、健全な遊びを提供する。	
施設維持費用 （年間）	膝折市民センターに含む	
主な部屋	遊戯室（2階）	事務室（2階）
	鑑賞室（2階）	図書室（2階）
	活動室（2階）	相談室（2階）



みぞぬま児童館（溝沼複合施設内に設置）					
所在地	溝沼 7-13-11				
施設所管課	こども未来課				
建物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上3階、地下なし			
	延床面積	976.62 m <sup>2</sup> （本施設部分）			
	建築年	平成16（2004）年			
	耐震性能	新耐震基準の建物です。			
施設の概要	南地区の児童館として溝沼複合施設内に設置されています。 溝沼複合施設にはほかに、溝沼保育園、溝沼老人福祉センターが設置されています。				
指定管理者	社会福祉法人 朝霞市社会福祉協議会				
設備など	駐車場 13 台（溝沼複合施設の全体数）、駐輪場、エレベータあり				
主なサービス	保育事業の実施、施設（部屋等）貸出など				
施設維持費用 （年間）	光熱水費	15,459 千円	設備点検費	6,022 千円	
	建物管理費	8,804 千円	警備費	567 千円	
	清掃費	5,768 千円	廃棄物処理費	146 千円	
	消耗品・修繕費	3,327 千円	通信費	451 千円	
	その他	969 千円	合計	41,513 千円	
主な部屋	ちびっこルーム（3階）		プレイルーム（3階）		
	図書室（3階）		相談室（3階）		
	鑑賞室（3階）		静養室（3階）		
	遊戯室（3階）		事務室（3階）		

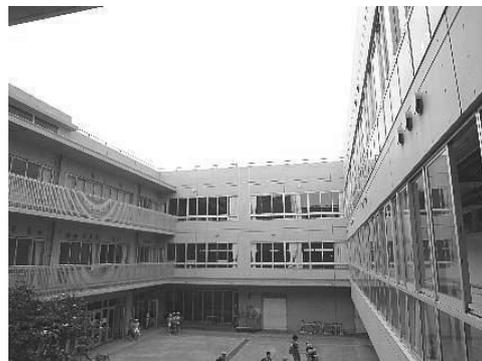
膝折放課後児童クラブ				
所在地		膝折町 4-11-26		
施設所管課		保育課		
建 物	建物概要	鉄骨 (S) 造 地上 1 階と地上 2 階		
	延床面積	410.79 m <sup>2</sup>		
	建築年	平成 10 (1998) 年		
	耐震性能	新耐震基準の建物です。		
施設の概要		第一小学校区の放課後児童クラブとして第一小学校に隣接して単独で設置されています。平成 14 年に増築しています。		
指定管理者		社会福祉法人 朝霞市社会福祉協議会		
設備など		なし		
主なサービス		児童の保育		
施設維持費用 (年間)	光熱水費	442 千円	設備点検費	16 千円
	建物管理費	0 千円	警備費	272 千円
	清掃費	196 千円	廃棄物処理費	0 千円
	消耗品・修繕費	149 千円	通信費	103 千円
	その他	0 千円	合 計	1,178 千円
主な部屋	保育室 (1、2 階)		静養室 (1、2 階)	
	更衣室 (1、2 階)			

岡放課後児童クラブ				
所在地		岡 3-17-64		
施設所管課		保育課		
建物	建物概要	鉄骨 (S) 造 地上 2 階、地下なし		
	延床面積	400.41 m <sup>2</sup>		
	建築年	昭和 54 (1979) 年		
施設の概要		第二小学校区の放課後児童クラブとして第二小学校に隣接して単独で設置されています。平成 11 年に保育室の増築、平成 23 年に増築棟を建築しています。写真は平成 23 年の増築棟です。		
指定管理者		社会福祉法人 朝霞市社会福祉協議会		
設備など		なし		
主なサービス		児童の保育		
施設維持費用 (年間)	光熱水費	488 千円	設備点検費	16 千円
	建物管理費	0 千円	警備費	404 千円
	清掃費	196 千円	廃棄物処理費	0 千円
	消耗品・修繕費	13 千円	通信費	129 千円
	その他	0 千円	合計	1,246 千円
主な部屋	保育室 (1、2 階)		静養室 (1、2 階)	
	更衣室 (1 階)			

浜崎放課後児童クラブ					
所在地		大字浜崎 220-1			
施設所管課		保育課			
建 物	建物概要	鉄骨（S）造 地上1階、地下なし			
	延床面積	176.39 m <sup>2</sup>			
	建築年	平成17（2005）年			
	耐震性能	新耐震基準の建物です。			
施設の概要		第三小学校区の放課後児童クラブとして第三小学校に隣接して単独で設置されています。			
指定管理者		社会福祉法人 朝霞市社会福祉協議会			
設備など		なし			
主なサービス		児童の保育			
施設維持費用 （年間）		光熱水費	212 千円	設備点検費	152 千円
		建物管理費	0 千円	警備費	202 千円
		清掃費	196 千円	廃棄物処理費	0 千円
		消耗品・修繕費	0 千円	通信費	63 千円
		その他	78 千円	合 計	903 千円
主な部屋		保育室（1階）		静養室（1階）	
		更衣室（1階）			



幸町放課後児童クラブ		
所在地	幸町 1-6-9	
施設所管課	保育課	
建 物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上4階、地下1階 （第四小学校校舎）
	延床面積	181.70 m <sup>2</sup> （本施設部分）
	建築年	平成22（2010）年
	耐震性能	新耐震基準の建物です。
施設の概要	第四小学校区の放課後児童クラブとして第四小学校校舎内に設置されています。	
指定管理者	社会福祉法人 朝霞市社会福祉協議会	
設備など	なし	
主なサービス	児童の保育	
施設維持費用 （年間）	第四小学校に含む	
主な部屋	保育室（1階）	静養室（1階）



泉水放課後児童クラブ		
所在地	泉水 3-16-1	
施設所管課	保育課	
建 物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上4階、地下1階 （第五小学校校舎）
	延床面積	144.30 m <sup>2</sup> （本施設部分）
	建築年	平成22（2010）年
	耐震性能	新耐震基準の建物です。
施設の概要	第五小学校区の放課後児童クラブとして第五小学校校舎内に設置されています。	
指定管理者	社会福祉法人 朝霞市社会福祉協議会	
設備など	なし	
主なサービス	児童の保育	
施設維持費用 （年間）	第五小学校に含む	
主な部屋	保育室（1階）	静養室（1階）



本町放課後児童クラブ				
所在地		本町 1-25-1		
施設所管課		保育課		
建物	建物概要	鉄骨 (S) 造 地上 2 階など		
	延床面積	282.22 m <sup>2</sup>		
	建築年	平成 4 (1992) 年		
	耐震性能	新耐震基準の建物です。		
施設の概要		第六小学校区の放課後児童クラブとして第六小学校に隣接して単独で設置されています。平成 16 年に増築されています。		
指定管理者		社会福祉法人 朝霞市社会福祉協議会		
設備など		なし		
主なサービス		児童の保育		
施設維持費用 (年間)	光熱水費	454 千円	設備点検費	16 千円
	建物管理費	0 千円	警備費	404 千円
	清掃費	196 千円	廃棄物処理費	0 千円
	消耗品・修繕費	0 千円	通信費	135 千円
	その他	0 千円	合計	1,205 千円
主な部屋	保育室 (1、2 階)		更衣室 (1 階)	
	静養室 (1 階)			



朝志ヶ丘放課後児童クラブ				
所在地		北原 2-6-1		
施設所管課		保育課		
建 物	建物概要	鉄骨 (S) 造 地上 2 階、地下なし		
	延床面積	448.74 m <sup>2</sup>		
	建築年	平成 25 (2013) 年		
	耐震性能	新耐震基準の建物です。		
施設の概要		第七小学校区の放課後児童クラブとして第七小学校に隣接して設置されています。同一建物内に第七小学校内備蓄倉庫があります。		
指定管理者		社会福祉法人 朝霞市社会福祉協議会		
設備など		なし		
主なサービス		児童の保育		
施設維持費用 (年間)	光熱水費	369 千円	設備点検費	16 千円
	建物管理費	0 千円	警備費	202 千円
	清掃費	0 千円	廃棄物処理費	0 千円
	消耗品・修繕費	0 千円	通信費	109 千円
	その他	0 千円	合 計	696 千円
主な部屋	保育室 (1、2 階)		静養室 (1 階)	
	更衣室 (1 階)			

栄町放課後児童クラブ					
所在地		栄町 5-1-50			
施設所管課		保育課			
建 物	建物概要	木 (W) 造 地上 1 階 鉄骨 (S) 造 地上 2 階			
	延床面積	340.45 m <sup>2</sup>			
	建築年	平成 13 (2001) 年			
	耐震性能	新耐震基準の建物です。			
施設の概要		第八小学校区の放課後児童クラブとして第八小学校に隣接して単独で設置されています。平成 21 年に増築されています。			
指定管理者		社会福祉法人 朝霞市社会福祉協議会			
設備など		なし			
主なサービス		児童の保育			
施設維持費用 (年間)		光熱水費	447 千円	設備点検費	16 千円
		建物管理費	0 千円	警備費	202 千円
		清掃費	196 千円	廃棄物処理費	0 千円
		消耗品・修繕費	0 千円	通信費	96 千円
		その他	0 千円	合 計	957 千円
主な部屋		保育室 (1、2階)		静養室 (1、2階)	
		更衣室 (1階)			



根岸台放課後児童クラブ					
所在地		大字台 295-1			
施設所管課		保育課			
建 物	建物概要	鉄骨（S）造 地上2階、地下なし			
	延床面積	264.98 m <sup>2</sup>			
	建築年	平成19（2007）年			
	耐震性能	新耐震基準の建物です。			
施設の概要		第九小学校区の放課後児童クラブとして第九小学校に隣接して単独で設置されています。			
指定管理者		社会福祉法人 朝霞市社会福祉協議会			
設備など		なし			
主なサービス		児童の保育			
施設維持費用 （年間）		光熱水費	137 千円	設備点検費	181 千円
		建物管理費	0 千円	警備費	202 千円
		清掃費	196 千円	廃棄物処理費	0 千円
		消耗品・修繕費	0 千円	通信費	0 千円
		その他	0 千円	合 計	716 千円
主な部屋		保育室（1、2階）		静養室（1階）	
		更衣室（2階）			



溝沼放課後児童クラブ				
所在地		大字溝沼 828-1		
施設所管課		保育課		
建 物	建物概要	鉄骨（S）造（増築棟） 地上2階、地下なし		
	延床面積	408.23 m <sup>2</sup> （合計）		
	建築年	平成21（2009）年		
	耐震性能	新耐震基準の建物です。		
施設の概要		第十小学校区の放課後児童クラブとして設置されています。校舎内と増築棟の2箇所で開催しています。		
指定管理者		社会福祉法人 朝霞市社会福祉協議会		
設備など		なし		
主なサービス		児童の保育		
施設維持費用 （年間）	光熱水費	学校に含む	設備点検費	16 千円
	建物管理費	0 千円	警備費	366 千円
	清掃費	196 千円	廃棄物処理費	0 千円
	消耗品・修繕費	0 千円	通信費	58 千円
	その他	0 千円	合 計	636 千円
主な部屋		保育室（1、2階）		静養室（2階）

## 7 保健・福祉系施設

保健・福祉系施設は、高齢者や障害者などのための福祉的機能を持つ施設や、健康を増進するための施設などがあります。保健・福祉系施設は民間を含めて様々な設置者が様々な施設を運営していますが、現在市が直接建物を保有しているものを、表 4-7-1 に示します。

表 4-7-1：保健・福祉系施設一覧

施設名称	棟数	建築年	延床面積	地区
健康増進センター（わくわくどーむ）	4	平成 6 年	6,593 m <sup>2</sup>	北
特別養護老人ホーム（朝光苑）	2	昭和 61 年	3,799 m <sup>2</sup>	南
総合福祉センター（はあとぴあ）	1	平成 12 年	4,524 m <sup>2</sup>	北
栄町高齢者地域交流室	(1)	昭和 58 年	124 m <sup>2</sup>	南
朝志ヶ丘高齢者地域交流室	(1)	(賃貸)		北
浜崎老人福祉センター	(1)	平成 12 年	964 m <sup>2</sup>	北
溝沼老人福祉センター	(1)	平成 16 年	1,127 m <sup>2</sup>	南
シルバーサロン（根岸台）	(1)	平成 18 年	50 m <sup>2</sup>	東
シルバーサロン（弁財）	(1)	平成 2 年	36 m <sup>2</sup>	西
シルバーサロン（膝折）	(1)	平成 21 年	56 m <sup>2</sup>	南
保健センター	1	昭和 54 年	1,906 m <sup>2</sup>	南

注記：建築年は最も古い棟のものを示しています。

複合施設ではそれぞれの施設部分の床面積を表示しています。

延床面積は、端数処理の都合で合計がほかの表と一致しない場合があります。

棟数の欄が ( ) 書きの施設は、賃貸もしくは他の施設と複合化されています。

### ○建築年別延床面積

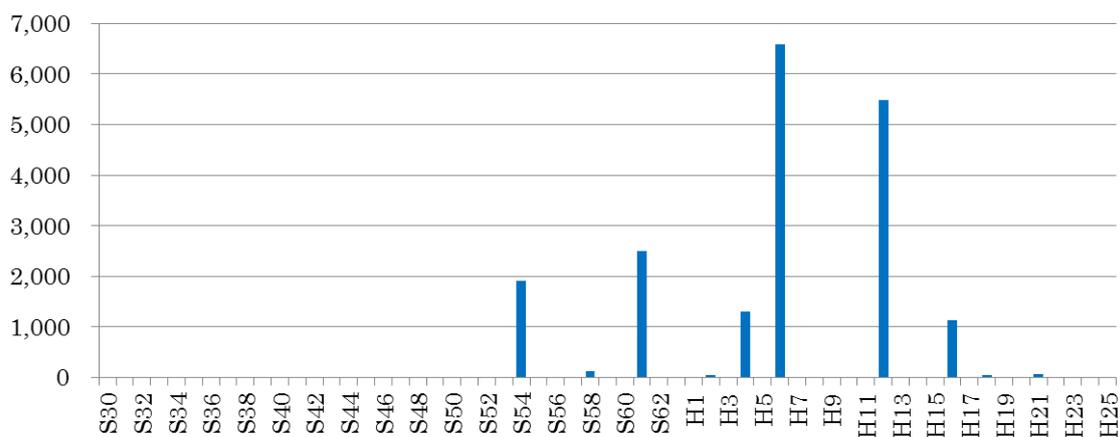


図 4-7-1: 保健・福祉系施設 建築年別延床面積 (単位: m<sup>2</sup>)

保健・福祉系施設は、保健センター以外は新耐震基準の建物です。栄町高齢者地域交流室は、分譲マンションの一室を区分所有する形態となっています。

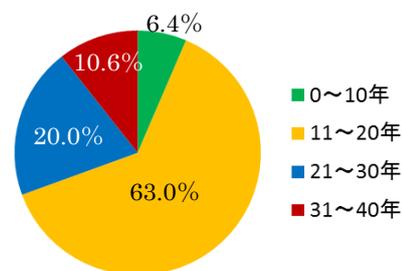


図 4-7-2: 保健・福祉系施設 築年数別床面積割合

### ○年間利用者数の推移

年間利用者数の近年の推移を図 4-7-3 に示します。老人福祉センターの 2 施設合計と、健康増進センター（わくわくどーむ）はほぼ横ばいで推移しています。特別養護老人ホーム（朝光苑）は各種サービスの利用者合計数を、総合福祉センターは多機能型施設の利用者数を、それぞれ集計しています。いずれの施設とも利用者数は横ばいで推移しています。

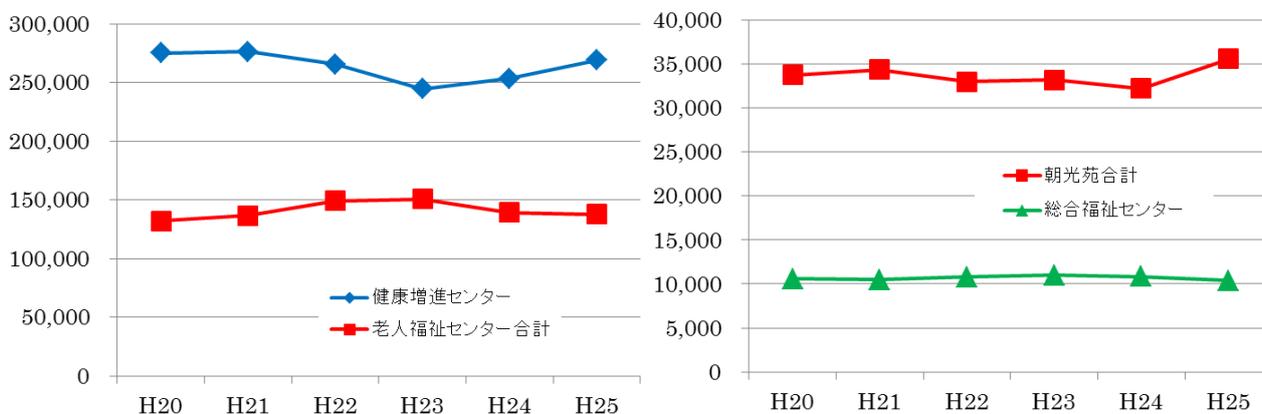


図 4-7-3: 保健・福祉系施設 年間利用者数の推移 (単位: 人)

## ○維持費用の比較

施設維持費用の内訳を図 4-7-4 に示します。光熱水費が多くなっていますが、これは健康増進センターが、その事業の性格上、光熱水費を多く要することが理由です。なお、この費用には指定管理料の人件費相当分は含まれていません。

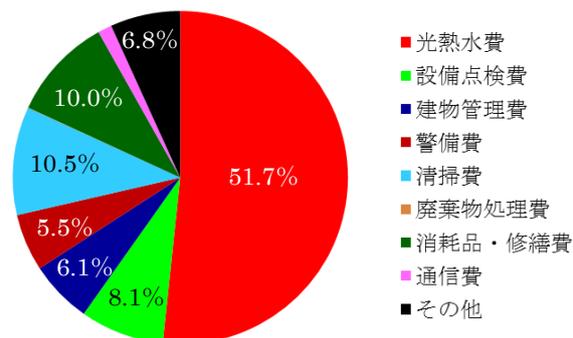


図 4-7-4：維持費用の性質別内訳

次に、各施設ごとの維持費用比較を図 4-7-5 に、延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの維持費用の比較を図 4-7-6 に、利用者 1 人あたりの維持費用の比較を図 4-7-7 に、それぞれ示します。

維持費用は、市平均より多くなっている施設があります。

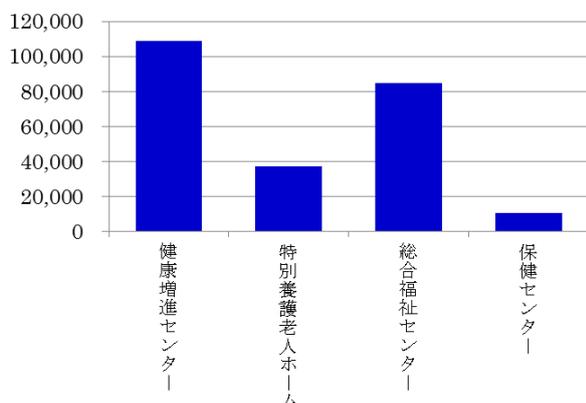


図 4-7-5：各施設ごとの維持費用比較  
(単位：千円)

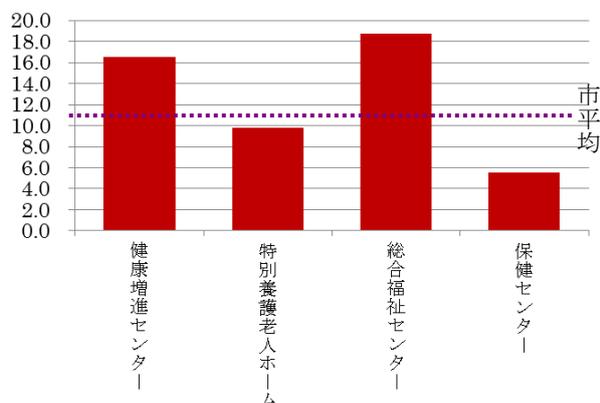


図 4-7-6：延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの維持費用比較  
(単位：千円)

## ○全体の課題

建物については、健康増進センター、特別養護老人ホーム、総合福祉センター、保健センターが主なものになっています。施設の多くが複合化されており、1 室程度の小規模なものも存在するのも特徴です。築年数が 30 年を超えるものは栄町高齢者地域交流室と保健センターのみで、その他は 30 年未満となっています。保健センターについては耐震強度が不足しており、何らかの対策が必要です。

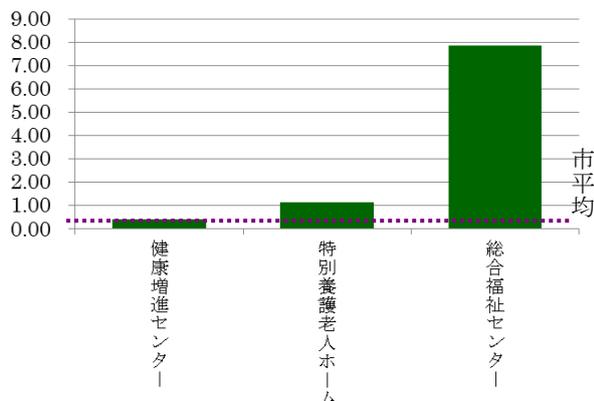


図 4-7-7：利用者 1 人あたりの維持費用比較  
(単位：千円)

○位置図

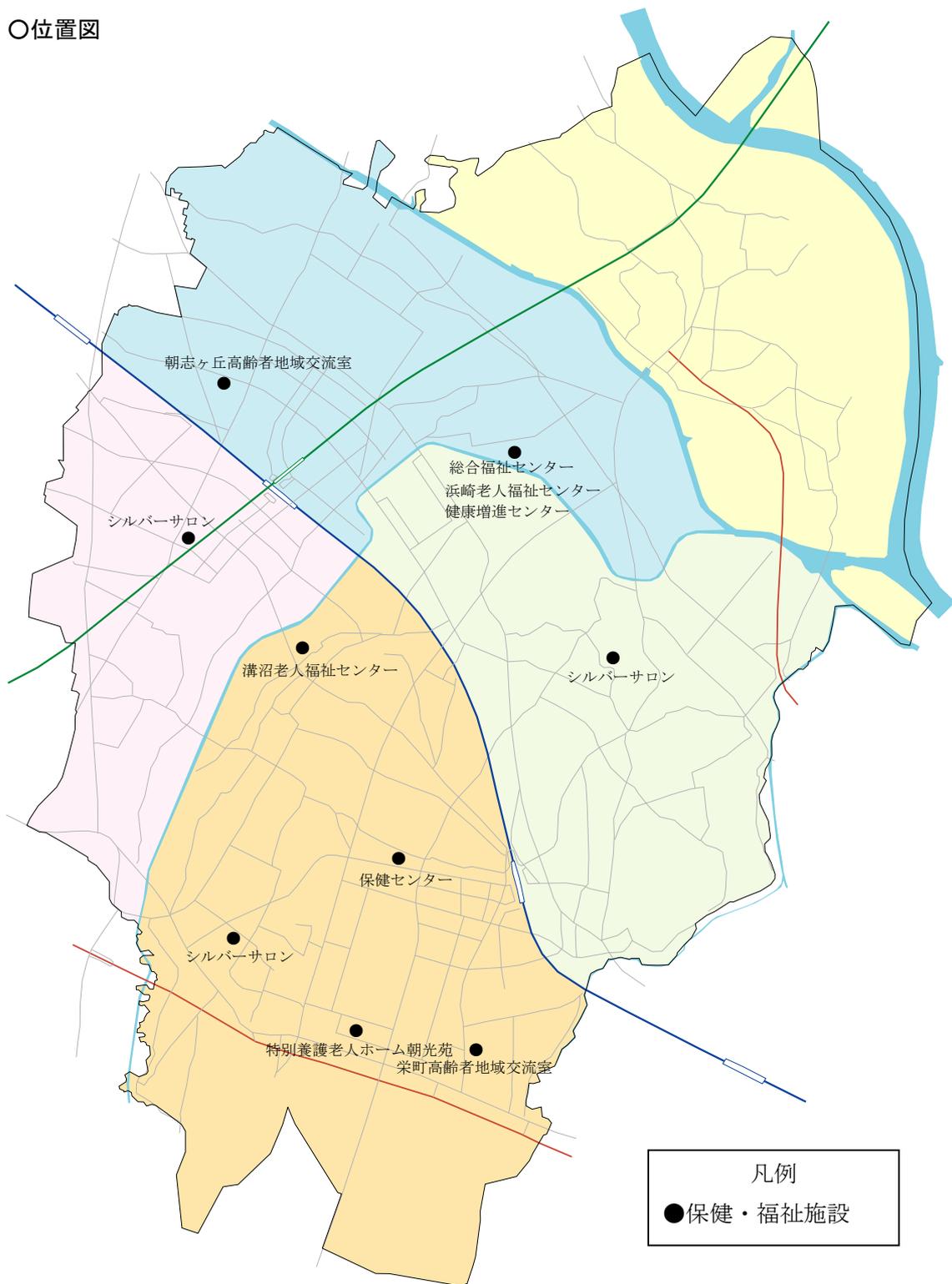


図 4-7-8 : 保健・福祉系施設の位置図

○各施設の現況

健康増進センター（わくわくどーむ）				
所在地		大字浜崎 27		
施設所管課		健康づくり課		
建 物	建物概要	鉄骨鉄筋 コンクリート（SRC）造 地上3階、地下1階		
	延床面積	6,593.47 m <sup>2</sup>		
	建築年	平成6（1994）年		
	耐震性能	新耐震基準の建物です。		
施設の概要		市民の健康づくりのための施設として単独で設置されています。		
指定管理者		株式会社 明治スポーツプラザ		
設備など		駐車場 236 台、駐輪場、エレベータあり		
主なサービス		温水プール、リフレッシュルーム、トレーニングルームなどの提供		
施設維持費用 (年間)	光熱水費	79,624 千円	設備点検費	8,792 千円
	建物管理費	1,845 千円	警備費	5,011 千円
	清掃費	0 千円	廃棄物処理費	0 千円
	消耗品・修繕費	13,057 千円	通信費	373 千円
	その他	0 千円	合計	108,702 千円
主な施設内容	温水プール（競泳プール、流れるプール、ジャグジープール、 幼児プール、リハビリプール）			
	リフレッシュルーム（大浴場、高温サウナ、マッサージ機、休憩室）			
	トレーニングルーム、スタジオ（カーディオコーナー、ランニングコース、 ウェイトコーナー、ストレッチルーム、スタジオ2室）			

特別養護老人ホーム（朝光苑）				
所在地	青葉台 1-10-32			
施設所管課	長寿はつらつ課			
建物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上 2～3 階		
	延床面積	3,798.62 m <sup>2</sup>		
	建築年	昭和 61（1986）年		
	耐震性能	新耐震基準の建物です。		
施設の概要		市の特別養護老人ホームとして単独で設置されています。平成 4 年に新館が鉄筋コンクリート（RC）造地上 3 階建てで増築されています。		
指定管理者	社会福祉法人 朝霞地区福祉会			
設備など	駐車場 9 台、駐輪場あり、エレベータあり			
主なサービス	特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービス、居宅介護、地域包括の運営など			
施設維持費用 （年間）	光熱水費	13,509 千円	設備点検費	3,657 千円
	建物管理費	0 千円	警備費	4,074 千円
	清掃費	8,820 千円	廃棄物処理費	0 千円
	消耗品・修繕費	4,538 千円	通信費	654 千円
	その他	1,885 千円	合計	37,137 千円
主な施設	居室（各階）		機能回復訓練室（1 階）	
	多目的ホール（1 階）		浴室（1 階）	
改修工事の状況	平成 25 年度に外壁改修工事を実施しました。			



総合福祉センター（はあとぴあ）					
所在地	大字浜崎 51-1				
施設所管課	福祉課				
建物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上3階、地下1階			
	延床面積	4,524.44 m <sup>2</sup> （本施設部分）			
	建築年	平成12（2000）年			
	耐震性能	新耐震基準の建物です。			
施設の概要	<p>市の総合的な福祉の拠点施設として設置されています。</p> <p>施設の中には、はまさき児童館、ホームヘルプステーション、浜崎老人福祉センター、障害者就労支援センター、地域活動支援センター、老人デイサービスセンター、はあとぴあ障害者多機能型施設、ボランティアセンター、はあとぴあ障害者相談支援センター、手話通訳者等派遣事務所等が設置されています。</p>				
指定管理者	社会福祉法人 朝霞市社会福祉協議会				
設備など	駐車場 87 台、駐輪場あり、エレベータあり				
主なサービス	施設（部屋等）貸出、主催事業実施など				
施設維持費用 （年間）	光熱水費	28,096 千円	設備点検費	6,315 千円	
	建物管理費	12,787 千円	警備費	3,902 千円	
	清掃費	12,896 千円	廃棄物処理費	96 千円	
	消耗品・修繕費	4,784 千円	通信費	1,576 千円	
	その他	14,347 千円	合計	84,799 千円	
主な部屋の 利用状況	調理実習室 （2階）	12.0% 804 人	社会適応訓練室（2階）	35.0% 3912 人	
	集会室（2階）	32.0% 3741 人	老人デイルーム（1階）		
	多機能事務室（1階）		図書室（2階）		
	注記：施設貸出対象の部屋は、上段が利用率、下段が年間利用人数です。				

浜崎老人福祉センター（総合福祉センター内に設置）		
所在地	大字浜崎 51-1	
施設所管課	長寿はつらつ課	
建物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上3階、地下1階
	延床面積	964.16 m <sup>2</sup> （本施設部分）
	建築年	平成12（2000）年
	耐震性能	新耐震基準の建物です。
施設の概要	北地区の老人福祉センターとして、総合福祉センター内に設置されています。	
指定管理者	社会福祉法人 朝霞市社会福祉協議会	
設備など	駐車場 87 台（総合福祉センターの全体数）、駐輪場、エレベーターあり	
主なサービス	高齢者への健康増進やレクリエーション活動の場の提供	
施設維持費用 （年間）	総合福祉センターに含む	
主な部屋	図書室（2階）	教養娯楽室（2階）
	大広間（2階）	中広間（2階）
	浴場（2階）	



溝沼老人福祉センター（溝沼複合施設内に設置）		
所在地	溝沼 7-13-11	
施設所管課	長寿はつらつ課	
建物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上3階、地下なし
	延床面積	1,126.97 m <sup>2</sup> （本施設部分）
	建築年	平成16（2004）年
	耐震性能	新耐震基準の建物です。
施設の概要	南地区の老人福祉センターとして、溝沼複合施設内に設置されています。	
指定管理者	社会福祉法人 朝霞市社会福祉協議会	
設備など	駐車場13台（溝沼複合施設の全体数）、駐輪場、エレベータあり	
主なサービス	高齢者への健康増進やレクリエーション活動の場の提供	
施設維持費用 （年間）	みぞぬま児童館（溝沼複合施設）に含む	
主な部屋	図書室（2階）	教養娯楽室（2階）
	大広間（2階）	中広間（2階）
	会議室（2階）	浴場（1階）



保健センター				
所在地		本町 1-7-3		
施設所管課		健康づくり課		
建 物	建物概要	鉄筋コンクリート (RC) 造 地上 3 階、地下 1 階		
	延床面積	1,906.30 m <sup>2</sup>		
	建築年	昭和 54 (1979) 年		
	耐震性能	耐震診断の結果、耐震強度が 不足していると判定されました。		
施設の概要		市の保健センターとして単独で設置されています。		
設備など		駐車場 26 台、駐輪場あり		
主なサービス		各種健 (検) 診、相談、教室などの実施		
施設維持費用 (年間)	光熱水費	3,393 千円	設備点検費	756 千円
	建物管理費	0 千円	警備費	378 千円
	清掃費	3,570 千円	廃棄物処理費	0 千円
	消耗品・修繕費	1,712 千円	通信費	646 千円
	その他	75 千円	合 計	10,530 千円
主な部屋	健康づくり課事務室 (1 階)		検診室 1, 2 (1 階)	
	診察室 (1 階)		電算室 (1 階)	
	栄養指導室 (2 階)		保育室 (2 階)	
	健康教室 (2 階)		健康指導室 (2 階)	
	会議室 (2 階)		相談室 (1 階)	

## 8 行政系施設

行政系施設は、市役所に代表されるように、市民の皆さんの窓口となる施設や、消防団詰所、倉庫などといった市が自ら使うためのものが含まれます。行政系施設の一覧を表4-8-1に示します。

表 4-8-1：行政系施設一覧

施設名称	棟数	建築年	延床面積	地区
市役所	10	昭和 47 年	10,685 m <sup>2</sup>	南
内間木支所	1	昭和 55 年	340 m <sup>2</sup>	北
朝霞台出張所	(1)	(賃貸)	(327 m <sup>2</sup> )	西
朝霞駅前出張所	(1)	(賃貸)	(204 m <sup>2</sup> )	東
第一分団	1	平成 20 年	113 m <sup>2</sup>	南
第二分団	1	平成 15 年	118 m <sup>2</sup>	南
第三分団	1	昭和 62 年	52 m <sup>2</sup>	東
第四分団	1	平成 10 年	73 m <sup>2</sup>	東
第五分団	1	昭和 30 年	54 m <sup>2</sup>	南
第六分団	1	昭和 53 年	80 m <sup>2</sup>	南
第七分団 (備蓄倉庫を含む)	1	平成 12 年	162 m <sup>2</sup>	北
第八分団	1	平成 6 年	55 m <sup>2</sup>	内間木
武道館前倉庫	1	昭和 40 年	185 m <sup>2</sup>	南
宮戸四丁目水防倉庫	1	平成 4 年	58 m <sup>2</sup>	北
第一小学校内備蓄倉庫	1	平成 8 年	40 m <sup>2</sup>	南
第二小学校内備蓄倉庫	1	平成 11 年	50 m <sup>2</sup>	東
第四小学校内備蓄倉庫	(1)	平成 22 年	64 m <sup>2</sup>	南
第五小学校内備蓄倉庫	(1)	平成 24 年	55 m <sup>2</sup>	西
第六小学校内備蓄倉庫	1	平成 9 年	50 m <sup>2</sup>	南
第七小学校内備蓄倉庫	(1)	平成 25 年	47 m <sup>2</sup>	北
第八小学校内備蓄倉庫	1	平成 16 年	50 m <sup>2</sup>	南
第九小学校内備蓄倉庫	1	平成 16 年	50 m <sup>2</sup>	東
第十小学校内備蓄倉庫	1	平成 15 年	50 m <sup>2</sup>	南
宮戸防災倉庫	1	平成 20 年	98 m <sup>2</sup>	北

(表 4-8-1 の注記)

建築年は最も古い棟のものを示しています。

複合施設ではそれぞれの施設部分の床面積を表示しています。

延床面積は、端数処理の都合で合計がほかの表と一致しない場合があります。

棟数の欄が ( ) 書きの施設は、賃貸もしくは他の施設と複合化されています。

### ○建築年別延床面積

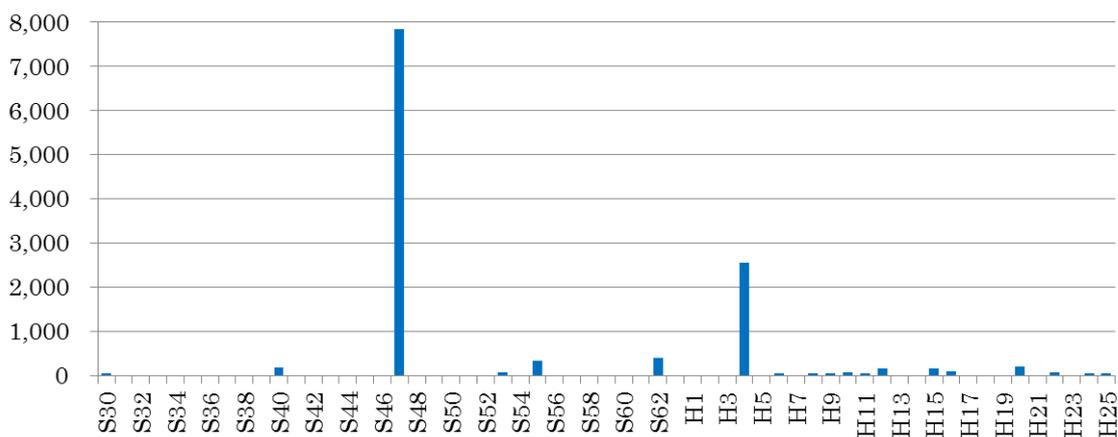


図 4-8-1: 行政系施設 建築年別延床面積 (単位: m<sup>2</sup>)

行政系施設は、市庁舎が延床面積のほとんどを占めています。築30年を超える延床面積が68.5%に達し、全般に老朽化が大きな問題となっています。市庁舎の本館・議場棟については、耐震強度が不足しており、早急な改修工事が必要です。

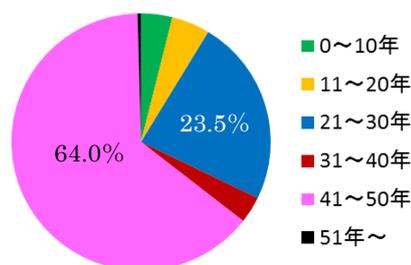


図 4-8-2: 行政系施設 築年数別床面積割合

### ○維持費用の比較

施設の維持費用の内訳を図 4-8-3 に示します。他の施設に比べて建物管理費が多くなっていますが、これは清掃や設備機器の運転業務も含んだ内容になっているのが理由です。なお、市役所は開庁時間以外には警備員が常駐しています。

施設ごとの維持費用比較を図 4-8-4 に、延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの維持費用比較を図 4-8-5 に、それぞれ示します。

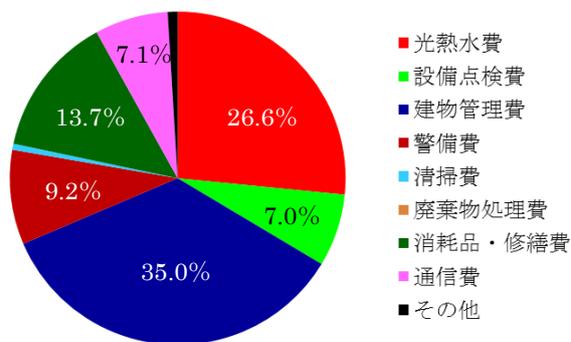


図 4-8-3: 維持費用の性質別内訳

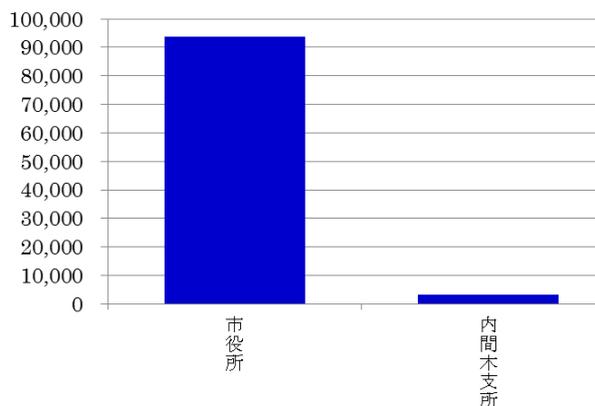


図 4-8-4：施設ごとの維持費用比較  
(単位：千円)

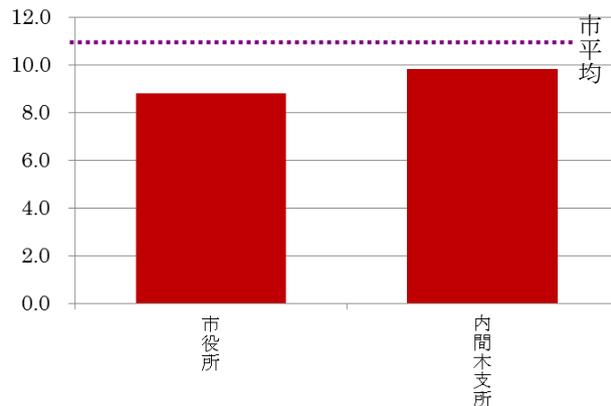


図 4-8-5：延床面積 1㎡あたりの維持費用比較  
(単位：千円)

維持費用は、市役所で多くなっていますが、延床面積 1㎡あたりでは市平均以下のレベルに収まっています。

### ○全体の課題

建物については、老朽化の進行と耐震強度の不足が大きな課題です。特に市役所の本館・議場棟は耐震強度が不足しており、災害時には重要な活動拠点となることから、速やかな耐震改修工事が必要です。なお、市役所については、平成 26 年度から 29 年度にかけて、耐震改修工事を実施する予定です。

市役所での課題として、市民の多くが利用する 1 階を中心に、行政ニーズの増大などにより狭隘化が進んでいます。また、大規模改修工事も実施されておらず、高齢者や障害者も多く訪れる施設であるにもかかわらず洋式トイレが少ないなど、今後も建物を使用していくうえで、長寿命化とニーズの変化への対応を兼ねた改修工事が必要になっています。

○位置図

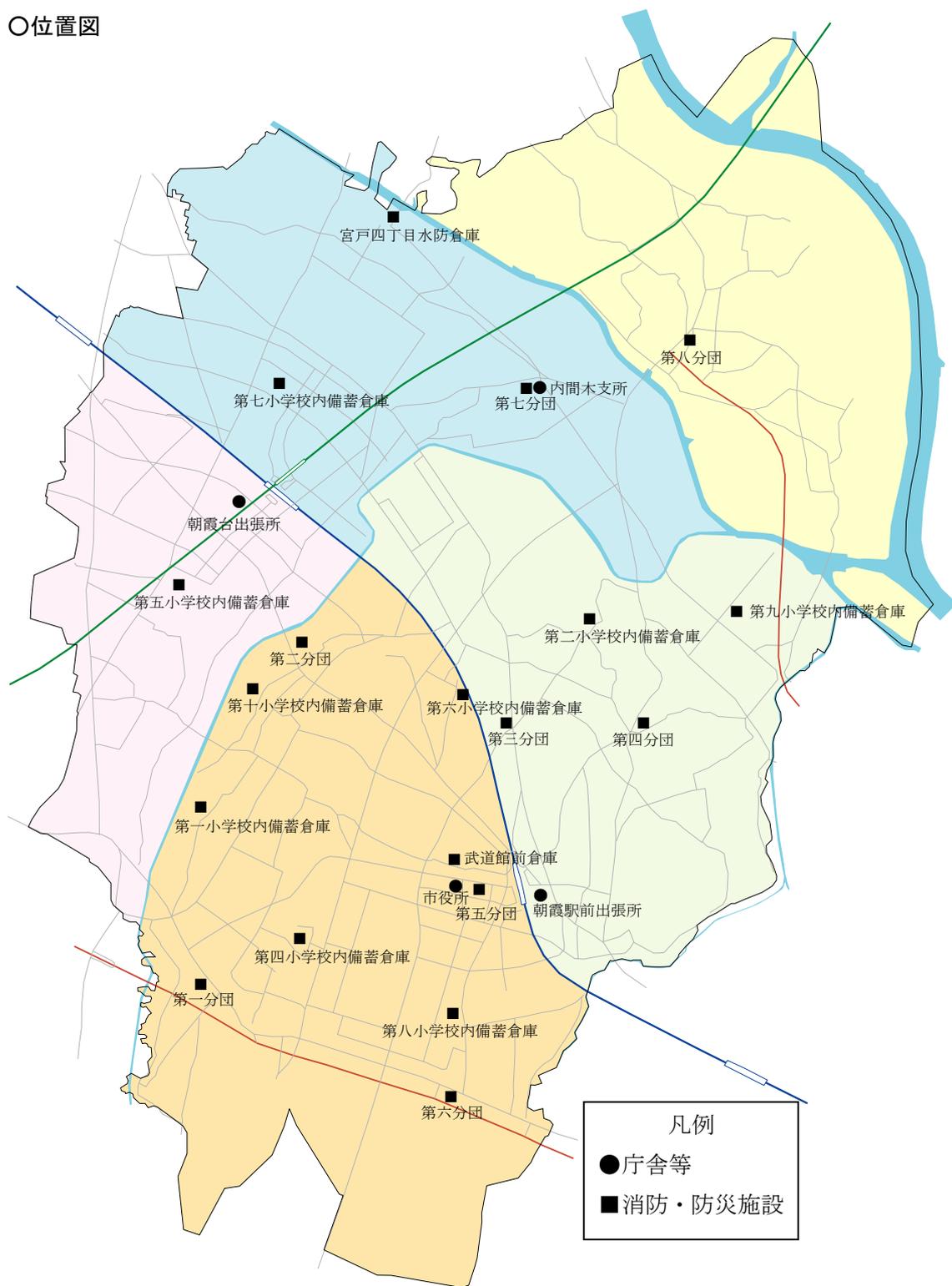


図 4-8-6 : 行政系施設の位置図

○各施設の現況

市役所				
所在地		本町 1-1-1		
施設所管課		財産管理課		
建 物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上5階、地下1階など		
	延床面積	10,684.81 m <sup>2</sup>		
	建築年	昭和 47（1972）年		
	耐震性能	耐震診断（H20年度）の結果、 耐震強度が不足していると判 定されました。		
施設の概要		朝霞市役所として単独で設置されています。 本館、別館の他、倉庫や書庫などが設置されています。		
設備など		駐車場 186 台、駐輪場あり		
主なサービス		各種申請、手続きの受付など行政サービス全般		
施設維持費用 （年間）	光熱水費	24,816 千円	設備点検費	6,656 千円
	建物管理費	33,950 千円	警備費	8,697 千円
	清掃費	84 千円	廃棄物処理費	0 千円
	消耗品・修繕費	11,952 千円	通信費	6,718 千円
	その他	924 千円	合 計	93,797 千円
主な部屋	事務フロア（各階）		市民ホール（1階）	
	議場（2階）		議員控室（2階）	
	委員会室、全員協議会室（2階）		会議室（3～5階）	
	厚生室（地階）		食堂（地階）	
	更衣室（地階）			

内間木支所				
所在地		大字浜崎 231-1		
施設所管課		内間木支所		
建物	建物概要	鉄筋コンクリート (RC) 造 地上 2 階、地下なし		
	延床面積	339.59 m <sup>2</sup>		
	建築年	昭和 55 (1980) 年		
				
施設の概要		市役所支所として単独で設置されています。		
設備など		駐車場 6 台、駐輪場あり		
主なサービス		各種申請、手続きの受付など		
施設維持費用 (年間)	光熱水費	999 千円	設備点検費	179 千円
	建物管理費	0 千円	警備費	215 千円
	清掃費	492 千円	廃棄物処理費	0 千円
	消耗品・修繕費	1309 千円	通信費	146 千円
	その他	0 千円	合計	3340 千円
主な部屋	事務室 (1 階)		会議室 (2 階)	
	休憩室 (2 階)		男女各更衣室 (2 階)	

## 9 駐車場・駐輪場

主に駅前を中心に、駐車場や駐輪場を設けています。自動車の駐車場もありますが、建物としては自転車、原付の駐車場が該当します。表 4-9-1 に建物を有する駐車場・駐輪場の施設一覧を示します。なお、自転車駐車場は下表のほかにも設置されています。

表 4-9-1：駐車場・駐輪場施設一覧

施設名称	棟数	建築年	延床面積	地区
朝霞台駅南口地下自転車駐車場	1	平成元年	2,190 m <sup>2</sup>	西
朝霞台駅南口第1自転車駐車場	1	平成4年	596 m <sup>2</sup>	西
北朝霞駅東口地下自転車駐車場	1	平成9年	3,264 m <sup>2</sup>	北
朝霞駅東口立体自転車駐車場	1	平成11年	1,252 m <sup>2</sup>	東
朝霞駅南口原動機付自転車駐車場	1	平成19年	629 m <sup>2</sup>	南
朝霞駅東口地下自転車駐車場	1	平成19年	1,153 m <sup>2</sup>	東
朝霞駅南口地下自転車駐車場	1	平成19年	4,851 m <sup>2</sup>	南

注記：建築年は最も古い棟のものを示しています。

延床面積は、端数処理の都合で合計がほかの表と一致しない場合があります。

### ○建築年別延床面積

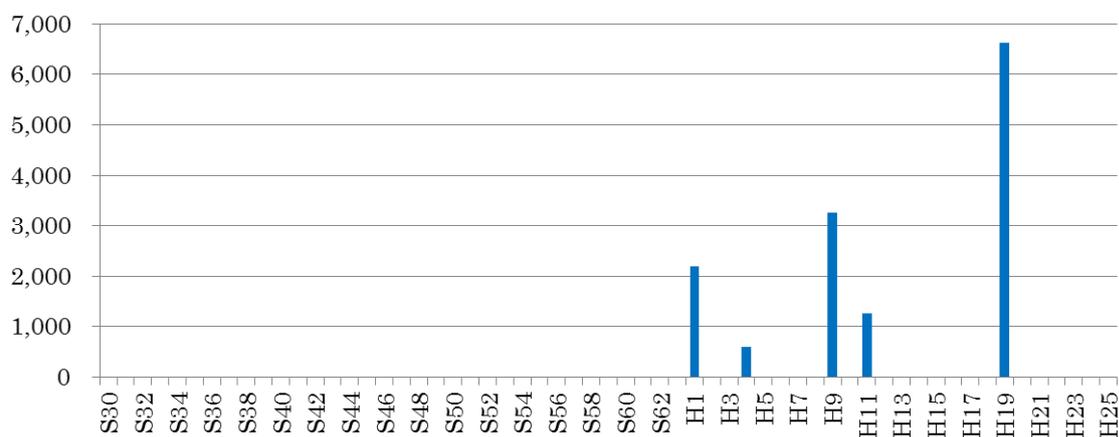


図 4-9-1：駐車場・駐輪場施設 建築年別延床面積 (単位: m<sup>2</sup>)

駐車場・駐輪場は、駅前広場地下に設けられたものが多く、建築物というよりは土木構造物に近い施設が多数を占めています。整備時期は比較的近年のものが多く、築年数が30年を越えるものはまだありません。

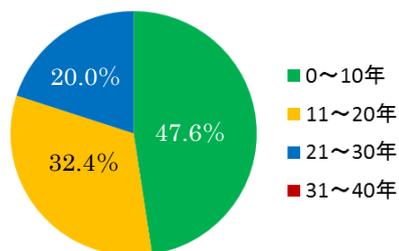


図 4-9-2：駐車場・駐輪場  
築年数別床面積割合

### ○維持費用の比較

施設の維持費用の内訳を図 4-9-3 に示します。夜間警備を実施している関係で、警備費の割合が高くなっているのが他の施設にない特徴です。なお、この費用には指定管理料（指定管理者はすべて公益社団法人朝霞地区シルバー人材センター）は含まれていません。

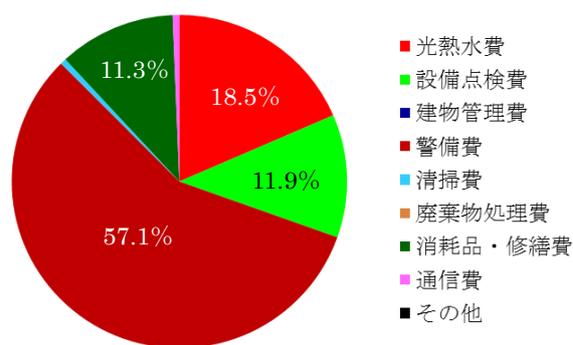


図 4-9-3：維持費用の性質別内訳

各施設ごとの維持費用比較を図 4-9-4 に、延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの維持費用比較を図 4-9-5 に、それぞれ示します。

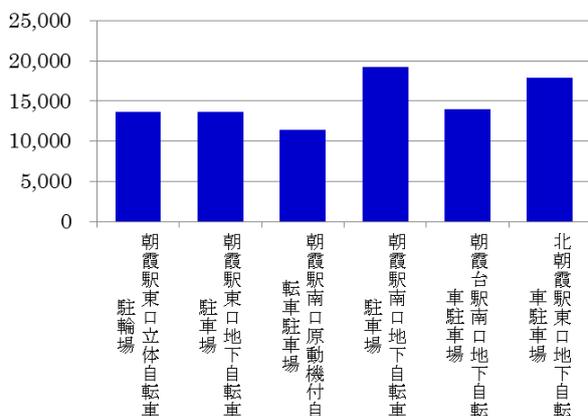


図 4-9-4：各施設ごとの維持費用比較  
(単位：千円)

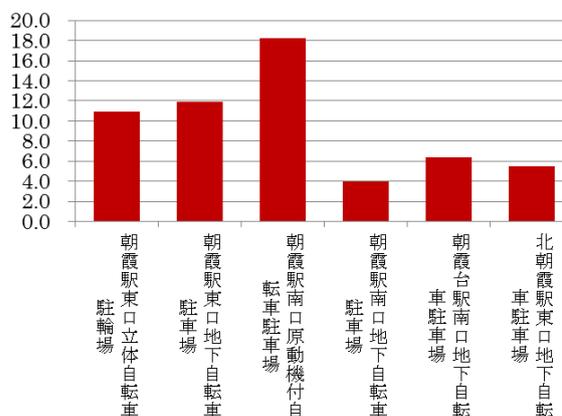


図 4-9-5：延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの  
維持費用比較 (単位：千円)

### ○全体の課題

前述のとおり、地下に設置された施設が多く、地下構造物としての保守点検が必要です。また、立体自転車駐輪場では多数の昇降機設備があり、点検を定期的に行う必要があります。

○位置図

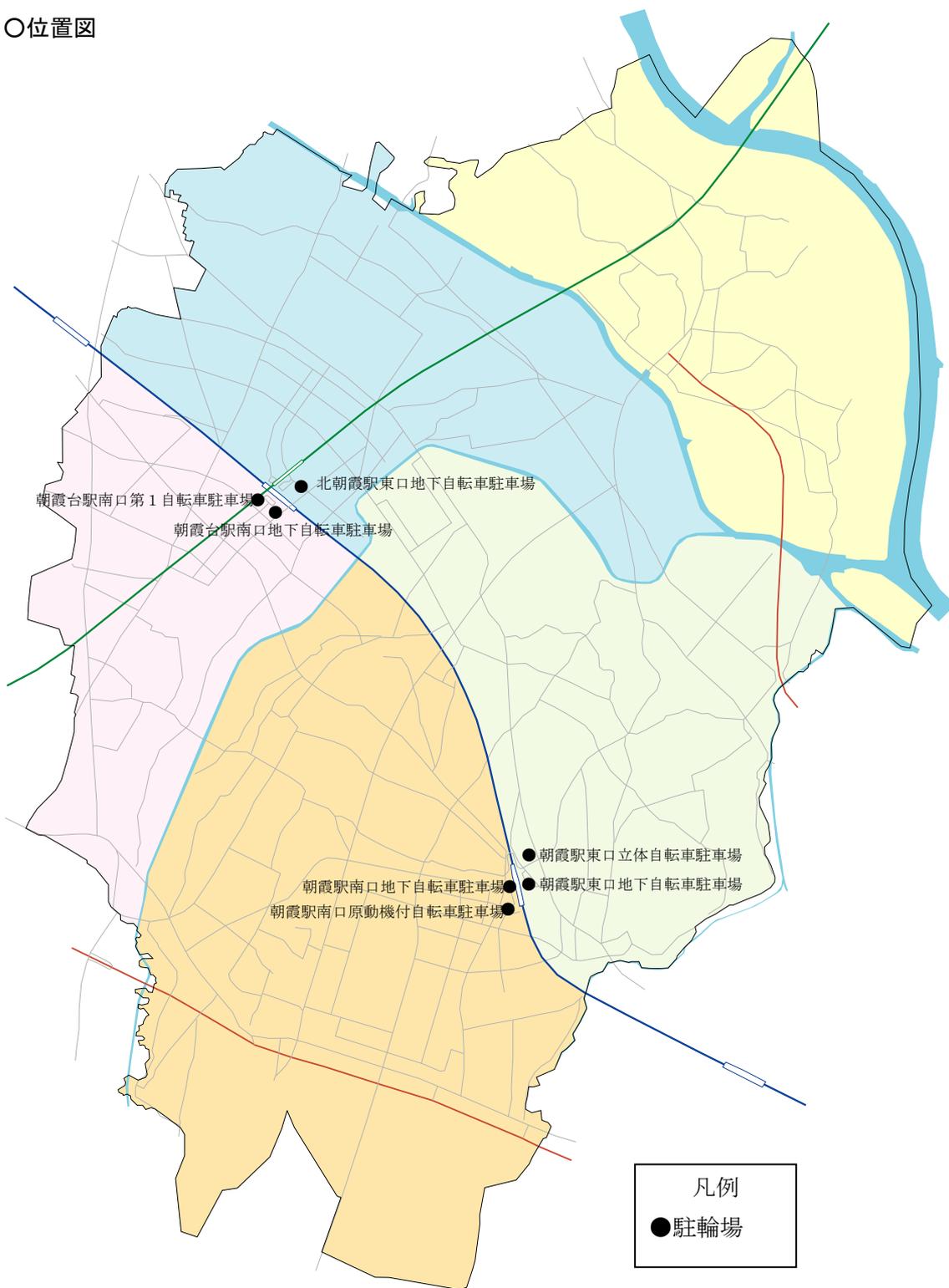


図 4-9-6 : 駐車場・駐輪場の位置図

## 10 その他の施設

これまでにまとめてきたいずれにも属さない施設として、斎場やリサイクルプラザなどがあります。表 4-10-1 にこれらの施設一覧を示します。なお、女性センターは中央公民館内に設置されています。

表 4-10-1：その他の施設一覧

施設名称	棟数	建築年	延床面積	地区
朝霞市斎場	1	平成 9 年	1,871 m <sup>2</sup>	東
リサイクルプラザ	1	平成 12 年	1,286 m <sup>2</sup>	北
女性センター（それいゆぷらざ）	(1)	(昭和 59 年)	125 m <sup>2</sup>	南
北朝霞駅構内公衆便所	1	平成 4 年	45 m <sup>2</sup>	北
朝霞駅南口広場公衆トイレ	1	平成 19 年	52 m <sup>2</sup>	南
朝霞駅東口広場公衆トイレ	1	平成 20 年	59 m <sup>2</sup>	東

注記：建築年は最も古い棟のものを示しています。

延床面積は、端数処理の都合で合計がほかの表と一致しない場合があります。

棟数の欄が ( ) 書きの施設は、賃貸もしくは他の施設と複合化されています。

女性センターは平成 25 年 1 月開所ですが、建物は昭和 59 年に建築されています。

### ○利用人数の推移

斎場の年間利用件数の推移を、図 4-10-1 に、リサイクルプラザの年間利用者数を図 4-10-2 に、それぞれ示します。傾向としては、微減傾向にあります。

なお、女性センターは平成 25 年 1 月に開所し、平成 25 年度の年間利用者数は 2,435 人でした。

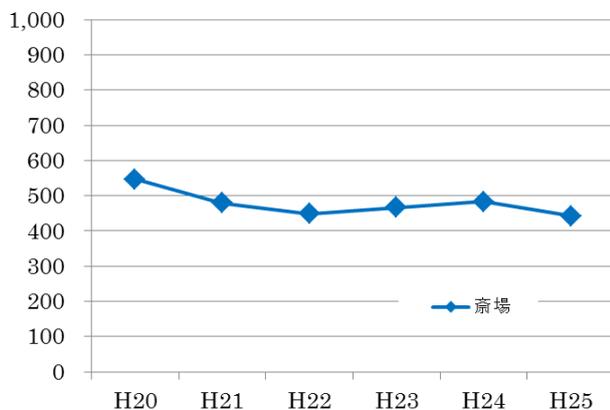


図 4-10-1：斎場年間利用件数の推移  
(単位：件)

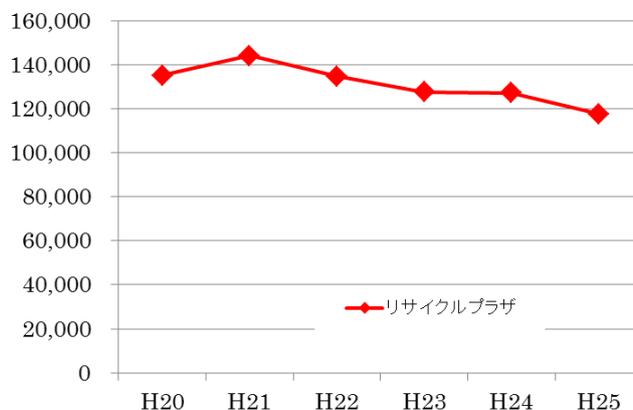


図 4-10-2：リサイクルプラザ年間利用者数の推移  
(単位：人)

○維持費用

施設の維持費用の内訳を図 4-10-2 に示します。光熱水費の割合が低めである点などが特徴です。

各施設ごとの維持費用比較を図 4-10-3 に、延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの維持費用比較を図 4-10-4 に、それぞれ示します。

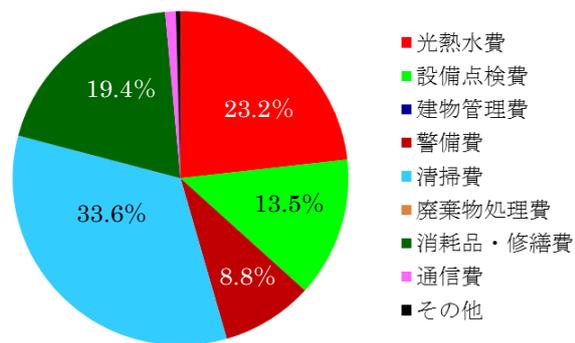


図 4-10-2 : 維持費用の性質別内訳

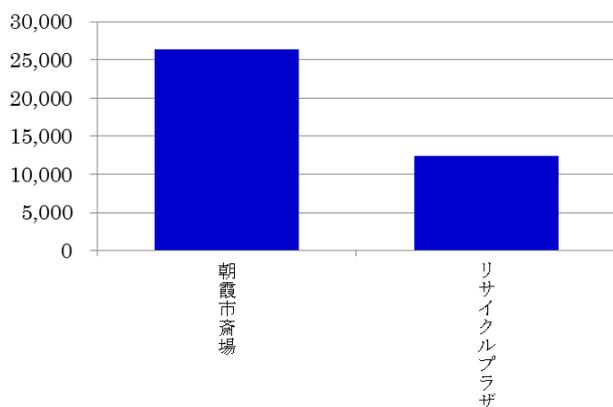


図 4-10-3 : 施設ごとの維持費用比較  
(単位：千円)

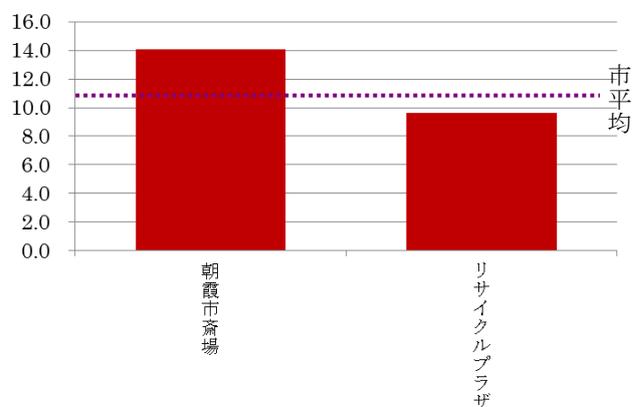


図 4-10-4 : 延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの維持費用比較 (単位：千円)

○位置図

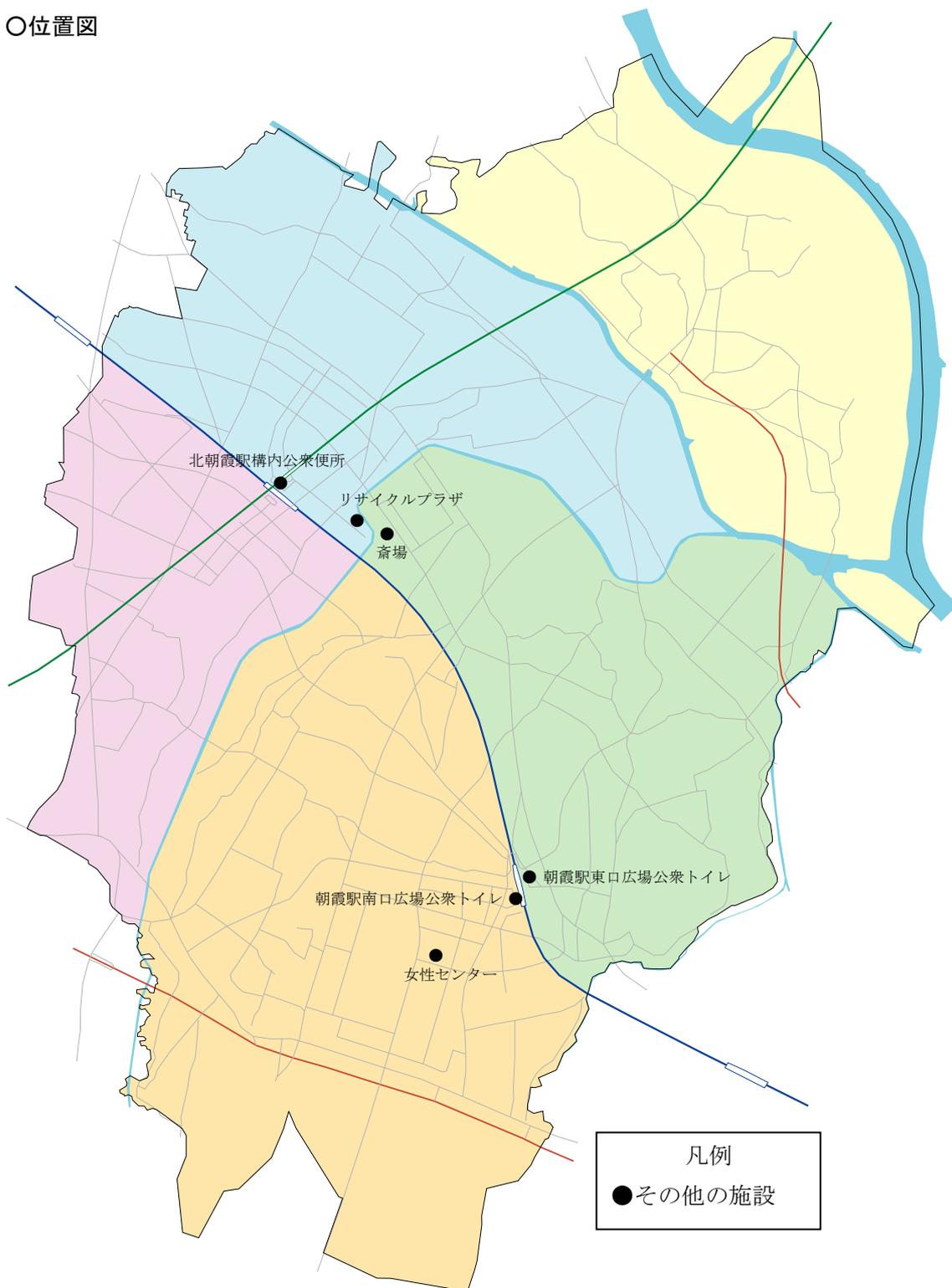


図 4-10-5 : その他の施設の位置図

○各施設の現況

朝霞市斎場				
所在地		大字溝沼 1259-1		
施設所管課		地域づくり支援課		
建 物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上3階、地下なし		
	延床面積	1,870.89 m <sup>2</sup>		
	建築年	平成9（1997）年		
	耐震性能	新耐震基準の建物です。		
施設の概要		市の斎場として単独で設置されています。		
指定管理者		公益財団法人 朝霞市文化・スポーツ振興公社		
設備など		駐車場 86 台、駐輪場あり、エレベータあり		
主なサービス		葬儀の執り行い		
施設維持費用 (年間)	光熱水費	6,266 千円	設備点検費	3,025 千円
	建物管理費	0 千円	警備費	3,123 千円
	清掃費	8,429 千円	廃棄物処理費	0 千円
	消耗品・修繕費	5,148 千円	通信費	204 千円
	その他	172 千円	合計	26,367 千円
主な部屋の 利用状況	第一式場 (1階)	74.0%	第二式場 (1階)	88.0%
	安置室(1階)	21.0%	第一控室(1階)	74.0%
	第二控室(1階)	88.0%	けやき(2階)	48.0%
	いちょう(2階)	33.0%	ふじ(2階)	27.0%
	きく(3階)	38.0%	ゆり(3階)	13.0%
	ききょう(3階)	31.0%	事務所(1階)	
注記：施設貸出対象の部屋は、右方が利用率です。				

リサイクルプラザ				
所在地		大字浜崎 664-2		
施設所管課		資源リサイクル課		
建 物	建物概要	鉄筋コンクリート（RC）造 地上3階、地下なし		
	延床面積	1,285.53 m <sup>2</sup>		
	建築年	平成12（2000）年		
	耐震性能	新耐震基準の建物です。		
施設の概要		ごみ問題の意識啓発などを推進するための情報拠点として単独で設置されています。		
設備など		駐車場10台、駐輪場あり		
主なサービス		リサイクルに係る情報提供や事業などの実施		
施設維持費用 （年間）	光熱水費	2,732 千円	設備点検費	2,208 千円
	建物管理費	0 千円	警備費	300 千円
	清掃費	4,578 千円	廃棄物処理費	0 千円
	消耗品・修繕費	2,378 千円	通信費	194 千円
	その他	0 千円	合計	12,390 千円
主な部屋	リサイクルショップ（1階）		シルバー工房（1階）	
	リフォーム工房（3階）		リサイクル工房（3階）	
	活動室（3階）		事務室（1階）	

女性センター（それいゆぷらざ）（中央公民館内に設置）		
所在地	青葉台 1-7-1	
施設所管課	人権庶務課	
建 物	建物概要	鉄骨鉄筋 コンクリート（SRC）造 地上 3 階、地下 1 階
	延床面積	124.80 m <sup>2</sup> （本施設部分）
	建築年	昭和 59（1984）年 開設は平成 25（2013）年
	耐震性能	新耐震基準の建物です。
施設の概要	男女平等を推進するための拠点として中央公民館内に設置されています。	
設備など	駐車場 43 台（中央公民館全体の数）、駐輪場、エレベータあり	
主なサービス	男女平等に関する情報提供や相談などの実施	
施設維持費用 （年間）	中央公民館に含む	
主な部屋	情報・交流コーナー（1 階）	相談室（1 階）



## 1 1 用途廃止された施設

耐震強度が不足しているなど、種々の理由で用途廃止されたものが現在3施設あります。これらの施設の一覧を表4-11-1に示します。

表4-11-1：用途廃止された施設一覧

施設名称	棟数	建築年	延床面積	地区
旧憩いの湯（湯〜ぐうじょう）	2	平成9年	2,532 m <sup>2</sup>	内間木
旧猪苗代湖自然の家	2	昭和41年	1,923 m <sup>2</sup>	—
旧朝霞第四小学校	12	昭和39年	8,104 m <sup>2</sup>	南

注記：建築年は最も古い棟のものを示しています。

延床面積は、端数処理の都合で合計がほかの表と一致しない場合があります。

旧猪苗代湖自然の家は、福島県会津若松市にあります。

### ○建築年別延床面積

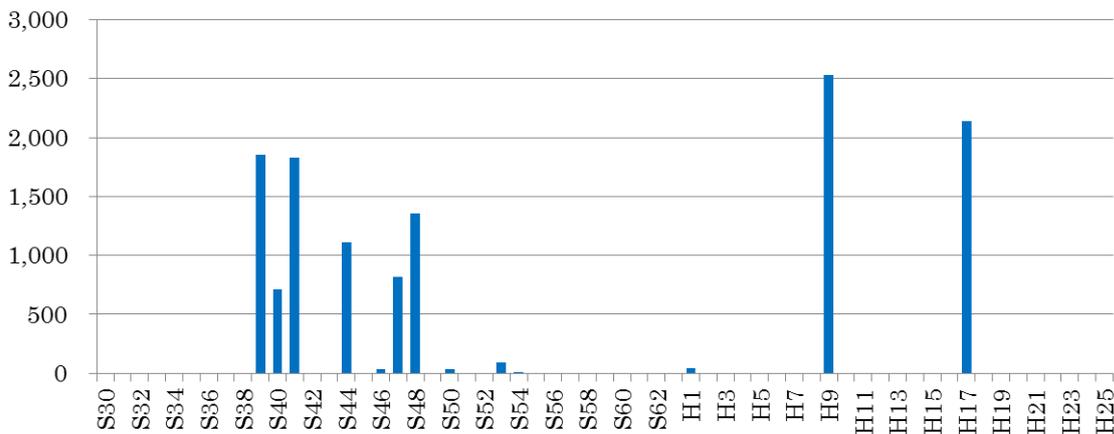


図4-11-1：用途廃止された施設 建築年別延床面積 (単位：m<sup>2</sup>)

用途廃止された施設は、その多くが築年数40年以上の建物になっています。築年数20年未満の建物は、旧憩いの湯と旧朝霞第四小学校の仮設校舎が該当し、それぞれ約2割を占めています。

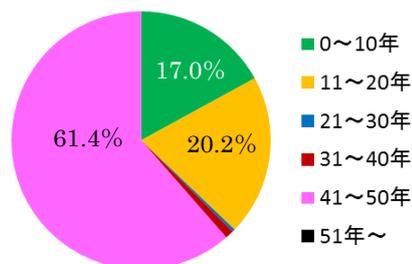


図4-11-2：用途廃止された施設 築年数別床面積割合

## ○用途廃止に至った経緯

### ①旧憩いの湯

憩いの湯は平成9年にしゅん工し、クリーンセンターの余熱を利用した温浴施設として多くの市民に利用されてきました。

しかし、平成17年に地盤の不等沈下が原因と推測される浴場からの大量の漏水が判明し、平成18年4月に営業を中止しました。平成17年の「憩いの湯施設改修等調査検討委員会」、平成18年の「憩いの湯施設改修等調査検討委員会」などにより、種々の側面から検討が行われた結果、修繕費用が多額にのぼることや、近隣に民営の類似施設が増えてきたことなどから、公共温浴施設としての役割は終わったものと判断されました。

その後、建物の有効活用策が模索されましたが、平成25年10月に、既存の建物を解体し、土地の活用を図っていくべきとの方向性が示されました。現在では、除草や敷地内清掃などの最低限の管理のみ行っています。

### ②旧猪苗代湖自然の家

猪苗代湖自然の家は、昭和53年に開所し、市内小中学校の林間学校としての利用や、市民の保養やレクリエーションの拠点として多くの方に利用されてきました。

しかし、平成21年度に耐震診断を実施したところ、耐震強度が不足しているとの判定が出され、施設の利用が中止されました。特に本館3階のスラブ（構造床）は危険な状態にあり、構造がやや特殊であることもあって、耐震補強工事、建替えのいずれの案でも7億円前後が必要になるとの試算結果が出されました。平成22年に、「朝霞市立猪苗代湖自然の家に関する検討委員会」で種々の側面から検討が行われ、廃止もやむなしとの結論に至りました。

敷地や建物を地元自治体等で活用していただけないか調整を試みているところですが、現時点で結論は出ていません。現在は除草や雪庇除去など、敷地内外の安全を維持する最低限の管理のみ行っています。

### ③旧朝霞第四小学校

朝霞第四小学校は昭和33年に設置され、多くの児童が学んできました。

平成14年度に実施した耐震診断の結果、耐震強度が不足しているとの判定が出されました。さらに、通学区域が隣接している第一小学校、第六小学校の児童数が増加し、過大規模の解消を図る必要も生じました。これに伴う通学区域の変更も併せて考慮し、旧朝霞第一中学校跡地（現在の朝霞第四小学校の場所）に移転新築することになりました。

新校舎は平成22年から使用開始されましたが、それまでの間、耐震強度が不足した状態で学校を運営することは危険が伴うため、平成17年に仮設校舎を旧敷地内に建設し、対応しました。

旧校舎は耐震強度が不足していることから完全閉鎖とし、仮設校舎とグラウンドについ

では、活用方針が決まるまでの間、市民に開放されてきました。しかし、管理費用削減のため、仮設校舎については平成 25 年度までで利用を休止し、現在はグラウンドのみ開放しています。敷地の活用策については種々検討がなされていますが、現時点で結論は出ていません。

### ○維持費用の比較

用途廃止した施設の維持費用の内訳を図 4-11-3 に示します。現在は施設を閉鎖していても、除草や最低限の警備、ライフラインなどで少なからず維持費用を要しているのが実態です。ただし、維持費用の縮減に向けて、管理内容などの見直しを行っています。

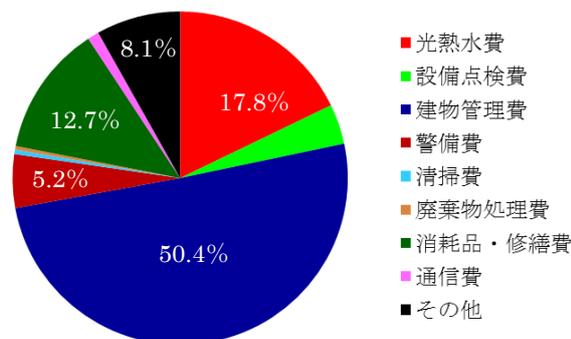


図 4-11-3：維持費用の性質別内訳

各施設ごとの維持費用比較を図

4-11-4 に、延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの維持費用比較を図 4-11-5 に、それぞれ示します。

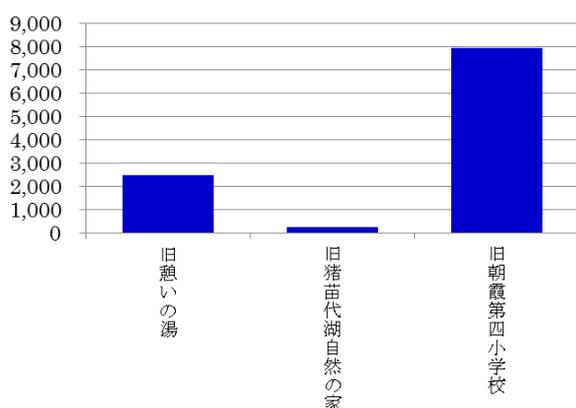


図 4-11-4：各施設ごとの維持費用比較  
(単位：千円)

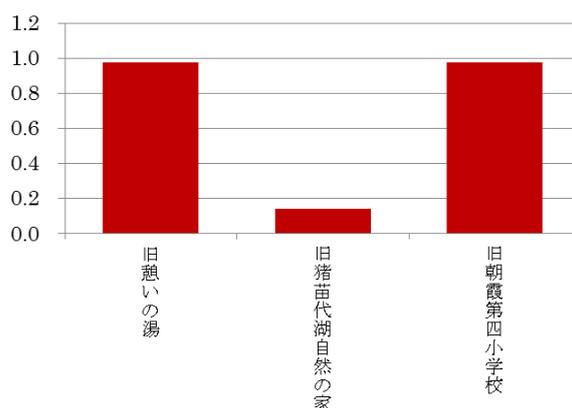


図 4-11-5：延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの維持費用比較  
(単位：千円)

旧朝霞第四小学校が相対的に高く見えますが、延床面積 1 m<sup>2</sup>あたりの維持費用は、市平均の 11.0 千円にくらべて 1/10 程度の水準になっています。

### ○全体の課題

用途廃止した 3 施設に共通する方向性として、建物を解体して土地だけにすれば、流動性が一気に高まり、取扱いを決めやすくなります。しかし、建物の解体には多額の費用が必要であることから、実現には至っていません。

○位置図

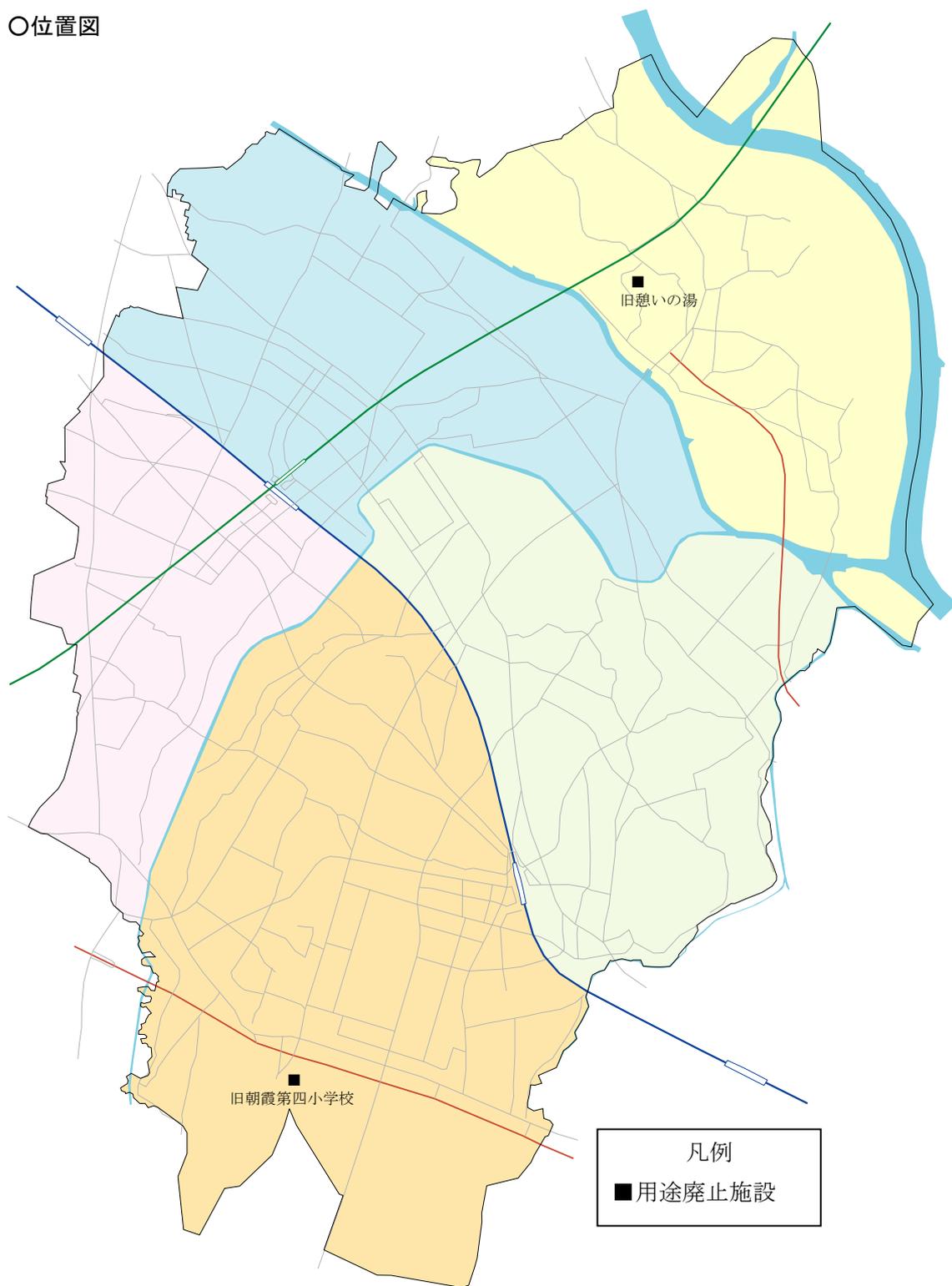


図 4-11-6 : 用途廃止された施設の位置図  
(旧猪苗代湖自然の家をのぞく)

○各施設の現況

旧憩いの湯				
所在地		大字上内間木 518-3		
施設所管課		財産管理課		
建物	建物概要	鉄骨鉄筋 コンクリート（SRC）造 地上2階、地下なし		
	延床面積	2,531.97 m <sup>2</sup>		
	建築年	平成9（1997）年		
	耐震性能	新耐震基準の建物です。		
施設の概要		市の温泉娯楽施設として活用されてきました。平成18年に営業中止、平成25年に施設の用途を廃止し、普通財産になりました。		
設備など		駐車場74台、駐輪場あり、エレベータあり（いずれも使用不可）		
主なサービス		現在サービスの提供なし		
施設維持費用 (年間)	光熱水費	806千円	設備点検費	165千円
	建物管理費	0千円	警備費	479千円
	清掃費	46千円	廃棄物処理費	0千円
	消耗品・修繕費	900千円	通信費	74千円
	その他	0千円	合計	2,470千円
主な施設	大浴場（1階）		更衣室（1階）	
	サウナ（1階）		大広間（2階）	
	中広間（2階）		カラオケルーム（2階）	
	和室（2階）			

旧猪苗代湖自然の家					
所在地	福島県会津若松市湊町 大字赤井字戸ノ口 53				
施設所管課	財産管理課				
建 物	建物概要	鉄筋コンクリート (RC) 造 地上 3 階、地下なし			
	延床面積	1,922.82 m <sup>2</sup>			
	建築年	昭和 41 (1966) 年			
	耐震性能	耐震診断 (平成 21 年度) の結果、耐震強度不足と判 定されました。			
施設の概要	市民の保養やレクリエーションの拠点として活用されてきました。平成 22 年に営業中止、平成 23 年に施設の用途を廃止し、普通財産になりました。				
設備など	駐車場あり (現在は使用不可)				
主なサービス	現在サービスの提供なし				
施設維持費用 (年間)	光熱水費	0 千円	設備点検費	0 千円	
	建物管理費	0 千円	警備費	0 千円	
	清掃費	0 千円	廃棄物処理費	0 千円	
	消耗品・修繕費	0 千円	通信費	0 千円	
	その他	279 千円	合 計	279 千円	
主な部屋	食堂 (1 階)		会議室 (1 階)		
	事務室 (1 階)		男風呂、女風呂 (1 階)		
	ミーティングルーム (2、3 階)		和室 (2、3 階)		
	大広間 (3 階)		ホール (3 階)		

旧朝霞第四小学校					
所在地		幸町 3-14-65			
施設所管課		財産管理課 地域づくり支援課			
建 物	建物概要	鉄筋コンクリート (RC) 造 地上 3 階など			
	延床面積	8,104.33 m <sup>2</sup>			
	建築年	平成 17 (2005) 年			
	耐震性能	旧校舎は耐震診断の結果、耐震強度不足と判定されました。仮設校舎は鉄骨 (S) 造 2 階で、新耐震基準の建物です。			
施設の概要		新築移転に伴い平成 22 年に用途を廃止しました。その後、仮設校舎の貸出しを行っていましたが、平成 26 年に休止しました。			
設備など		駐車場、駐輪場あり、エレベータあり (いずれも使用不可)			
主なサービス		グラウンドの貸し出し			
施設維持費用 (年間)		光熱水費	1,094 千円	設備点検費	249 千円
		建物管理費	5,379 千円	警備費	76 千円
		清掃費	0 千円	廃棄物処理費	37 千円
		消耗品・修繕費	453 千円	通信費	44 千円
		その他	588 千円	合計	7,920 千円
主な建物の延床 面積と建築年度		普通教室棟	1,856.00 m <sup>2</sup>	昭和 39 (1964) 年	
		普通教室棟	709.00 m <sup>2</sup>	昭和 40 (1965) 年	
		特別普通教室棟	1,112.00 m <sup>2</sup>	昭和 44 (1969) 年	
		体育館	816.00 m <sup>2</sup>	昭和 47 (1972) 年	
		管理棟	1,143.00 m <sup>2</sup>	昭和 48 (1973) 年	
		昇降口	214.00 m <sup>2</sup>	昭和 48 (1973) 年	
		仮設校舎	2,136.33 m <sup>2</sup>	平成 17 (2005) 年	



## 第5章 公共施設の課題

### 1 維持費用の負担増

第4章で見てきたように、施設の維持費用は、光熱水費、警備や清掃などの委託費、建物の設備点検費など、固定的に支出している費用が多いことにお気づきだと思います。実際にはさらに人件費も要していますので、固定的費用で捉えれば、さらに多額の費用が公共施設に投入されていることになりま

す。図5-1に、性質別の維持費用内訳を示します(図3-7と同じ)。維持費用としてここに掲げる費用は、常に必要な経費であり、大きく増えない一方、大きく減ることもない、そういう性質のものといえます。

しかし、現在の市全体の財政状況でみると、社会保障関係の経費が増加を続けており、歳入の大幅な増加が見込

めないという状況を考えたとき、半ば固定的に支出している維持費用は、相対的に負担が重くなってきているのも事実です。維持費用の効果的な縮減は、即効性はなくとも、5～10年程度の中期的な体力強化のために、ぜひとも取り組むべきテーマであると考えられます。

具体的な取組内容は、「公共施設等総合管理計画」に譲るとして、ここでは既に取り組んでいる事例のひとつとして、公共施設の電気供給を新電力に切り替えた例をご紹介します。

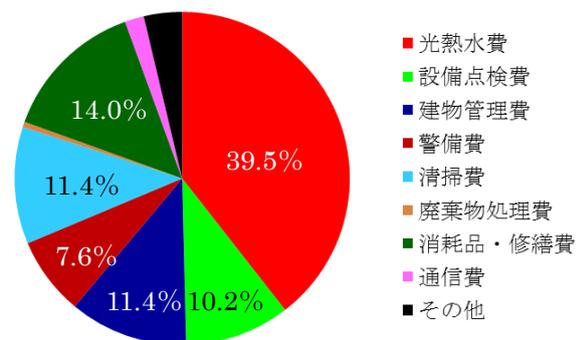


図5-1：公共施設全体の維持費用内訳

#### ○公共施設への新電力の導入

公共施設の電気料金の縮減を目的として、平成24年9月から市内の小中学校全15校で、平成25年4月からは市内21箇所の公共施設で、電力供給を東京電力からいわゆる新電力事業者(特定規模電気事業者・PPS)に切り替えました。切替対象となる施設は、施設の電気使用状況から、新電力のほうが安くなるものだけを選定しています。

いずれも2年単位の契約で、小中学校については平成26年9月時点で、東京電力にくらべて年間約1,242万円、他の公共施設では平成25年4月時点で東京電力に比べて年間約853万円、それぞれ費用縮減できています。

## 2 老朽化の進行

建物の構造だけでなく、気候やメンテナンスなど様々な条件で建物の寿命は違ってきますが、おおよその目安として、築年数が30年を越えるものについて集計してみると、延床面積で約43.3%が老朽化している状況にあります。図5-2に、建築年別の延床面積を示します。(図3-2の人口を除いたものと同じ。)

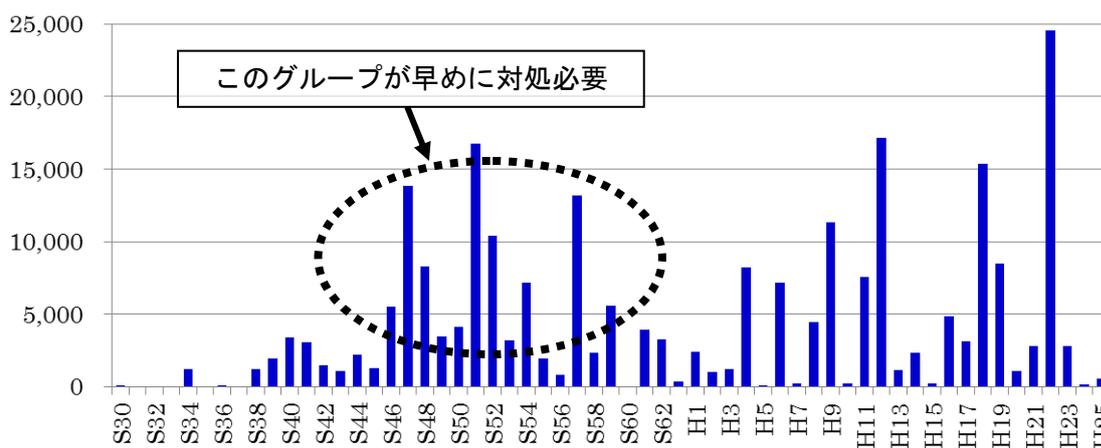


図5-2: 建築年別の延床面積 (単位: m<sup>2</sup>)

朝霞市の公共施設の特徴である「2つの山」のうち、一つ目の昭和40年代後半～昭和50年代にかけてのグループが、全般に老朽化が進んでいます。遠目で見ると健全なように見えても、内部の設備や、内外装の細かい不具合は増加傾向にあり、今後も安全で良好な状態で使用していくためには、大規模改修工事を行う必要があります。

新築からの年数が経過するにつれて劣化しやすい箇所としては、屋上防水、サッシ廻りのシール、内装や外装素材の傷み、扉やサッシの開閉不良、設備面では空調や水廻りの配管などが挙げられます。これらを状況に応じて適切に改修・更新すれば、建物の寿命まで安全で快適な状態で使用することができます。

### 3 建替え費用の確保

現在ある建物は、やがて寿命がきて建替えすべき時が来ます。それがどのタイミングなのか、何年を目標にすべきなのかは第6章で改めて検討しますが、公共施設が抱える課題として、建替え・大規模改修に多額の費用がかかる、ということが言えます。図5-3に、今後約50年間の建替え費用（茶色）と大規模改修費用（水色）を示します。

この想定では、建替えや大規模改修のタイミングで単年度に全額を支出するという計算方法をとっていますが、実際には大規模な工事であるほど複数年度に施工がまたがりますので、年度ごとの支出は、もう少し平準化された形になるものと予想されます。

今後、平成76年度までの50年間の建替えと大規模改修にかかる費用は、総額で約1050億円、年平均にすると約21.0億円と推測されます。毎年これだけの額が、現状の歳出に加えて必要になるということを意味します。

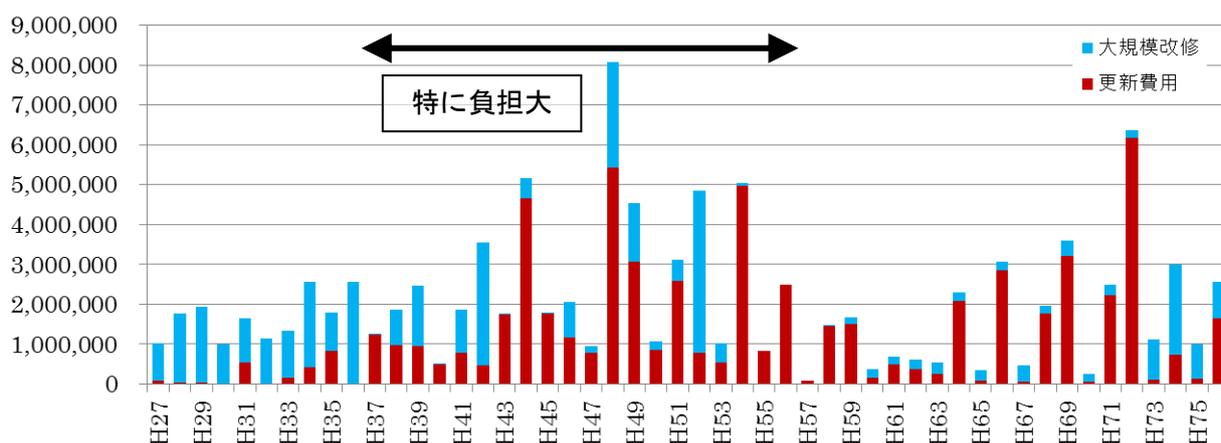


図5-3：今後50年間の建替え費用と大規模改修費用の推計（単位：千円）

特に平成27年からの30年間でみると、総額が約710億円、年平均で約23.7億円となります。この期間は、昭和40年代後半～昭和50年代にかけてのグループの建替えが発生するため、負担が特に大きいことが分かります。しかも、これらに加えて道路や橋梁などのインフラ系の更新・改修費用も必要になってきます。

## 4 事後保全から予防保全への転換

例えば、経年劣化の定番とも言える雨漏りについて考えてみます。実際に雨漏りしてから補修するのが「事後保全」のやり方です。一方、シール部分の経年数や劣化状況などから判断して、雨漏りする前に補修するのが「予防保全」のやり方です。

イメージでは、予防保全のほうが何かと費用がかかるようにも思えます。しかし、実際のところ、不具合が起きてから補修すると、補修範囲がどうしても大きくなるため、建物の生涯を通じて考えると高くつく、とされています。例えば、雨漏りの例で言うと、予防保全ならシール部分の補修だけで済んだはずが、事後保全だと雨漏りして汚損した内装の壁紙や床まで補修する必要が出てくる、ということです。こうなると、建物の傷みも早くなり、ライフサイクルコスト全体で見ると、結局高くつくことになります。これをイメージ図で表すと、図 5-4 のようになります。

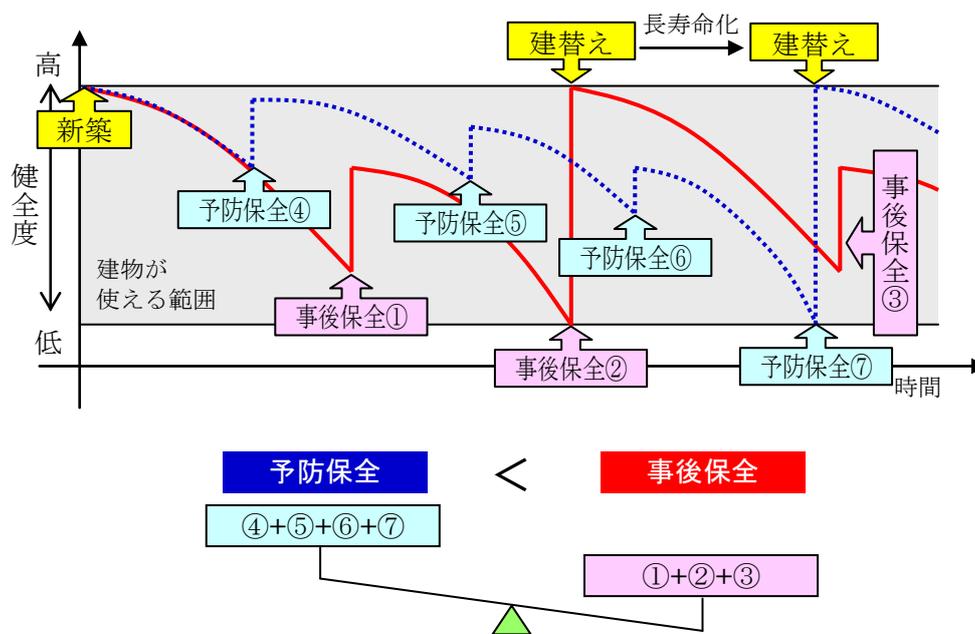


図 5-4：予防保全と事後保全の比較（イメージ図）

## 5 効率的な管理体制の構築

それぞれの公共施設の管理は、所管課ですべて行っています。これは、各々の施設に見合ったきめ細かな管理ができるという点では優れた方法といえます。しかし、補修の要否の判断は、各現場に任されており、管理体制に差があるのも現実です。厳しさを増す財政状況の下では、判断レベルの差による無駄は極力減らす必要があります。

このような施設ごとの差を平準化し、併せて管理コスト縮減も図る方法として、建物の維持管理の一部を事業から切り離して、集約化することが考えられます。もちろん日々変化する建物の状況確認は現場でなければできませんが、業務委託の管理監督、補修要否の判断などは市全体で統一可能です。集約の単位は、所管課、施設類型など、ステップに応じて様々な形態が考えられます。ただし、管理する側に相応の人員が必要になることも確かですが、10年程度の中期的レベルで体力アップが可能な方策でもあり、課題として取り組む必要があるものと考えられます。

## 第6章 将来の費用推計

### 1 更新費用の推計

建物は、いずれ寿命がきて建替えを検討すべき時が来ます。世界的には築年数が数百年を経た永久建築と言ってよい建物もありますが、現実問題として、今の公共施設は永久建築とは程遠い存在でもあり、どのタイミングで建替えするかは大きな課題です。これまで見てきたように、朝霞市の公共施設では、昭和40年代後半～昭和50年代にかけて建築された建物群が多く、平成27年以降の30年間で負担が大きいのということが明らかになっています。ここでは、具体的にその推計をどのように行ったのかをご説明します。

基本的には、総務省および一般財団法人地域総合整備財団が提供する「更新費用試算ソフト」の考え方に従い、試算条件を朝霞市の実態に合わせて設定したものとしています。これまでに朝霞市が簡易な方法で更新費用を試算した結果はいくつかありますが、条件設定が若干異なる程度であり、得られた結果はほぼ同水準であるとお考えいただいで構いません。

- ①まず、建物の棟ごとに建築年と構造を調査しました。
- ②構造ごとに、耐用年数を設定しました。よく用いられるのは、表3-2に示した法定耐用年数ですが、これでは実態にくらべて短いということもあり、今回の推計では表6-1のように設定しました。

表6-1：建物構造別の設定耐用年数

建物の構造	耐用年数
木造（W造）	40年
鉄骨造（S造） コンクリートブロック造（CB造）	50年
鉄筋コンクリート造（RC造） 鉄骨鉄筋コンクリート造（SRC造）	60年

- ③これで、各棟ごとの建替え年が決定されます。
- ④次に、施設類型と構造からなる「建替え時の建設単価」を設定しました。これは延床面積1㎡あたりいくらかで建替えできるかを設定するものです。基本となる価格水準は、更新費用試算ソフトの初期設定値を用い、朝霞市の実情などから若干の補正を加えたものです。表6-2に建替え時の建設単価を示します。

表 6-2：建替え時の延床面積 1 m<sup>2</sup>あたり建設単価

施設類型	鉄骨鉄筋 コンクリート造 (SRC 造)	鉄筋 コンクリート造 (RC 造)	鉄骨造 (S 造)
市民文化系・社会教育系・産業系・保健福祉系・行政系など	432 千円	400 千円	308 千円
スポーツ・公園系	389 千円	360 千円	277 千円
学校教育系・子育て支援系	356 千円	330 千円	254 千円

- ⑤建替え時の条件としては、同一構造、同一延床面積を基本とし、木造とコンクリートブロック造については鉄骨造で代替する考え方としました。
- ⑥これらにより、すべての施設の建替え年と建替え価格が決まります。

以上の方法を用いて、公共施設の更新(建替え)費用をまとめたものを図 6-1 に示します。

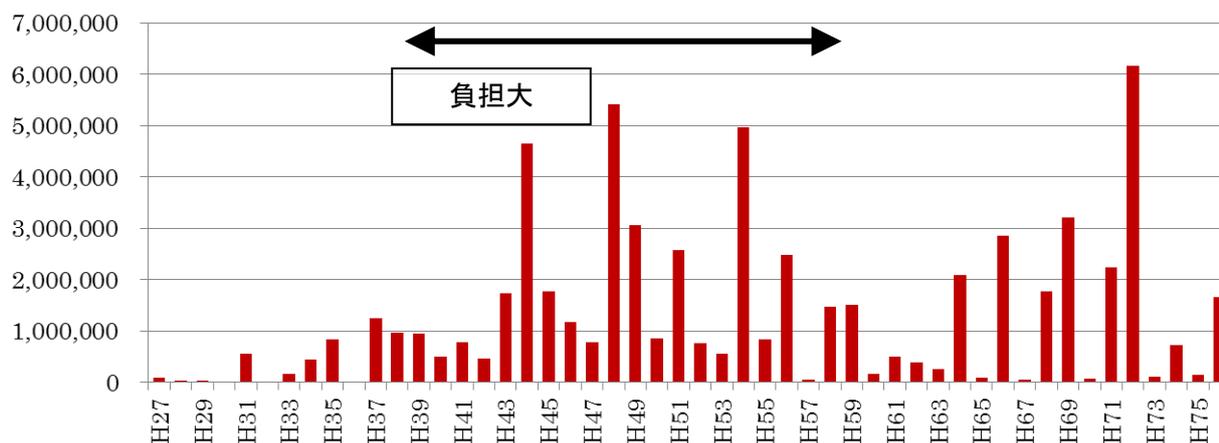


図 6-1：公共施設の更新費用 (単位：千円)

この結果によれば、今後 50 年間で総額約 641 億円、年平均で約 12.8 億円が必要であり、とりわけ平成 27 年以降の 30 年間に限ってみれば、総額約 386 億円、年平均で約 12.9 億円を要するという結果になっています。

## 2 改修費用の推計

建物は、新築すればそれでおしまい、というわけには行きません。表 6-1 に示した耐用年数まで安全で快適な状態で使えるようにするためには、建物の一生の途中で大規模改修を行うことが不可欠です。この大規模改修の費用については、以下の方法を用いて推計しました。

- ①大規模改修のタイミングは、表 6-1 の耐用年数のちょうど中間としました。例えば RC 造では、耐用年数が 60 年と設定していますので、30 年目で大規模改修を行う設定にしました。大規模改修実施を設定した年数を表 6-3 に示します。

表 6-3：建物構造別の大規模改修実施年数

建物の構造	実施年数
木造 (W 造)	20 年
鉄骨造 (S 造) コンクリートブロック造 (CB 造)	25 年
鉄筋コンクリート造 (RC 造) 鉄骨鉄筋コンクリート造 (SRC 造)	30 年

- ②大規模改修の価格は、更新費用試算ソフトの初期設定では、延床面積 1 m<sup>2</sup>あたり新築費用の 60%になっていますが、コスト縮減を考慮して、新築費用の 50%として設定しました。表 6-4 に設定単価を示します。木造、コンクリートブロック造については、鉄骨造の単価を準用しました。

表 6-4：大規模改修時の延床面積 1 m<sup>2</sup>あたり単価

施設類型	鉄骨鉄筋 コンクリート造 (SRC 造)	鉄筋 コンクリート造 (RC 造)	鉄骨造 (S 造)
市民文化系・社会教育系・産業系・保健福祉系・行政系など	216 千円	200 千円	154 千円
スポーツ・公園系	195 千円	180 千円	139 千円
学校教育系・子育て支援系	178 千円	165 千円	127 千円

- ③大規模改修は、建替えを実施したあとも当然必要になってきます。この「2 回目の大規模改修」も同時に計算して積上げています。
- ④これらにより、すべての施設の大規模改修実施年と価格が決まります。

以上の方法を用いて、公共施設の大規模改修費用をまとめたものを図 6-2 に示します。

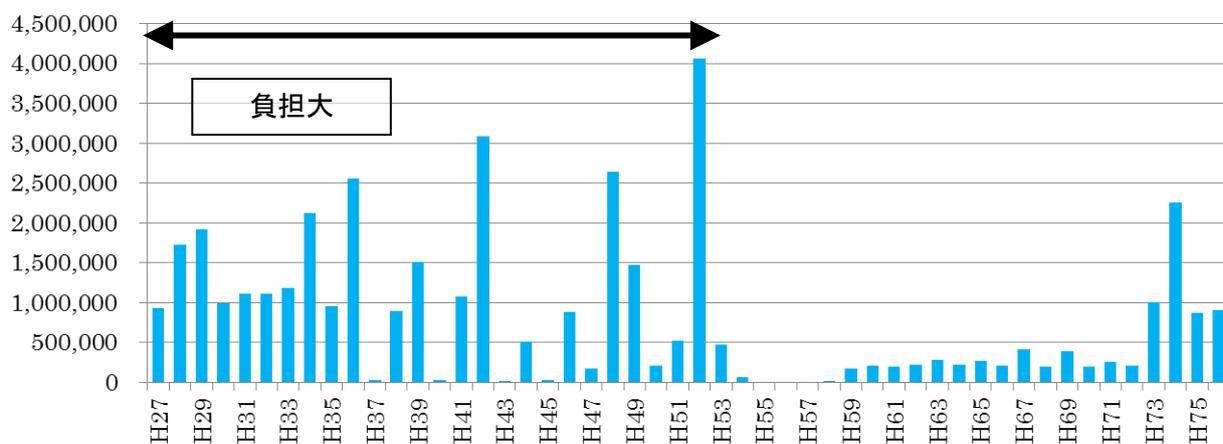


図 6-2 : 公共施設の大規模改修費用 (単位: 千円)

この推計によれば、大規模改修を実施するタイミングが、平成 26 年以前になってしまう施設もあります。これらの改修費用は合計で約 185 億円分あり、改修工事の約半分が終了しているものと仮定して、残り半分は平成 27 年以降の 10 年間で按分するように計算しています。

この結果によれば、今後 50 年間で総額約 408 億円、年平均で約 8.2 億円が必要であり、とりわけ平成 27 年以降の 30 年間に限ってみれば、総額約 323 億円、年平均で約 10.8 億円を要するという結果になっています。

### 3 更新・改修費用の合計

公共施設の更新（建替え）費用と、大規模改修費用を合計したものを図 6-3 に示します。

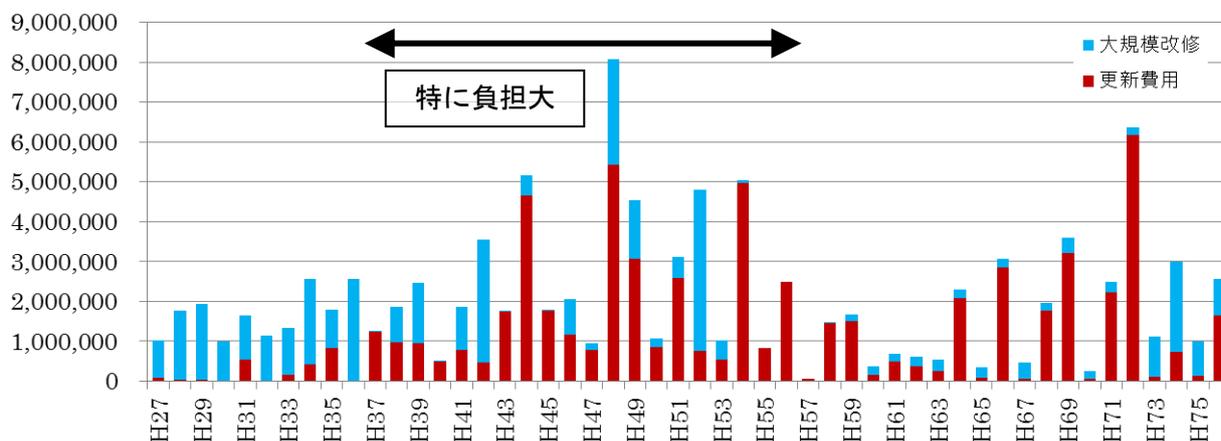


図 6-3：公共施設の更新・大規模改修費用合計（単位：千円）

この結果によれば、今後 50 年間で総額約 1050 億円、年平均で約 21.0 億円が必要であり、とりわけ平成 27 年以降の 30 年間に限ってみれば、総額約 710 億円、年平均で約 23.7 億円を要するという結果になっています。実際には道路や橋梁などのインフラ分などの負担も加わってくることになります。

### 4 コスト削減策の検討

では、どうすればこれらのコストを削減できるでしょうか。一般的に考えられるのは、以下の 2 つの対策です。

対策①：長寿命化工事を行って、耐用年数を延ばす。

対策②：公共施設全体の延床面積を減らす。

まず、対策①については、鉄筋コンクリート造（RC 造）を例に考えてみます。設備を除いた躯体部分（鉄筋コンクリートでできた柱・梁・壁・床などの部分の総称）は、良好な条件であれば約 100 年は持つといわれています。これに比べて、電気、上下水道、空調などの設備関係は比較的寿命が短いとされます。したがって、これらの特性に応じた大規模改修を適切に行うことで、一定の長寿命化が可能であると考えられます。

表 6-1 では、鉄筋コンクリート造（RC 造）の建物の耐用年数を 60 年と設定しましたが、大規模改修にあわせて長寿命化工事を行うことで、更新時期の分散を図ることができます。長寿命化工事による延命効果を、構造にかかわらず一律 20 年延長できるものと仮定し、長

寿命化を伴う大規模改修は延長した寿命の半分、例えば鉄筋コンクリート造（RC造）では40年目で実施する想定としました。一方で、大規模改修に要する費用は、長寿命化工事の付加によって増える傾向にありますので、新築費用の60%を要するものと仮定します。この条件で試算すると、図6-4のようになります。比較しやすいように、縦軸の最大値は図6-3と揃えています。

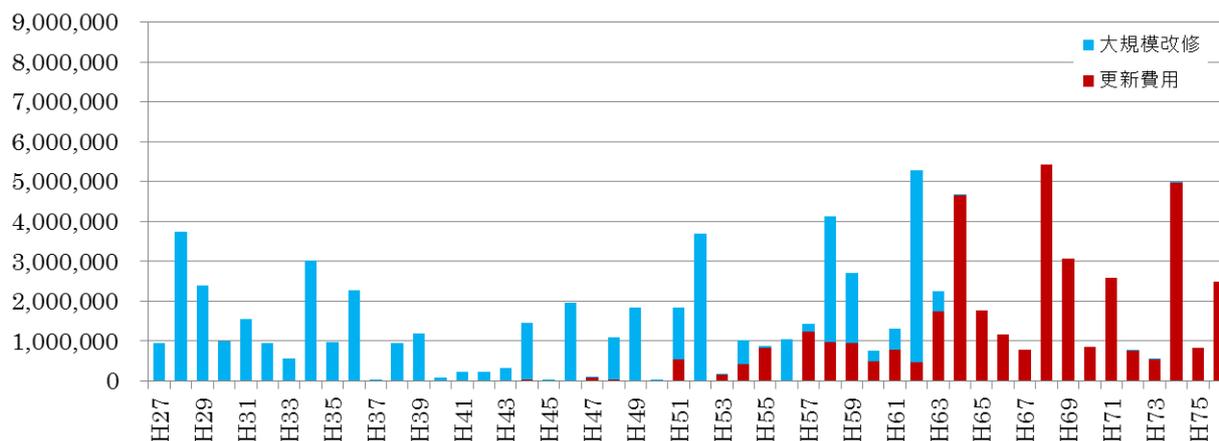


図6-4：長寿命化を実施した場合の更新・大規模改修費用合計（単位：千円）

この結果によれば、今後50年間で総額約835億円、年平均で約16.7億円が必要であり、とりわけ平成27年以降の30年間に限ってみれば、総額約357億円、年平均で約11.9億円を要するという結果になっています。

全般に毎年の負担が小さくなっており、この案であれば、50年間合計では約20.5%、平成27年以降の30年間合計では約49.8%の費用縮減ができることになります。

長寿命化は、ともすれば「単なる負担の先送り」にも見えますが、建物のライフサイクルコスト、すなわち新築から取壊しまでのすべての費用を年あたりで平均して考えると、適切な長寿命化工事が行われる前提で、寿命が長いほど年あたりの負担は減少することがお分かりだと思います。限りある資源の有効活用の観点からも、今あるものを大切に使うべきであると考えられます。

一方、対策②については、具体的にどの施設を削減対象とするかを特定せず、全ての施設を対象に一律削減したとすると、延床面積削減割合が、これまで見てきた結果の金額に直接反映されます。

これらの対策を単独、または組み合わせて実施した場合、理論上どの程度費用が縮減できるかを試算した結果を表6-5と図6-5に示します。

表 6-5：費用縮減策ごとのコスト比較（単位：百万円）

策 A	策 B	策 C	30 年間		50 年間		50 年間の削減率
			総額	年平均	総額	年平均	
		対策なし	70,963	2,365	104,951	2,099	—
○			35,658	1,189	83,454	1,669	△20.5%
	○		63,867	2,129	94,456	1,889	△10.0%
		○	56,770	1,892	83,961	1,679	△20.0%
○	○		32,092	1,070	75,108	1,502	△28.4%
○		○	28,526	951	66,763	1,335	△36.4%

策 A：長寿命化 20 年、策 B：延床面積 10%減、策 C：延床面積 20%減

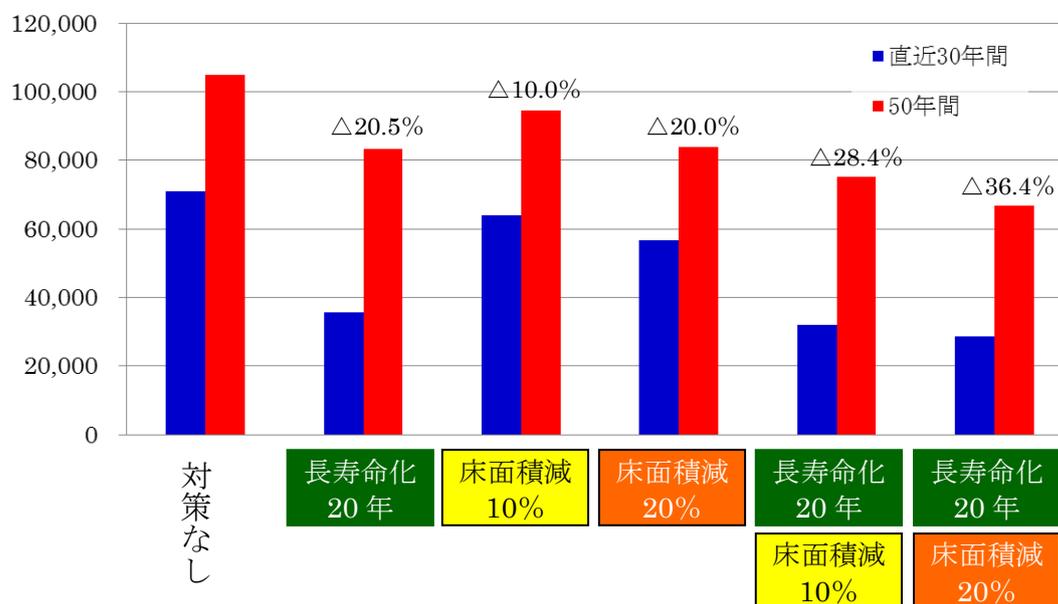


図 6-5：費用縮減策ごとのコスト比較（単位：百万円）

## おわりに

今回の公共施設白書は、「現状の把握」を主な内容としました。浮き彫りになった現状を踏まえて、今後どのように公共施設を維持管理していくのか、その大きな方向性と、それを実現する手法については、「公共施設等総合管理計画」で詳しく検討する予定としています。また、この白書ではいわゆる「ハコモノ」だけを記述対象としましたが、道路、橋梁、上下水道、クリーンセンターなどの分野についても、「公共施設等総合管理計画」で記述する予定です。

公共施設を取り巻く状況は、日々変化を続けています。状況の変わり目を捉え、さらに分かりやすい白書を目指して、今後、定期的な内容更新を目指して取り組んでいきます。

## 朝霞市公共施設白書

～公共施設の「今」を知り、「明日」を考える～

発行 : 朝霞市 平成 26 年 10 月

編集 : 朝霞市総務部財産管理課

〒351-8501 朝霞市本町 1-1-1

電話 : 048 (463) 1111 (代表)

FAX : 048 (467) 0770

電子メール : [zaisan\\_kanri@city.asaka.saitama.jp](mailto:zaisan_kanri@city.asaka.saitama.jp)